

加古川市

片山遺跡・皿辻遺跡

— 東播磨南北道路北工区（主要地方道加古川小野線）道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —



令和 6（2024）年 3 月

兵庫県教育委員会

加古川市

片山遺跡・皿辻遺跡

— 東播磨南北道路北工区（主要地方道加古川小野線）道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

令和6（2024）年3月

兵庫県教育委員会



片山遺跡 遠景（南東から）



片山遺跡 C 地区 SK300 遺物出土状況（南から）



片山遺跡 C 地区 SK300 出土遺物



片山遺跡 C 地区 SK300 出土墨書土器 (報告番号 62)

例 言

- 1 本書は、兵庫県加古川市八幡町に所在する、片山遺跡・皿辻遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本発掘調査は、東播磨南北道路北工区（主要地方道加古川小野線）道路改築事業に伴い、兵庫県東播磨県民局加古川土木事務所の依頼により、兵庫県教育委員会が2017年度・2018年度に実施した。また整理業務は、同事務所の委託により、2021年度～2023年度に、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部において実施した。

【確認調査】 実施機関：兵庫県立考古博物館 埋蔵文化財課
2016年10月31日～2017年1月10日
調査担当者：村上泰樹

【本発掘調査】

片山遺跡（A・B地区）

実施機関：公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター
2017年4月10日～2017年8月10日
調査担当者：久保弘幸・新田宏子

片山遺跡（C地区）

実施機関：公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター
2018年9月13日～2019年1月25日
調査担当者：垣内拓郎・三好愛美

皿辻遺跡

実施機関：公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター
2017年4月10日～2017年8月10日
調査担当者：久保弘幸・新田宏子

【整理事業】 実施機関：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部
2021年度～2023年度

- 3 本書の執筆・編集は、(公財)兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部の久保弘幸・大嶋昭海が担当した。執筆分担は久保（第1章～第4章第1節・第2節、第5章、第7章第2節）、大嶋（第4章第3節、第7章第1節）である。
- 4 遺構面の基本図化（1/50）は、空中写真測量によって実施し、個別遺構の詳細図化は調査担当者が実施した。
- 5 遺物写真撮影は、2023年度に、(株)地域文化財研究所に委託して実施した。
- 6 自然科学的分析については、下記のとおり委託して実施し、その成果は本書に収録している。
片山遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）：(株)加速器分析研究所

- 7 本書中の図で示した方位は、調査地点における世界測地系の座標に基づく。また、標高は東京湾平均海水準を基準とした。
- 8 本書中で用いた地層および土器の色調の記号番号は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』によっている。
- 9 本発掘調査および本書に関連する図面・写真・出土遺物は、すべて兵庫県立考古博物館において保管している。

【凡 例】

本文ならびに挿図中・表中で用いた遺構・遺物の略称は次のとおりである。

SP：柱穴	SB：掘立柱遺構・建物跡	SK：土坑
SD：溝	SX：その他の遺構	SF：畦畔

図版における青線は竪穴建物の掘方を示す。

遺物番号の付与は下記のようにした。

土器：数字　石器：頭文字にS+数字、　金属製品：頭文字にM+数字

その他、弥生土器・土師器・瓦質土器は断面白抜き、須恵器は断面黒塗り、陶磁器は網掛けに統一した。

本文目次

第1章 遺跡の位置と環境	
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	2
第2章 調査の概要	
第1節 調査に至る経緯	6
第2節 調査の概要	6
第3節 整理事業の概要	8
第3章 片山遺跡A・B地区	
第1節 本発掘調査区の層序と遺構面	9
第2節 遺構と遺物	9
第3節 小結	14
第4章 片山遺跡C地区	
第1節 本発掘調査区の層序と遺構面	16
第2節 遺構と遺物	16
第3節 小結	29
第5章 皿辻遺跡	
第1節 本発掘調査区の層序と遺構面	32
第2節 遺構と遺物	32
第3節 小結	33
第6章 自然科学的分析	
片山遺跡における放射性炭素年代(AMS測定)	(株)加速器分析研究所 34
第7章 結語	
第1節 片山遺跡	37
第2節 皿辻遺跡	37
報告書抄録	

巻頭図版

巻頭図版1上 片山遺跡 遠景(南東から)	巻頭図版2上 片山遺跡C地区 SK300出土遺物
下 片山遺跡C地区 SK300	下 片山遺跡C地区 SK300出土墨書
遺物出土状況(南から)	土器(報告番号62)

挿 図 目 次

第1図	遺跡の位置	1
第2図	周辺の遺跡	3
第3図	片山遺跡A・B地区出土の石器・金属製品	14
第4図	皿辻遺跡出土染付磁器	32
第5図	暦年較正年代グラフ	36
第6図	片山遺跡発掘調査区	37

表 目 次

第1表	片山遺跡・皿辻遺跡調査一覧	6
第2表	片山遺跡C地区 掘立柱建物跡一覧	30
第3表	片山遺跡C地区 土坑等一覧	31
第4表	放射性炭素年代測定結果	35
第5表	放射性炭素年代測定結果	36
第6表	掲載遺物一覧表	39

図 版 目 次

図版1	片山遺跡・皿辻遺跡調査区位置図	図版14	C地区南壁・南東壁断面図
図版2	片山遺跡A・B地区全体図	図版15	C地区弥生時代～古墳時代遺構位置図
図版3	A・B地区南壁・西壁断面図	図版16	C地区掘立柱建物跡位置図
図版4	A・B地区弥生時代の遺構全体図	図版17	C地区SH120(1)
図版5	A・B地区江戸時代の遺構全体図	図版18	C地区SH120(2)・SH121・SK372
図版6	A・B地区弥生時代の遺構(1) SD25・SD40・SD41	図版19	C地区SH131(1)・SK43・SD349(1) SD356(1)・SD358(2)・SD367
図版7	A・B地区弥生時代の遺構(2) SD41・SX46	図版20	C地区SH31(2)・SK349(2)・SD356(2) SD358(2)・SD367(2)
図版8	A・B地区弥生時代の遺構(3) SX46・SK26・SK30	図版21	C地区SB1・SB2
図版9	A・B地区弥生時代の遺構(4) SD61	図版22	C地区SB3
図版10	A・B地区江戸時代の遺構(1) SB1	図版23	C地区SB4・SB5
図版11	A・B地区江戸時代の遺構(2) SB2	図版24	C地区SB6
図版12	A・B地区その他の遺構 SD2・SD51・SX62・SX1	図版25	C地区SB7
図版13	片山遺跡C地区全体図	図版26	C地区SB8
		図版27	C地区土坑位置図
		図版28	C地区土坑(1) SK1・SK3・SK5・SK7
		図版29	C地区土坑(2) SK35・SK45・SK46

図版30	C地区土坑③ SK104・SK112・SK113・SK114・SK115 SK118・SK119
図版31	C地区土坑④ SK123・SK124・SK159・SK161・SK164 SK165・SK167
図版32	C地区土坑⑤ SK169・SK170・SK176・SK178・SK180
図版33	C地区土坑⑥ SK181・SK187・SK188・SK191・SK194 SK195・SK196・SK198・SK201
図版34	C地区土坑⑦ SK202・SK203・SK211・SK212・SK213 SK214
図版35	C地区土坑⑧ SK215・SK217・SK218・SK221・SK223 SK224・SK225・SK236
図版36	C地区土坑⑨ SK238・SK249・SK250・SK254・SK270 SK286・SK302・SK306・SK315

図版37	C地区土坑⑩ SK300
図版38	C地区土坑⑪ SK311・SK319・SK333・SK335・SK337 SK338・SK339・SK344・SK348
図版39	C地区溝位置図
図版40	C地区溝① SD125・SD138・SD144・SD145・SD360 SD361・SD362
図版41	C地区溝② SD2・SD4・SD199・SD205・SD208 SD230・SD240
図版42	片山遺跡A・B地区出土遺物
図版43	片山遺跡C地区出土遺物①
図版44	片山遺跡C地区出土遺物②
図版45	皿辻遺跡全体図・南壁断面図
図版46	皿辻遺跡遺構 SD4・SD5・SF6・SF7・SP1・SP2・SP3 SP8

写真図版目次

片山遺跡 A・B地区

写真図版1	調査区全景（空中写真：南から） 調査区全景（空中写真：北東から）
写真図版2	B地区全景（空中写真：東から） B地区全景（空中写真：北から）
写真図版3	A地区全景（空中写真：北から） A地区全景（空中写真：西から）
写真図版4	A地区全景（西から） A地区東壁断面（西から）
写真図版5	B地区全景（南から） B地区全景（北から）
写真図版6	B地区掘立柱遺構群（南から） B地区掘立柱遺構群（北から）
写真図版7	B地区南壁断面（北東から） B地区南壁断面西端（北から） B地区西壁断面南端（東から）

写真図版8	SD40西壁断面（東から） SD41西壁断面（東から） SD41東西断面（南西から）
写真図版9	SD41下底焼土検出状況（東から） SD41遺物出土状況（西から） SD46西壁断面（南東から）
写真図版10	SD46遺物出土状況（西から） SD46A断面（南西から） SD46B検出状況（北西から）
写真図版11	SD46B断面（南東から） SD61東西畦西半（南から） SD61東西畦東半（南から）

写真図版12 SD25遺物出土状況（北西から）
SD25断面（北西から）
SK26断面（北西から）

写真図版13 SK30断面（南西から）
SK30断面（南東から）
SK30完掘状況（北東から）

写真図版14 SX1西側断面（南東から）
SX1東側断面（南東から）
SD48（左）・SD49（右）断面
（北東から）

写真図版15 SK12断面（北東から）
SD2断面（西から）
SD29断面（東から）
SD51断面（西から）
SX62検出状況（東から）
SX62完掘状況（西から）
SX62断面（南から）
SP67断面（北から）

写真図版16 SD41焼土検出状況（西から）
SD41焼土断面（西から）
作業状況

片山遺跡 C地区

写真図版17 C地区遠景（空中写真：東から）
C地区全景（空中写真：東から）

写真図版18 C地区全景（空中写真：北から）
C地区全景（空中写真：北西から）

写真図版19 C地区垂直写真（左が北）

写真図版20 調査区全景（西から）

写真図版21 C地区全景（東から）
C地区東半堅穴建物群付近（西から）

写真図版22 SH120・SH121検出状況
（北西から）
SH120・SH121検出状況（南から）

写真図版23 SH120・SH121完掘状況（南から）
SH120完掘状況（南から）

写真図版24 SH120高床部除去後（南から）
SH120下層完掘状況（南西から）

写真図版25 SH120東西断面（北から）
SH120東西断面東半（北から）
SH120東西断面西半（北から）

写真図版26 SH120下層東西断面
（床面・高床部断ち割り：北から）
SH120下層東西断面東半
（床面・高床部断ち割り：北から）
SH120下層東西断面西半
（床面・高床部断ち割り：北から）

写真図版27 SH120床面遺物出土状況（東から）
SH120中央土坑検出状況（東から）
SH120中央土坑焼土検出状況
（東から）

写真図版28 SH120中央土坑断面（東から）
SH120中央土坑断面（東から）
SH120中央土坑完掘状況（東から）

写真図版29 SH120焼土断面（西から）
SH120東西断面東側周壁溝断面
（北から）
SH120東西断面西側周壁溝断面
（北から）
SH120 P378断面（東から）
SH120 P381断面（西から）
SH120 P384断面（東から）
SH120 P384遺物出土状況
（北東から）
SH120 P408断面（西から）

写真図版30 SH121完掘状況（南から）
SH121周壁溝北側断面（東から）
SH121中央土坑焼土SK146断面
（西から）
SH121 P149断面（南から）
SH121 P152断面（南から）

写真図版31 SD138とSH120の重複関係
（南から）
SD138断面（南から）
SD138断面A-A'（南から）
SD138断面B-B'（南から）
SD138・SH120断面（北から）
SD145断面（西から）
SD362（北から）

- 写真図版32 SH131全景（東から）
SH131西側周壁溝断面①（南から）
SH131西側周壁溝断面②（南から）
SH131北側周壁溝断面（西から）
- 写真図版33 SB1・SB3（東から）
SB1（西から）
SB2（東から）
- 写真図版34 SB3・SB4（東から）
SB3（西から）
SB4（東から）
- 写真図版35 SB5・SB6（東から）
SB5（東から）
SB6（東から）
- 写真図版36 SB7（西から）
SB8（北から）
SB1 P15断面（南から）
SB1 P22断面（南から）
- 写真図版37 SB2・SB3・SB4
柱穴断面・柱穴内遺物出土状況
P33・P73・P80・P8・P375
P47・P79
- 写真図版38 SB5・SB6・SB7・SB8柱穴断面
P72・P99・P77・P96・P174
P175・P297・P317・P316
- 写真図版39 土坑1)
SK1・SK45・SK46・SK104・SK112
- 写真図版40 土坑2)
SK113・SK114・SK115・SK118
SK119
- 写真図版41 土坑3)
SK123・SK124・SK159・SK161
SK164・SK165・SK167
- 写真図版42 土坑4)
SK167・SK169・SK170・SK176
SK178・SK180
- 写真図版43 土坑5)
SK181・SK187・SK188・SK191
- 写真図版44 土坑6)
SK194・SK195・SK196・SK198
- 写真図版45 土坑7)
SK202・SK203・SK211・SK212
SK213・SK214
- 写真図版46 土坑8)
SK214・SK215・SK217・SK218
SK221
- 写真図版47 土坑9)
SK223・SK224・SK225・SK236
- 写真図版48 土坑10)
SK238・SK249・SK250・SK254
SK270
- 写真図版49 土坑11)
SK300検出状況（北から）
SK300遺物出土状況および上層部分断面（南から）
- 写真図版50 土坑12)
SK300上層遺物出土状況（北から）
SK300上層遺物出土状況（西から）
- 写真図版51 土坑13)
SK300遺物出土状況（北から）
SK300下層断面（北から）
- 写真図版52 土坑14)
SK300下底部遺物出土状況（北から）
SK300完掘状況（北から）
- 写真図版53 土坑15)
SK302・SK306・SK311・SK315
SK319
- 写真図版54 土坑16)
SK319・SK333・SK335・SK337
SK338
- 写真図版55 土坑17)
SK339・SK344・SK346・SK348
- 写真図版56 溝1)
SD2・SD4・SD205・SD208・SD230
SD240・SD356
- 写真図版57 溝2)・その他の遺構
SD358・SD367・SX103
- 写真図版58 片山遺跡A・B地区出土遺物1)
- 写真図版59 片山遺跡A・B地区出土遺物2)
- 写真図版60 片山遺跡C地区出土遺物1)
- 写真図版61 片山遺跡C地区出土遺物2)
- 写真図版62 片山遺跡C地区出土遺物3)
- 写真図版63 片山遺跡C地区出土遺物4)

目次遺跡

- | | | | |
|--------|--|--------|--|
| 写真図版64 | 調査区全景（空中写真：南から）
調査区全景（空中写真：東から） | 写真図版69 | SD4・SD5東壁断面（西から）
SD5・SF7（北から）
SD5・SF7断面（北から） |
| 写真図版65 | 調査区全景（空中写真：北から）
調査区全景（空中写真：西から） | 写真図版70 | SP1断面（南から）
SP3断面（南から）
SP2検出状況（東から）
SP2断面（南から）
SP8検出状況（南から）
作業状況 |
| 写真図版66 | 完掘状況（西から）
完掘状況（北から） | | |
| 写真図版67 | 調査区南壁断面（北東から）
調査区南壁断面（北から）
調査区南壁断面（北から） | | |
| 写真図版68 | 調査区南壁断面（SD5部分：北から）
SD4・SD5検出状況（西から）
SD5検出状況（西から） | | |

第1章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

兵庫県最大の河川である加古川は、丹波山塊の深部である栗鹿山に源を発し、山地帯を流れる上流部から北播磨地域を流下する中流域、そして流域に広い沖積平野を形成しつつ流れる下流域を経て瀬戸内海に至る。流路延長は96km、流域面積は1,730km²を測る。

中流域と下流域との境界は、加古川市と小野市・三木市の市境付近にある。加古川と支流の美養川の合流点北側では、東から正法寺山が、西から坊主山が加古川に迫っている。二つの山塊の間は幅わずか400m強で、河岸に立つ門のような景観を見せており、これより南が下流域とされている。

片山遺跡・皿辻遺跡は、加古川が下流域に入って間もない、加古川市八幡町下村に所在する。遺跡は加古川左岸の大阪層群からなる高位段丘上に位置している¹。遺跡が立地する高位段丘上面は標高約40mを測り、眼下の沖積平野との比高差は20～25mを測る。丘陵上は、現在は農地として開墾されている。

両遺跡からは、北側（加古川上流方向）への眺望が開けており、上述の正法寺山・坊主山などを望むことができる。転じて南には加古川流域の平野部を望むという、眺望に恵まれた立地にある。また、丘陵縁辺部に刻まれた開析谷には、農業用水を確保するためいくつもの溜池が築かれて、この地域独特の景観を作り出している。その一方で、開墾が困難な段丘崖には、コナラやアベマキを主体とする二次林が残されて、里山林として利用されてきた。



第1図 遺跡の位置

第2節 歴史的環境

【後期旧石器時代】

東播磨地域は、後期旧石器時代遺跡についての知見は、これまでのところ多いとは言えない。『日本列島の旧石器時代遺跡』データベース（日本旧石器学会編 2018）によれば、明石市・加古川市・稲美町・播磨町の東播磨地域東部4市町では、81か所の後期旧石器時代遺跡が知られており、このうちナイフ形石器を出土した遺跡は49遺跡を数える。しかしそのほとんどは表面採集、ないしは原位置を遊離した資料であり、発掘調査によって安定した地層中から石器群が見いだされた例は、明石市西脇遺跡の1例のみである（稲原昭嘉 1996）。このほか加古川本・支流を遡った領域でも、河川に沿う段丘・丘陵上に多数の遺跡が知られている。

東播磨地域東部の丘陵・段丘上に立地する遺跡の多くでは、明確な瀬戸内技法の工程資料が認められないが、横長剥片剥離技術を基盤としたナイフ形石器を基盤とする資料が多く、それらは筆者が示した近畿地方における後期旧石器文化の第Ⅲ段階に位置づけられる（久保弘幸 1994・2014）。

片山遺跡・皿辻遺跡（1・2）の直近では、美養川との合流点から加古川をやや遡った右岸に、勝手野遺跡がある。勝手野遺跡では、始良Tn火山灰層より下位から、筆者の編年による第Ⅰ段階前半期に位置づけられる可能性がある、台形石器を伴う小規模な石器群が出土している（兵庫県教育委員会 2020）。

今回の発掘調査でも、片山遺跡A・B地区より、風化が強く進行したサヌカイトの二次加工のある剥片が出土していることから、周辺における後期旧石器時代人の活動があったものと推測される。

後期旧石器時代末～縄文時代草創期にあたる細石刃期の遺物が採集された遺跡は、本地域内で5遺跡が知られているが、資料数がわずかであり、今のところ詳細を検討できる状況ではない。

【縄文時代】

東播磨東部では、これまでのところ縄文時代の遺跡自体が希薄であり、全期間を通して不明な点が多い。片山遺跡・皿辻遺跡周辺においても、状況は同様であるが、隣接する北播磨南部～東播磨西部まで視野を広げて概観するならば、いくつかの遺跡を挙げることができる。

草創期 『日本列島の旧石器時代遺跡』データベース（日本旧石器学会編 2018）によれば、東播磨東部の4市町で、有茎尖頭器出土遺跡が7か所知られており、草創期のある段階に人類活動があったことを物語っている。しかしいずれも原位置を遊離した有茎尖頭器のみの出土であり、当該期の土器の出土例もない。本地域に限らず、近畿地方では有茎尖頭器を主体とした石器群の出土例は少なく、土器群との供伴例もわずかしかない。草創期の集落等の実態については不明の点が多く、今後の課題である。

早期～前期 片山遺跡・皿辻遺跡周辺地域では、確実に縄文時代早期に属する遺跡は知られておらず、当該期の土器が出土した例もない。なお、加古川の最下流域に位置する高砂市域には、前後半～晩期にわたる日笠山貝塚がある。

中期 この時期の遺跡も顕著なものはないが、加古川中流域にある、支流の万願寺川右岸に位置する加西市堀山遺跡で、石ヒ・大型剥片を副葬した集石墓が検出されており、埋土中より船元Ⅱ式土器が出土している。

後期 印南野台地が加古川に迫った位置にある宮山遺跡（11）で、後期の敷石住居が検出されているほか、加古川市志方町の東中遺跡では元住吉山式期の土器が出土している。また中流域に位置する小野市高田小山ノ下遺跡で、当該期の土器が出土している。

晩期 加古川右岸に位置する岸遺跡で、晩期後半の土器が弥生時代前期の土器とともに出土している。



- 1 片山遺跡 2 皿辻遺跡 3 宗佐遺跡 4 宗佐南遺跡 5 大日山遺跡 6 下村古墳
 7 前谷遺跡 8 望塚(盆塚) 9 東沢1号墳 10 下村遺跡 11 宮山遺跡
 12 宮山大塚古墳 13 宮山1～6号墳 14 成福寺1～4号墳 15 池ノ尻古墳 16 橋磨堂遺跡
 17 古堂庵寺 18 上村池遺跡 19 西田池1～3号墳 20 天王山1・2号窯 21 天王山1～3号墳
 22 野村古窯跡1～4号窯 23 野新村1号墳 24 野新村古墳 25 野新村古窯跡1～3号窯
 26 野村遺跡 27 野村構居跡 28 野村1～3号墳 29 宗佐構居跡 30 下石野上御遺跡
 31 下石野西角散布地 32 下石野1・2号墳 33 王子山1～14号墳 34 王子神社経塚
 35 下石野坂芝遺跡 36 石野田中散布地 37 猫池遺跡

第2図 周辺の遺跡 (1/25,000)

また加古川下流域の左岸では、坂元遺跡で晩期の土器が出土している。

【弥生時代】

前期 加古川流域の前期の遺跡は多いとは言えないが、縄文時代晩期の土器とともに弥生時代前期の土器が出土した遺跡として、先述の岸遺跡のほか、東神吉遺跡、砂部遺跡、溝ノ口遺跡、美乃利遺跡などが挙げられる。砂部遺跡では、当該期の焼成土坑、溝などが検出されており、美乃利遺跡では当該期の水田跡が検出されている。

中期 加古川下流域では、左岸を中心に坂元遺跡・溝ノ口遺跡・美乃利遺跡・大野遺跡など、中期の大規模な集落が成立する。このうち溝ノ口遺跡では、竪穴建物跡のほか、方形周溝墓、水田跡等がみつがっている。この他にも、西条庵寺下層遺跡、長畑遺跡、平山遺跡などが、中期後半に成立する。

後期 後期には、坂元遺跡、北在家遺跡、砂部遺跡などに集落が成立する。また弥生時代終末期から古墳時代初頭にかけては、片山遺跡北方の丘陵および丘陵裾の扇状地に、宗佐遺跡(3)が成立する。宗佐遺跡では当該期の多角形建物を含む竪穴建物跡群が検出されている。

これらの他に、片山遺跡直近では、播磨堂遺跡(16)、猫池遺跡(37)、下村遺跡(10)、大日山遺跡(5)、野村遺跡(26)などが、弥生時代の遺跡として知られているが、遺跡の詳細については不明の点が多い。

後期後半には、加古川左岸の丘陵上に複数の墳丘墓が築造される。そのうち西条52号墓では、竪穴式石室(木蓋)内に内行花文鏡、鉄剣が副葬され、弥生土器が出土している。

青銅器の出土 ふたつの注目すべき事例がある。まず、加古川中流域と下流域を画する三木市正法寺山山頂の東側鞍部では、中細c類に分類される銅剣が出土している。また片山遺跡と同一丘陵上にある望塚(8)では、大正年間に、扁平鈕式新段階の六区製装禪文銅鐸が出土している(難波洋三ほか 2015)。

【古墳時代】

前期古墳 加古川下流域では、前期に大型古墳が築造されるようになり、当該期には東播磨の中心的地域であったと考えられる。特に日岡丘陵～西条にかけては、前方後円墳がまとまって築造されている。日岡丘陵の最高所に築かれた裾墓古墳(播磨稲日大郎姫命日岡陵に治定)は、全長85mを測る前方後円墳である。この裾墓古墳を中心に、西大塚、南大塚、勅使塚の3基の前方後円墳、20基超の円墳が群集する。

中期古墳 中期には西条古墳群が成立する。西条古墳群の中核をなすのは、大型前方後円墳である行者塚古墳(全長100m)、帆立貝型の人塚古墳(61.5m)、尼塚古墳(51m)である。行者塚、人塚は5世紀前半、尼塚は5世紀中葉の築造とされている。最大規模をもつ行者塚古墳は、調査によって、4か所に造り出しを持つ形態であることが明らかにされたほか、円筒埴輪列、食物を模した多数の土製品が検出されている。主体部は調査されていないが、その上面までの調査によって、金銅製帯金具等の副葬遺物が出土しており、当該期における加古川下流域の王墓のあり方を明らかにする成果となっている。

また片山遺跡、皿辻遺跡西に位置する東沢1号墳(9)では、調査によって初期須恵器が出土しており、中期初頭に属する古墳とされている。

後期古墳 古墳時代後期には、片山遺跡、皿辻遺跡周辺の丘陵、段丘上に、古墳群が形成されるが、その内容について明らかにされているものは少ない。加古川対岸の平荘古墳群は、かつて100基を超える古墳群であったとされる。平荘古墳群内の池尻16号墳は、大型両袖式横穴式石室を持つ方墳である。

生産遺跡 片山遺跡・皿辻遺跡の直近にも、野村古窯跡群(22)、野新村古窯跡群(25)などが、古墳時代の窯跡として知られている。

【奈良時代以降】

生産遺跡 東播磨～北播磨地域では当該期には須恵器生産が活発化し、奈良時代以降、平安・鎌倉時代を通して多くの窯跡(群)が成立する。加古川市域北部を見ると、志方窯跡群、白沢窯跡群などが、さらに三木市の久留美跡部窯跡群などが山陽自動車道の建設に伴って調査され、奈良時代～平安時代の須恵器生産の状況が明らかにされている。さらには神戸市西区の神出窯跡群では、平安時代～鎌倉時代にわたる多数の窯跡が調査されており、これら東～北播磨地域の窯跡群出土資料は、当該期の須恵器編年の基礎資料となっている。

集落遺跡・寺院 須恵器生産という産業の発展に伴い、従来の農村的集落に加えて、窯業に係わる集団による集落も成立していったものと思われるが、これまでのところ飛鳥～奈良時代の集落に関する知見は乏しい。しかし加古川流域では奈良時代初頭以降、西条庵寺をはじめとする古代寺院の建立が進んでおり、生産力の増大とともに、集落の形成も進展したと思われる。今回、片山遺跡C地区で検出された掘立柱建物跡群は平安時代後期に属しており、丘陵地帯の開墾などとの関わりが深いものと思われる。

注

1 『兵庫の地質』（兵庫県土木地質図編纂委員会 1996）によれば、大阪層群上部亜層群の堆積面が高位段丘面であると結論づけている。

参考文献

- 日本旧石器学会編 2018 『日本列島の旧石器時代遺跡—日本旧石器（先土器・岩宿）時代遺跡データベース—』
- 稲原昭喜 1996 「明石市西脇遺跡出土の石器群について」『旧石器考古学』52 旧石器文化談話会
- 坂江 渉 2010 『播磨国風土記を通してみる古代地域社会の復元的研究』
- 久保弘幸 1994 「瀬戸内技法を伴う石器群の変遷」『瀬戸内技法とその時代』中・四国旧石器文化談話会
- 久保弘幸 2014 「西日本後期旧石器文化の編年と瀬戸内技法」『旧石器考古学』79 旧石器文化談話会
- 難波洋三ほか 2015 「兵庫県加古川市望塚出土銅鐸の研究」『兵庫県立考古博物館研究紀要』第8号
- 兵庫県教育委員会 2012 『東沢1号墳』
- 兵庫県教育委員会 2020 『兵庫県遺跡地図』

第2章 調査の概要

第1節 調査に至る経緯

今回実施した発掘調査は、兵庫県東播磨県民局加古川土木事務所が実施する、(主)加古川小野線道路改築事業(東播磨南北道北工区)に先立つものである。兵庫県教育委員会では、2016年度に、事業計画に基づいて、事業対象地(加古川市)の分布調査を実施した。この分布調査によって遺物が採集された地点のうち、93地点～95地点、97地点、98地点について、2016年度に確認調査を実施し、94地点、97地点、98地点において遺構が検出された。

以上の経緯を受け、兵庫県東播磨県民局長より、兵庫県教育委員会に対して本発掘調査の依頼がなされ(東播(加土)2017年2月16日付 第1906号)、これに基づいて2017年度に片山遺跡A・B地区および皿辻遺跡の本発掘調査を実施した。残る片山遺跡C地区についても、翌年に本発掘調査の依頼がなされ(東播(加土)2018年8月6日付 第1542号)、これに基づいて同年度に片山遺跡C地区の本発掘調査を実施した。

第1表 片山遺跡・皿辻遺跡調査一覧

年度	遺跡名	調査番号	調査種別	調査期間	担当者	調査面積 (㎡)
平成28 (2016)		2016012	分布調査	2016/4/14・5/27・6/3・ 6/16	山本誠・深江英憲 上田健太郎	126,000
平成28 (2016)	93・94・95 97・98地点	2016048	確認調査	2016/10/31～2017/1/10	村上泰樹	219
平成29 (2017)	片山遺跡A地区	2017004	本発掘調査	2017/4/10～2017/8/10	久保弘幸 新田宏子	689
平成29 (2017)	片山遺跡B地区	2017005	本発掘調査	2017/4/10～2017/8/10	久保弘幸 新田宏子	
平成29 (2017)	皿辻遺跡	2017005	本発掘調査	2017/4/10～2017/8/10	久保弘幸 新田宏子	331
平成30 (2018)	片山遺跡C地区	2018038	本発掘調査	2018/9/13～2019/1/25	垣内拓郎 三好愛美	1,329

第2節 調査の概要

1 分布調査

2016年度の分布調査は、(主)加古川小野線道路改築事業の事業地126,000㎡を対象としておこなわれた。分布調査は地表面の観察により実施した。分布調査の時点では、地表面で観察可能な遺構は見いだされなかったが、須恵器・土師器等の散布が認められた。

2016年度

【調査の体制】

調査主体 兵庫県教育委員会
分布調査担当者 兵庫県立考古博物館総務部埋蔵文化財課
山本 誠・深江英憲・上田健太郎

2 確認調査

確認調査は、分布調査の成果を受けて、遺物が採集された93地点・95地点・97地点・98地点を対象とし、2m×2mを基本とする試掘坑35か所を設定して実施した。調査体制は以下のとおりである。

2016年度

【調査の体制】

調査主体	兵庫県教育委員会
確認調査担当者	兵庫県立考古博物館総務部埋蔵文化財調査部 村上泰樹

調査の結果、試掘坑のうち94地点（皿辻遺跡）、97・98地点（片山遺跡）で遺構が検出された。また98地点では、加古川市教育委員会が2015年度に実施した圃場整備事業に伴う確認調査（雁戸井土地改良区圃場整備事業に伴う確認調査）でも遺構・遺物が検出されていることから、加古川土木事務所に対して、事業予定地内に埋蔵文化財が存在する旨の回答がなされた。

3 本発掘調査

2017年度（片山遺跡・皿辻遺跡）

【調査の体制】

調査主体	兵庫県教育委員会
調査担当者	兵庫県立考古博物館
調査課	久保弘幸・新田宏子

【調査の方法と成果の概要】

片山遺跡A・B地区689㎡、皿辻遺跡331㎡について、本発掘調査を実施した。本発掘調査は、表土および盛土部分については重機によって掘削を実施し、以下については人力による掘削、精査および遺構調査によって実施した。

遺構面の記録は株式会社大設に委託し、空中写真測量によって1/50の基本図化を実施した。また個別遺構の詳細図、地層断面図については、調査担当者が図化作業をおこなった。

2018年度（片山遺跡）

【調査の体制】

調査主体	兵庫県教育委員会
調査担当者	兵庫県立考古博物館
調査課	垣内拓郎・三好愛美

【調査の方法と成果の概要】

片山遺跡C地区I, 329㎡について、本発掘調査を実施した。本発掘調査は、表土および盛土部分については重機によって掘削を実施し、以下については人力による掘削、精査および遺構調査によって実施した。

遺構面の記録は株式会社リオブランに委託し、空中写真測量によって1/50の基本図化を実施した。また個別遺構の詳細図、地層断面図については、調査担当者が図化作業をおこなった。

第3節 整理事業の概要

整理事業は、令和4年度～令和5年度に、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部において実施した。整理事業は、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部整理保存課がこれを主管し、久保・大嶋の担当の下に整理技術員が遺物図化～報告書編集を担当した。

本書に収録した遺物写真については、(株)地域文化財研究所に委託して撮影を実施したほか、放射性炭素年代(AMS測定)を(株)加速器分析研究所に委託して実施し、その成果は本書中に収録している。

なお、本報告書に収録した遺物・写真・図等については、すべて兵庫県立考古博物館に保管している。

令和4年度

整理期間 令和4年4月1日～令和5年3月31日

整理体制 公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部

整理保存課 深江英恵・大嶋昭海・野田優人・西口圭介

調査第二課 久保弘幸

整理技術員 栗山美奈・藤尾裕子・藤田久範(ネーミング)

岡崎眞子・小野潤子・石原香苗・梶原奈津子・亀井彩菜・香山玲子・小林礼子

新山王綾子・菅生真理子・富永愛子・森松沙耶香(接合・補強・復元)

池田悦子・前田陽子・高瀬敬子・平宮可奈子(実測・遺構図補整・トレース・レイアウト)

大前篤子・桂昭子・堀ノ内恵利・和氣坂綾子(保存処理)

整理概要 出土土器のネーミング・接合・補強・復元・実測、金属器保存処理・実測、遺構図の図面補正・トレース・レイアウト、原稿執筆を行った。

令和5年度

整理期間 令和5年4月1日～令和6年3月31日

整理体制 公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部

整理保存課 深江英恵・大嶋昭海・野田優人・稲本悠一

整理技術員 池田悦子(レイアウト)

整理概要 写真撮影、自然科学分析、レイアウト、編集作業を経て報告書を刊行した。

第3章 片山遺跡A・B地区

第1節 本発掘調査区の層序と遺構面

片山遺跡のA・B地区は、調査区としては一体の範囲を占めている。しかし調査対象範囲の南寄りの位置を、農道が横断していたことから調査区を区分し、道路敷を含めて農道より南側をA地区、北側をB地区とした。調査はB地区から実施し、B地区の調査終了後に農道の切り替えをおこない、後にA地区の調査を実施した。この際、農道下に埋設されていた農業用水給水管部分については、延長約50m、最大幅4.5mほどの範囲で調査を除外した。

本発掘調査にあたっては、まず調査区内での地層の堆積状況と層相を把握するため、重機による表土層の除去と平行して、調査区の壁面沿いに地層観察用のトレンチを掘削し、地層の堆積状況を把握しつつ遺構面の調査をおこなった。

南壁では現表土直下に、遺跡が立地する高位段丘を形成する、硬化した赤褐色のシルト～粘土層（地山）が検出された（図版3）。この堆積物は、段丘を構成する大阪層群の、最上部の堆積物と考えられる。地山面は東から西へ緩やかに傾斜して高度を下げるが、この高度差を平坦化して農地とするため、人為的な盛土がおこなわれている（図版3第2層）。また、古土壌層（いわゆる遺物包含層）は、きわめて局所的に遺存するのみであった。

第2節 遺構と遺物

1. 概要

弥生時代の溝状遺構・土坑状遺構、および江戸時代以降の掘立柱遺構・柱穴・土坑・溝を検出した。弥生時代の遺構はB地区北部に分布し、その大部分が調査区外へ延びるため、全体規模や形状などは明らかにならなかった。弥生時代の古土壌層は、調査区北西壁沿いにわずかに遺存するのみで、調査区の大部分において、遺構は現表土である耕土直下の、いわゆる地山面上で検出された。

江戸時代以降に属すると考えられる遺構は、調査区全域に分布しており、掘立柱遺構・柱穴・土坑・溝等が認められる。柱穴の規模はいずれも小さいが、調査区中央部から北部にかけて、企画性のある並びが確認された。土坑は調査区内に散漫に分布する。

2. 遺構と遺物

(1) 弥生時代の遺構と遺物

① 溝状遺構（図版4）

調査区西壁に対して、ほぼ直交する方向で延びる溝状遺構4条が検出されている。これらはほぼ平行するだけでなく、概ね等間隔に並んでいる。後述するように、これらは方形周溝溝を構成する溝状遺構である可能性がある。

SD25

【遺構】（図版6 写真図版12）

調査区中央部に位置する溝状遺構で、東端は調査区外へ延びる。調査区内での延長5.6m、幅1.4m、深

さ10cmを測る。底面はごく緩やかな凹面をなす。内部は砂質シルトで自然埋積されていた。底面に密着した状態で、弥生土器片のまとまった出土がみられた。

【遺物】(図版42 写真図版58)

1と2は甕の口縁部である。く字状に強く屈曲し、いずれも風化による器表面の剥落が目立ち調整は判然としない。3と4は甕の底部である。どちらも僅かな上げ底になっているが、4の方が内面底部に平坦な部分を作出しているのに対して、3は緩やかな尖底状になっている。その他に、図示はしていないが、黄白色を呈する均質な凝灰岩の岩片が複数出土している。

SD40

【遺構】(図版6 写真図版8)

調査区北端部に位置し、調査区を東西に横断する溝状遺構である。検出面での幅4.2m、深さ30cm前後を測り、溝底面は平坦に近い形状を見せる。溝内は砂質シルトを主体とした堆積物で自然埋積されていた。

【遺物】(図版42 写真図版58)

溝内からは弥生土器が出土した。5・6は甕底部である。いずれも風化による器表面の劣化が著しく、成形・調整痕は判然としない部分があるが、5は外面に縦方向の調整痕(ハケもしくはナデ)が観察できる。7は高杯の口縁部である。上面に凸帯を巡らせ、やや肥厚する口縁部外面には、かすかに凹線が遺存している。

SD41

【遺構】(図版6・7 写真図版8・9・16)

調査区西部に位置する溝状遺構である。検出面での延長6.7m、幅3.3m、深さ30cm前後を測り、溝底面は緩やかな起伏をもつ凹面をなす。溝内は砂質シルトを主体とした堆積物で自然埋積されていた。なおSD41上面では焼土が確認された。調査時はSD41とは別の遺構の可能性が考えられたが、放射性炭素年代測定の結果(第6章参照)を踏まえ、SD41に伴う焼土と判断した。よって、SD41掘削後、30cm程度の自然埋積のあった期間を経て、火を用いた行為があったと考えられる。

焼土は延長2m、幅60cmほどの細長い範囲を占め、この範囲に強い被熱部が3か所認められる。焼土内より弥生土器9が出土している。

【遺物】(図版42 写真図版58)

8は甕ないしは壺の底部である。器表面は風化が著しく、成形・調整痕は観察できない。9はSD41上面で検出された焼土より出土した、広口壺の口縁部である。口縁部は大きく外反して開き、端部に面をつくる。頸部はほぼ直立する。器表面は風化が著しく、わずかなユビオサエを除くと、整形・調整痕は観察できない。

SD46

【遺構】(図版7・8 写真図版9～11)

調査区北西部に位置する溝状遺構である。検出面での延長5.4m、幅3m、深さ20cm前後を測り、溝底面は緩やかな起伏をもつものの、平坦に近い形状を見せる。溝内は砂質シルトを主体とした堆積物で自然埋積されていた。

またSD46の南側からは、ごく浅い凹部が分岐し、その中に土坑状の落ち込みが検出されたため、これをSD46A、46Bとして調査した。

SD46Aはやや不整形な小判形を呈し、長径2.64m、短径1.72m、深さ12cmを測る。内部は砂質シルトで自然埋積されていた。SD46Bは不整形な凹部で、長径2.16m、短径1.56m、深さ24cmを測る。ともに遺物は出

土していない。

【遺物】(図版42 写真図版58)

10～12の3点を図示する。10は壺口縁部である。端部を肥厚させてほぼ垂直な外面を作り、綾杉文を施す。11は甕である。器表面は風化の影響が顕著で、調整痕は観察できない。図上では器壁がごく薄く示されているが、器表面の剥落などを考慮すると、もう少し厚みがあったものと思われる。12は甕底部である。外面には縦方向の調整痕(ハケメカ)をかすかにとどめるが、観察は困難である。

SD61

【遺構】(図版9 写真図版11)

調査区西部に位置する溝状遺構である。西端を近世～近代の溝であるSD24に切られる。SD41・SD46と概ね平行に東西方向に延び、東端の部分で直角に折れ曲がる。検出面での延長6.7m、幅3.6m、深さ約30cmを測り、溝底面は緩やかな起伏をもつ凹面をなすものの、概ね平坦に近い。溝内は砂質シルトを主体とした堆積物で自然埋積されていた。

【遺物】(図版42 写真図版58)

13は甕の口縁部である。内面にわずかにナデの痕跡をとどめる。14は甕の体部下半～底部である。器表面の風化が著しく、成形・調整痕は観察できない。

②土坑状遺構(図版4)

SK26

【遺構】(図版8 写真図版12)

調査区中央部に位置する長方形の土坑状遺構で、東端は調査区外へ延びる。調査区内での延長2.0m、幅1.0m、深さ12cmを測る。底面はごく緩やかな凹面をなす。内部は地山のブロックを含む砂質シルトで埋積されており、人為埋積の可能性があると判断された。遺物は出土していない。

SK30

【遺構】(図版8 写真図版13)

調査区中央部に位置する、細長い隅丸長方形をなす土坑状遺構である。延長1.84m、幅64cm、深さ12cmを測る。概ね平坦に掘られている。内部は地山の掘削土によって埋積されており、人為埋積と判断された。明確にSK30に伴う遺物は出土していない。

③その他の遺物(図版42 写真図版59)

15は遺構面精査時に出土した、弥生土器の甕底部である。器表面は風化のため観察困難であるが、外面には縦方向のヘラミガキが施されていた可能性がある。

(2) 江戸時代以降の遺構と遺物

①掘立柱遺構(図版5)

A地区北部からB地区ほぼ全域にわたって、企画性のある配列の小規模な柱穴が多数検出された。調査当初は、掘立柱建物跡の可能性を考慮したが、子細に観察すると、柱穴規模に対して占める範囲が広すぎることに、特にSB1においては柱穴の配列が直角ではなく、明らかな平行四辺形をなすことから、これらは住居としての建物跡ではないと判断し冒頭の名称を与えた。遺構の略称としてはSBを用いる。

SB1

【遺構】(図版10 写真図版6)

B地区中央付近から北西部にかけての範囲を占め、遺構の北～西側は調査区外へ延びる。調査区内では、直径10cm～25cm、深さ12cm～20cmを測る柱穴17基が検出された。東西方向の柱間は3.3m～3.8m、

南北方向の柱間は2.6m～2.8mを測る。

建物跡とすれば、調査区内では4間×5間の、いわゆる「総柱式」にあたる柱の配置となっている。しかし東西・南北の柱列の交差すべてが、平行四辺形的位置関係をとることから、住居施設としての建物跡とは判断し難い。柱穴内からは遺物は出土していない。

SB2

【遺構】(図版11 写真図版6)

A地区北部からB地区中央付近にかけての範囲を占め、遺構の北～東側は調査区外へ延びる。調査区内では、直径10cm～20cm、深さ10cm～20cmを測る柱穴34基が検出された。東西方向の柱間は3.5m～3.9m、南北方向の柱間は2.7m～2.8mを測る。

建物跡とすれば、調査区内では6間×7間の、いわゆる「総柱式」にあたる柱の配置となっている。SB1と異なり、東西・南北の柱列の交差は、概ね長方形である。しかし柱穴の規模と比較して、占める範囲が東西22m、南北19.4mと極めて広いことから、やはり住居施設としての建物跡とは判断し難い。

【遺物】

図化できない資料であるが、SB4を構成するP63内より、江戸時代末の所産と思われる染付磁器の細片が出土している。

②土坑 (図版5)

SK12

【遺構】(図版2 写真図版15)

A地区とB地区の境界付近に位置する長方形の土坑で、長軸1.2m、短軸70cm、深さ20cmを測る。埋土の性状から江戸時代以降と判断した。遺物は出土していない。

③溝 (図版5)

SD2

【遺構】(図版12 写真図版15)

調査区中央に位置し、東西方向に延びる幅35cm、深さ8cm前後の小規模な溝である。図化できない資料であるが、埋土中より所屬時期不明の土師器、須恵器の細片が出土している。埋土の性状から、江戸時代以降と判断した。

SD24

【遺構】(図版2・3 写真図版7)

A・B地区西壁沿いに延びる溝で、西側掘方は調査区外である。B地区南壁の断面観察によれば、溝の最深部は調査区西壁付近にあるものと思われ、幅は4m～5mほどと推定される。溝内は最下層(図版3 第10層)にシルトが堆積し、それを人為埋土(第8層)が覆う。その後は礫混じりの極細砂～細砂で自然埋積している。

【遺物】(図版42 写真図版59)

SD24からは、江戸時代末～近代の陶磁器が出土しており、遺構の所屬年代がこの時期であることは疑いない。他に、埋土中より原位置を遊離した遺物が多数出土している。

16は須恵器杯H蓋である。口縁端部内面に鈍い段を設け、口縁部と天井部を画する稜線も鈍い。17は須恵器杯A身である。底部は回転ヘラ切り後にナデ調整を施す。18は須恵器鉢(捏鉢)である。口縁部を上方に拡張している。端部の整形は丸みをおびており、鈍い印象を受ける。19は磁器碗である。全面に淡青灰色の釉を施しており、見込み部には多くの砂粒が散布するほか、高台底面にも砂が付着する。江戸時代後期以降の所産と考えられる。

SD48・SD49

【遺構】(図版5 写真図版14)

調査区中央部に位置し、南北に並行して延びる溝である。SD48は最大幅65cm、深さ15cm、SD49は最大幅65cm、深さ18cmを測る。図化できない資料であるが、SD49より須恵器鉢と思われる細片が出土している。いずれも埋土の性状から、江戸時代以降と判断した。

SD50・SD51

【遺構】(図版5・12 写真図版15)

調査区中央部に位置し、SD48・SD49に隣接する。東西にほぼ並行して延びる溝である。SD50は最大幅45cm、深さ5cm、SD51は最大幅40cm、深さ5cmを測る。遺物は出土していないが、埋土の性状から、江戸時代以降と判断した。

④その他の遺構(図版5)

SX1

【遺構】(図版12 写真図版14)

調査区中央部に位置する、広く、浅い凹部で、面積は43㎡ほどを占める。全体にわずかに礫を含む細砂で埋積されており、底面はわずかな凹凸を見せつつも、概ね平坦である。図示できる遺物はないが、埋土中より中世段階および所属時期不明の土師器・須恵器とともに、江戸時代末の磁器小片、近代以降のタイルが出土している。

SX62

【遺構】(図版12 写真図版15)

弥生時代の遺構SD61上面で検出され、これを切る不整形な土坑状の遺構として調査した。しかし断面観察から、埋土はほぼ地山と同質の地層であることから、人為的な遺構の可能性は低く、倒木痕等、自然発による成立の可能性を考慮している。

(3) その他の遺物(図版42 写真図版59)

原位置を遊離した遺物、表面採集の遺物等を記載する。

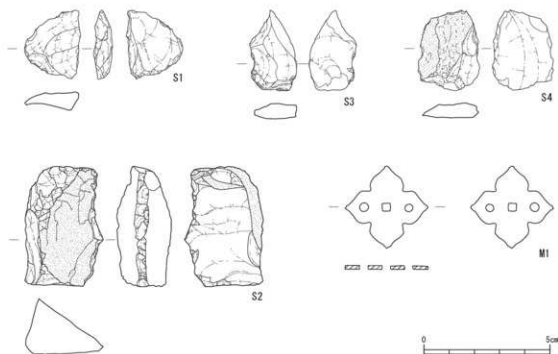
20は須恵器の把手である。歪な作りで、表面には指頭圧痕が密集して残る。**21**は須恵器杯Bの底部である。体部は高台外側で稜線を形成し、急斜度で立ち上がる。**22**は瓦質土器の羽釜である。器表面は著しく劣化しており、整形・調整痕は観察できない。

第3図**S1・S2**は、SD24より出土した。**S1**は強い風化を受けた二次加工のある割片である。サヌカイトの横長割片を素材とし、その打面側縁辺、末端部等に、背面側よりわずかな二次加工を施す。素材割片の打面側は、複数の剥離痕から形成され、爪形の打撃痕をとどめる。背面側は、本割片と同一打面から剥離された2面の剥離痕と、石核上の面の可能性がある1面のネガティブな剥離面から構成されている。

S2は黒色のチャート礫を素材とし、その一側縁に主要剥離面側から二次加工を施し、加工された縁辺には細かい潰れが認められる。火打石の可能性も考慮したい。**S3**はSX1より出土したサヌカイト製二次加工のある割片で、風化は浅い。縁辺の広い範囲が新しい欠損であるが、一部に潰れた縁辺をとどめる。

S4は表面採集の、二次加工のある割片である。風化は進行している。平坦打面を打撃して剥離されたもので、打面の端部に主要剥離面側からわずかな加工が認められる。

M1は包含層中より出土した銅製品である。四葉の釘隠しで、中央に方形の孔を設け、相対する花卉基部に2か所の円形の孔を設ける。全面に漆が塗られている。**M2**(写真図版59)は包含層中より出土した不明銅製品である。煙管の可能性も考慮されるが、判断し難い。



第3図 片山遺跡A・B地区出土の石器・金属製品

第3節 小結

【遺構の性格】

弥生時代の遺構

片山遺跡A・B地区で検出された弥生時代の溝状遺構は、①規模が近似しており、②延長方向が概ね一致していること、③遺構に挟まれた領域の幅が、4.5m～6.5mほどであること等が特徴である。またSD61は、その末端部でSD41方向へほぼ直角に屈折する。

こうした点から、弥生時代の遺構として考えるならば、最も可能性が高いのは方形周溝墓であろう。溝はいずれも30cmほどの浅いものであるが、古土壌層がほとんど遺存していないことを考慮するならば、丘陵上が農地として開墾される際に、相当程度の削平が行われたものと考えられ、本来の溝幅、深さともに、検出状況よりは大きかったものと判断される。この文脈から推測するならば、SK30のような長方形を呈する浅い土坑は、主体部の底跡であった可能性も捨象できないだろう。

今回の調査から確定的な結論を示すことは困難ではあるが、弥生時代の遺構群が方形周溝墓を中心とした墓域であった可能性を指摘しておきたい。

江戸時代以降の遺構群

掘立柱遺構、溝、土坑、その他の遺構が検出された。掘立柱遺構は、その性状から居住棟としての建物跡とは考え難く、所屬時期も江戸時代末以降と考えられる。このような時代背景と、遺構の規模、性状から、これらは畑作等に伴う耕作遺構としておきたい。作物用の棚、あるいは支柱等の耕作遺構であれば、SB1のような平行四辺形でも問題なく利用できるであろうし、SB2のように広い領域を占めることも理解しやすいだろう。

溝、土坑については、それぞれの機能特定することは難しいが、広い凹部をなすSX1については、江戸時代以降、近代にかけての水田の下底部が遺存した状況の可能性を考慮したい。

【その他の遺物等について】

原位置を遊離して出土した石器類には、極度の風化を受けているものについては、後期旧石器時代の所産である可能性を考慮しておきたい。その他の石器類のうち、サヌカイト製の打製石器については、弥生時代に属すると考えて大過ないだろう。チャート製の資料については、所属時期を確定的に判断できない。

【小結】

以上で述べたとおり、A・B地区の調査では、本段丘上ではこれまで知られていなかった、弥生時代の墓域の可能性のある遺構群が検出された。実際に今回の調査区の東側に隣接する場所において、加古川市教育委員会により弥生時代中期後半の周溝墓3基および木棺墓9基が調査されており、周囲が弥生時代中期後半において墓域であったことが判明している。出土遺物は少なく、遺構の全体像も不明ではあるが、今後、本地域の弥生時代を考える上で、大きな契機となるものと思われる。

江戸時代以降の遺構群については、近世～近代における台地上の開発の状況を示すものであり、地域の開発史にひとつの知見が得られたと評価できる。

参考文献

加古川市教育委員会2021『片山遺跡発掘調査報告書』加古川市文化財報告書34 加古川市教育委員会

第4章 片山遺跡C地区

第1節 本発掘調査区の層序と遺構面

片山遺跡C地区は、A・B地区から約50m東の同一地形面上にあり、段丘縁辺に沿った延長約60m、幅25mの範囲を占める（図版13）。

本発掘調査にあたっては、調査区内での地層の堆積状況と層相を把握するため、重機による表土層の除去と平行して、調査区の壁面を精査して堆積状況を把握しつつ遺構面の調査をおこなった。

地層断面の精査は、調査区東壁、南壁、西壁で実施しており、このうち東壁と南東壁を図示する（図版14）。南東壁では現表土直下に、遺跡が立地する高位段丘を形成する、黄褐色の砂質シルト層が検出された（図版14 第8層）。第8層は、丘陵を構成する大阪層群の最上部に相当し、その凹部にはわずかに古土壌が遺存する。南壁では、この第8層とは風化度等を異にする、第6・7層が認められた（図版14）。いずれもいわゆる「地山」を構成する堆積物の風化部であり、この第6・7層の上位に2枚の土壌層が認められた（第4・5層）。遺構は、この第4・5層より上位から掘削されていたことから、これらの古土壌層は、遺跡形成前ないしは遺跡形成期の古土壌と考えられる。ただし実際の遺構面検出は、第4層上面では困難であったため、第7～9層上面で実施している。

第2節 遺構と遺物

1. 概要

弥生時代終末期～古墳時代初頭の竪穴建物跡3棟と土坑1基、平安時代の掘立柱建物跡8棟・土坑71基・溝10条を検出した。

2. 遺構と遺物

(1) 弥生時代～古墳時代の遺構と遺物

①竪穴建物跡（図版15）

調査区中央部に位置する隅丸多角形建物跡1棟（SH120）と長方形建物跡1棟（SH121）、方形建物跡（SH131）を検出した。何れも上部の削平が著しく、床面の残存していた建物はSH120のみであった。

SH120

【遺構】（図版17・18 写真図版22～29・31）

調査区中央部の段丘端部近くに位置する。平面形は不整形の円形である。もともと、建物の北側以外に不明瞭ではあるものの6つの屈曲点が確認できるため、隅丸の多角形建物の可能性もある。掘方の直径は東西方向、南北方向ともに7.15mを測る。

建物は、外周に10cm～15cm程の周壁溝を巡らせ、幅100cm～120cm程のベッド状の屋内高床部を持つ。高床部と下段床面の段部分は緩やかな角を持っている。なお、屋内高床部も6つの屈曲点が確認できるため、建物平面形同様に6角形を指向していると判断できる。周壁溝は、高床部の設置後に最大12cm～13cm程と浅く掘削している。

なお、床面に関しては、10cm程度のシルト土を貼床状に敷くことで平坦にしている。高床部も同様で

あり、高床部の床面の一部が被熱を受けていた。

建物中心には、2段掘の中央土坑（SK372）を検出した。下部は少量の炭化物が含まれ、上面には顕著な焼土が確認されたため、炉としての用途が考えられる。なお、中央土坑の縁は、土層を確認するとやや盛り上がっているため、浅い土堤があった可能性もある。

建物の主柱穴は4基（P381・P384・P378・P408）を確認した。柱穴は直径25cm～30cm、深さ30cm～45cmを測る。その他にも、高床部から床面に下がった部分の各角に対応するように小穴が確認されており、柱穴であった可能性は否定できない。このほか建物内では、SD125・SD138・SD360・SD361が検出された（図版40）。いずれも竪穴建物に切る遺構であり、建物跡に関連するものではないと判断した。

【遺物】（図版43 写真図版60）

23は壺である。やや長く立ち上がる頸部から、大きく外反して開く口縁部を見せる。口縁部外面には縦方向のハケメ、頸部以下には縦方向のヘラミガキが施される。24～26は甕の口縁部である。24は口縁端部をわずかに欠く。外面は風化が著しく調整痕等は観察できないが、内面にはエビオサエの痕跡をとどめる。25は強く屈折して開く口縁部を見せる。内外面ともに風化が著しく、調整痕等は観察できない。26は開きの小さい口縁部を作る。やはり風化が著しいが、外面にヨコナデかと思える調整痕をわずかにとどめる。27は高杯脚柱部である。直立する柱部から、屈折して開く脚部をとどめる。脚内には杯部円盤充填の痕跡をとどめる。

28～37は壺ないしは甕の底部である。29は外面に斜め方向のハケメをとどめる。30は外面に右上がりのタタキ、内面には斜め方向のハケメを施す。また外底面にも一定方向のハケメが施されている。31は上げ底状となる底部である。輪状の底面をもち、いわゆる底部輪台技法で成形されたものと思われる。32・35はいずれも径の小さな底部で、外面に右上がりのタタキを施す。34・36は、底部外面に段をなす。

SH121

【遺構】（図版18・40 写真図版22・23・30）

調査区中央部に位置する、隅丸長方形の竪穴建物跡である。竪穴建物としての掘方は、削平により失われていたが、周壁溝の大部分が遺存していた。平面形は東西5.2m、南北3.66mの隅丸長方形を呈し、中央土坑1基（SK146）、床面南部中央に土坑1基（SK151）を設ける。主柱穴は2基（P149・P152）である。

中央土坑縁辺から、建物北西角に向かって溝（SD144）が延びる。SD144は幅20cm程度の溝で、SH121の周壁溝を切り、さらにSH120を切って丘陵端部にまで延びる。P149に発する浅い溝（SD362）が延びて、SD144に合流する。また、SD144の対角線上にSD145が位置するが、SH121の範囲でおさまる。このSD145と建物との関係は不明である。

中央土坑SK146は土坑としては深さ5cmほどのごく浅い土坑であるが、炭化物・焼土が顕著に認められることから、炉跡と判断される。また建物跡南部中央に位置するSK151は、直径40cm、深さ30cmを測る急斜度の掘方をなす土坑である。

【遺物】

SH121床面、周壁溝、柱穴、土坑内からは、図示可能な遺物は出土していない。細片化した土師器が出土している。

SH131

【遺構】（図版19・20 写真図版32）

SH120・SH121の北に位置する遺構であるが、遺構全体の遺存状況は劣悪で詳細を論じえない。周壁溝と考えられるL字形に屈折した溝と、その東側に広がる暗褐色の堆積物に覆われた、やや不整形な凹部（南北5m 東西4.8m）を、竪穴建物跡として認定した。凹部は自然堆積によって埋積されており、その上

層(図版20 第1・3・4・6層)には、細片化した遺物が多数包含されていた。溝底面は緩やかな起伏をもつ凹面をなす。溝内は砂質シルトを主体とした堆積物で自然埋積されていた。この凹部で検出されたP350・P355が、支柱穴の可能性が高い。こうしたことから、堅穴建物としてはSH121に類似した、長辺6m前後、短辺4.4m前後の、2本柱建物であった可能性があろう。

この凹部の西半から、SK349が検出されている。直径約60cmの円形土坑で、2段に掘りこまれている。

【遺物】(図版43 写真図版60・61)

38はP350より出土した、甕の口縁部である。口縁部は上方に丸みを持って拡張され、口縁部外面には、3条の凹線を巡らせる。外面には縦方向のハケメが認められる。39～45は凹部の堆積物中より出土したものである。鉢と思われる39の体部は丸みをもって立ち上がり、緩やかに外反して口縁部に至る。内外面ともに風化が著しく、調整痕は観察できない。40～45は壺または甕の底部である。40は底部から大きく膨らむ体部を見せる。外面に右上がりのタタキを施す。41・42は膨らみに乏しい立ち上がりを見せる。外面にタタキを施す。43・44は、底部から弱く外反しつつ立ち上がる体部を見せる。45は厚みの乏しい底部から、外方へ直線的に立ち上がる体部を見せる。

②土坑

SK43

【遺構】(図版19)

調査区東部北壁際に位置する不整形な土坑で、大部分が調査区外にあると思われる。調査区内では最大長3.6m、最大幅90cmを測る。土坑底は緩やかな皿状を呈する。土坑内は砂質シルトを主体とした堆積物で自然埋没していた。全体像は不明であり、土坑の機能についても詳らかに記載し得ない。

【遺物】(図版43 写真図版61)

46は屈折して開く甕の口縁部である。器表面は風化が顕著であり、調整痕の観察は困難であるが、外面に縦方向のハケメかと思われる痕跡をわずかにとどめる。47はやや外反気味に開く口縁部を見せる、甕である。体部はやや膨らみに乏しく、外面には右上がりのタタキが施されている。口縁部内外面には、横方向のハケメと思われる痕跡がわずかに残る。48は甕底部である。風化が著しい。

③その他の遺物(図版43 写真図版61)

49～52は甕の底部である。49は堅穴建物跡検出作業時に出土した。50・51は人力掘削時、52は機械掘削時に出土した。

(2) 平安時代以降の遺構と遺物

① 掘立柱建物跡(図版16)

C地区東半と西半で、8棟の掘立柱建物跡が検出された。調査区中央部には広い空白域があり、その東側にSB1～SB6が、西側にSB7・SB8が位置する。いずれも建物跡としては小規模である。出土遺物が僅少で、個々の建物跡としては所属時期の特定が困難なものが多かったが、複数の建物跡柱穴内から、平安時代に属する須恵器・土師器が出土したこと、および遺構内埋土の性状の共通性などから、C地区の掘立柱建物跡群については、当該期に属するものと判断した。SB1～SB4は地形面に沿った方位を採るが、SB5～SB8は正方位を意図した可能性がある。なお各建物跡の規模、方位等は、後掲の第2表に示している。

SB1

【遺構】(図版21 写真図版33・36)

C地区東端に位置する、1間×2間の建物跡である。柱穴の直径は16cm～20cm、深さは16cm～20cm、床面積は10.37㎡を測る。短軸の柱間は、西辺が3.3m、東辺が3.0mで、柱穴の平面的配置は台形状をなしている。柱穴内からは、遺物は出土していない。

SB2

【遺構】(図版21 写真図版33・37)

C地区東部に位置する、1間×3間の建物跡で、南辺が、SB4の北部と重複する。柱穴の直径は20cm～40cm、深さは18cm～35cm、床面積は15.08㎡を測る。柱間は、短軸が3.35m、長軸が1.4m～1.5mを測る。柱穴内からは図示可能な遺物は出土していないが、P33・P49から弥生土器の小片が出土している。

SB3

【遺構】(図版22 写真図版34・37)

C地区東部に位置する、1間×3間の建物跡で、南東隅の一角が、SB1の領域と重複する。柱穴の直径は18cm～44cm、深さは18cm～30cm、床面積は17.25㎡を測る。柱間は、短軸が3.45m、長軸が1.5m～1.8mを測る。柱穴内からは、遺物は出土していない。

SB4

【遺構】(図版23 写真図版34・37)

C地区東部に位置する、2間×3間の建物跡で、北辺がSB2の領域と重複する。柱穴の直径は15cm～25cm、深さは12cm～30cm、床面積は14.78㎡を測る。柱間は、短軸が1.7m～1.9m、長軸が1.3m～1.4mを測る。柱穴内からは図示可能な遺物は出土していないが、P34から弥生土器の小片が出土している。

SB5

【遺構】(図版23 写真図版35・38)

C地区東部に位置する、1間×2間の小規模な建物跡である。柱穴の直径は20cm～25cm、深さは12cm～20cm、床面積は6.93㎡を測る。柱間は、短軸が2.35m、長軸が1.4m～1.55mを測る。柱穴内からは遺物は出土していない。

SB6

【遺構】(図版24 写真図版35・38)

C地区東半の掘立柱建物跡群のうち、最も西寄りに位置する、2間×3間の総柱式建物跡である。柱穴の直径は22cm～37cm、深さは24cm～40cm、床面積は26.24㎡を測る。柱間は、短軸が1.95m～2.15m、長軸が2.0m～2.15mを測る。

【遺物】(図版44 写真図版61・62)

53、54はP122より出土した。53は土師器の椀または杯である。底面に回転糸切痕をとどめる。54は須恵器椀である。このほかP88から、弥生土器の小片が出土している。

SB7

【遺構】(図版25 写真図版36・38)

C地区西半の掘立柱建物跡群のうち、東寄りに位置する、1間×3間の建物跡である。柱穴の直径は20cm～30cm、深さは25cm～42cm、床面積は12.97㎡を測る。柱間は、短軸が2.75m～2.8m、長軸が1.3m～1.7mを測る。遺物は出土していない。

SB8

【遺構】(図版26 写真図版36・38)

C地区西端に位置する、2間×3間の総柱式建物跡である。柱穴の直径は15cm～40cm、深さは8cm～40cm、床面積は20.13㎡を測る。柱間は、短軸が1.6m～1.8mであるが、長軸では両端の柱間が1.60m～1.75mであるのに対し、中央の柱間が2.75mと、1mほど長くなっている。

【遺物】

図示できない小片であるが、P312より須恵器腕口縁部が出土している。また、P286より弥生土器の小片が出土している。

② 土坑（図版27）

多数の土坑が検出されているものの、遺物を出土しないか、もしくは僅少なものがほとんどである。もともと、本遺跡における弥生時代の遺構埋土が暗褐色を主体とするのに対し、確実に平安時代に属する遺構では、灰褐色～黄褐色が主体となる傾向がある。こうした遺構内埋土の性状を根拠として、多くの土坑は平安時代に属する可能性がある。なお、土坑の計測値については、後掲の第3表に示している。

SK1

【遺構】（図版28 写真図版39）

調査区東端に位置する不整形な土坑で、遺構の東端をSD4に切られている。土坑底は起伏をもち、土坑内は褐色～明褐色の礫混じりのシルトによって埋没していた。図示できる遺物は出土していないが、弥生土器の小片とササカイト剥片が出土している。

SK3

【遺構】（図版28）

調査区東部に位置する、ほぼ円形の土坑である。垂直の掘方と、ほぼ水平な土坑底という特異な形状を呈している。土坑内の堆積物は、ほぼ水平の堆積状況を示していることから、自然埋没とは考えにくく、人為的埋没が想起される。遺物は出土していない。

SK5

【遺構】（図版28）

調査区東部に位置する不整形な土坑である。土坑底は緩やかな凹面をなし、土坑内は明褐色～黄褐色のシルト～砂質シルトによって埋没していた。遺物は出土していない。

SK7

【遺構】（図版28）

調査区東部に位置する楕円形の土坑である。土坑底は概ね平坦な皿状をなし、土坑内は褐色～黄褐色のシルトによって埋没していた。図示できる遺物はないが、弥生土器の小片が出土している。

SK35

【遺構】（図版29）

調査区東部に位置する楕円形の土坑で、南端をSB3のP36に切られている。土坑底は平坦であり、土坑内は明褐色～にぶい黄褐色のシルト～砂質シルトによって埋没していた。遺物は出土していない。

SK45

【遺構】（図版29 写真図版39）

調査区東部南壁際に位置する、不整形楕円形の土坑である。土坑底は緩やかな凹面をなし、土坑内はにぶい褐色シルト～細砂によって埋没していた。遺物は出土していない。

SK46

【遺構】（図版29 写真図版39）

調査区中央部北寄りに位置する、長大な土坑である。土坑底は緩やかな凹凸のある船底状を呈し、土坑内は明褐色～黄褐色の礫混じり、あるいは少量の炭化物を含む砂質シルトによって埋没していた。図示できる遺物はないが、弥生土器の小片が出土している。

SK104

【遺構】(図版30 写真図版39)

調査区中央部の、北壁際に位置する土坑である。ほとんどの部分が調査区外にあるため、全体の形態、法量などは不明である。土坑底は緩やかな凹面を呈し、土坑内は黄褐色の砂質シルト～シルト質砂によって埋没していた。遺物は出土していない。

SK112

【遺構】(図版30 写真図版39)

調査区中央部に位置する、不整楕円形の土坑である。土坑底は概ね平坦に掘りこまれ、土坑内は黄褐色の砂質シルトによって埋没していた。遺物は出土していない。

SK113・SK114

【遺構】(図版30 写真図版40)

調査区中央部南東寄りに位置する土坑である。SK113は不整楕円形、SK114は不整円形を呈し、SK113がSK114を切る。平面図でSK114が切っているように見えるのは、掘削の最終段階における土坑底面が、SK114の方が深いためである。SK113の土坑底は概ね平坦であり、SK114は不規則な形態を呈する。土坑内は、SK113では明褐色砂質シルトで、SK114では褐色～黄褐色のシルト～砂質シルトによって埋没していた。両土坑とも図示できる遺物は出土していないが、それぞれから弥生土器の小片が出土している。

SK115

【遺構】(図版30 写真図版40)

調査区中央部に位置する、不整形な土坑である。土坑底は不規則に掘りこまれ、土坑内は黄褐色の砂質シルトによって埋没していた。遺物は出土していない。

SK118

【遺構】(図版30 写真図版40)

調査区中央部に位置する、不整形の土坑である。土坑は浅い皿状を呈し、底は概ね平坦に掘りこまれている。土坑内は黄褐色の砂質シルトによって埋没していた。遺物は出土していない。

SK119

【遺構】(図版30 写真図版40)

調査区中央部に位置する、不整楕円形の土坑である。土坑はやや急斜度の掘方を見せ、土坑底は凹面をなす。土坑内は黄褐色～明黄褐色のシルト～砂質シルトによって埋没していた。断面図の1層は、樹根などによる影響の可能性がある。遺物は出土していない。

SK123

【遺構】(図版31 写真図版41)

調査区中央部に位置する、長楕円形の土坑である。土坑はごく浅く、土坑底は比較的平坦である。土坑内は黄褐色の砂質シルトによって埋没していた。遺物は出土していない。

SK124

【遺構】(図版31 写真図版41)

調査区中央部に位置する、不整楕円形の土坑である。やや急斜度の掘方を見せ、土坑底は比較的平坦である。土坑内は褐色～黄褐色のシルト～砂質シルトによって埋没していた。遺物は出土していない。

SK159

【遺構】(図版31 写真図版41)

調査区中央部に位置する、不整形円形の土坑である。土坑底は緩やかな凹面をなし、土坑内は明黄褐色の砂質シルト～砂によって埋没していた。遺物は出土していない。

SK161

【遺構】(図版31 写真図版41)

調査区中央部北東寄りに位置する、不整形な土坑である。土坑はごく浅い皿状を呈し、土坑内にはぶい黄褐色の砂質シルト～極細砂によって埋没していた。遺物は出土していない。

SK164

【遺構】(図版31 写真図版41)

調査区中央部北西寄りに位置する、楕円形の土坑である。土坑底は凹面をなし、土坑内は黄褐色～ぶい黄褐色の砂質シルト～細砂によって埋没していた。遺物は出土していない。

SK165

【遺構】(図版31 写真図版41)

調査区中央部に位置する、不整形円形の土坑である。土坑底はやや不規則な凹面をなし、土坑内にはぶい黄褐色～黄褐色の砂質シルト～細砂によって埋没していた。遺物は出土していない。

SK167

【遺構】(図版31 写真図版41・42)

調査区中央部に位置し、SH120の西に隣接する、不整形円形の土坑である。土坑底は緩やかな凹面をなし、土坑内は褐色～黄褐色のシルト～細砂によって自然埋没していた。土坑底面に、1段低く掘り下げられた、不規則な凹部が見られるが、これは上層からの掘り込みの可能性がある。図示できる遺物はないが、弥生土器の小片が出土している。

SK169

【遺構】(図版32 写真図版42)

調査区中央部に位置する、不整形な土坑である。土坑底はやや不規則な凹凸をなし、土坑内は黄褐色～明黄褐色のシルト～極細砂によって埋没していた。埋土に地山のブロックを含むことから、人為的埋没の可能性がある。遺物は出土していない。

SK170

【遺構】(図版32 写真図版42)

調査区中央部に位置する、不整形な土坑である。土坑底は2段の凹面をなし、土坑内は明褐色～黄褐色の砂質シルト～細砂によって埋没していた。遺物は出土していない。

SK176

【遺構】(図版32 写真図版42)

調査区中央部に位置する、円形の土坑である。土坑底は一部が1段下がる凹面をなし、土坑内にはぶい黄褐色～黄褐色の砂質シルト～細砂によって埋没していた。遺物は出土していない。

SK178

【遺構】(図版32 写真図版42)

調査区中央部に位置する、不整形な土坑である。土坑底は緩やかな凹面をなし、土坑内にはぶい黄褐色～黄褐色のシルト～極細砂によって埋没していた。遺物は出土していない。

SK180

【遺構】(図版32 写真図版42)

調査区中央部に位置する、不整形な土坑である。土坑底は凹凸のある緩やかな凹面をなし、土坑内は明褐色の砂質シルトによって埋没していた。遺物は出土していない。

SK181

【遺構】(図版33 写真図版43)

調査区中央部北西寄りに位置する、不整形円形の土坑である。土坑底は緩やかな凹面をなし、土坑内は黄褐色の砂質シルト～細砂によって埋没していた。遺物は出土していない。

SK187

【遺構】(図版33 写真図版43)

調査区中央部北西寄りに位置する、不整形円形の土坑である。土坑底は緩やかな凹面をなし、土坑内は黄褐色の砂質シルト～極細砂によって埋没していた。遺物は出土していない。

SK188

【遺構】(図版33 写真図版43)

調査区中央部北西寄りに位置する、不整形円形の土坑である。土坑底は碗底形の凹面をなし、土坑内は地山のブロックを含む灰黄褐色～黄褐色の砂質シルトによって埋没していた。埋土の性状から、人為埋没の可能性がある。遺物は出土していない。

SK191

【遺構】(図版33 写真図版43)

調査区中央部北西寄りに位置する、不整形円形の土坑である。土坑底は凹凸のある緩やかな凹面をなし、土坑内は明黄褐色のシルト～細砂によって埋没していた。遺物は出土していない。

SK194

【遺構】(図版33 写真図版44)

調査区中央部北西寄りに位置する、不整形な土坑である。土坑底は2段の掘方を見せ、最深部の底面は碗底形をなす。土坑内は黄褐色～にぶい黄褐色のシルト～細砂によって埋没していた。遺物は出土していない。

SK195

【遺構】(図版33 写真図版44)

調査区中央部北西寄りに位置する、不整形な土坑である。土坑底は偏った凹面をなし、土坑内にはにぶい黄褐色のシルト～細砂によって埋没していた。遺物は出土していない。

SK196

【遺構】(図版33 写真図版44)

調査区中央部のSH120西に位置する、円形の土坑である。土坑底は碗底形を呈し、土坑内は黄褐色の砂質シルト～細砂によって埋没していた。遺物は出土していない。

SK198

【遺構】(図版33 写真図版44)

調査区中央部北寄りに位置する、不整形な土坑である。土坑の西端部は一段深く掘りこまれており、断面観察からは、別の遺構が重複している可能性もあると考えられる。土坑底は概ね平坦に掘られており、土坑内は明黄褐色～黄褐色のシルト～極細砂によって埋没していた。遺物は出土していない。

SK201

【遺構】(図版33)

調査区中央部西寄りに位置する、不整形楕円形の土坑である。土坑底は緩やかな凹面をなし、土坑内は褐色～にぶい黄褐色のシルト～細砂によって埋没していた。遺物は出土していない。

SK202・SK203

【遺構】(図版34 写真図版45)

調査区中央部西寄りに位置する、ともに不整形な土坑である。土坑底は緩やかだが不規則な凹凸をなし、土坑底から柱穴状の凹部が検出された。土坑内はいずれも、褐灰色～黄褐色のシルト～極細砂によって埋没していた。断面観察から、SK202がSK203を切っていると判断された。遺物は出土していない。

SK211・SK212

【遺構】(図版34 写真図版45)

調査区西部北寄りに位置する、ともに不整形楕円形の土坑である。土坑底はいずれも船底状をなし、土坑内はSK211が黄褐色～明黄褐色のシルト質極細砂～細砂で、SK212が褐色～黄褐色のシルト～細砂で埋没していた。遺物は出土していない。

SK213・SK214

【遺構】(図版34 写真図版45・46)

調査区西部北寄りに位置する、ともに不整形楕円形の土坑である。土坑底はSK214が緩やかな凹凸をなし、SK213は2段の掘方を見せる。土坑内はSK213がにぶい黄褐色のシルト～細砂で、SK214がにぶい黄褐色～明黄褐色のシルト～細砂で埋没していた。遺物は出土していない。

SK215

【遺構】(図版35 写真図版46)

調査区西部に位置する、不整形な土坑である。土坑底は波打つような凹凸を示しており、にぶい黄褐色～黄褐色のシルト～細砂で埋没していた。遺物は出土していない。

SK217・SK218

【遺構】(図版35 写真図版46)

調査区西部に位置する、ともに不整形楕円形の土坑である。土坑底はいずれもやや不規則な深い凹面をなし、土坑内はともに黄褐色～にぶい黄褐色のシルト～細砂で埋没していた。埋土の性状から、同時期に成立した可能性があると思われる。遺物は出土していない。

SK221・SK346

【遺構】(図版35 写真図版46・55)

調査区西部北壁際に位置する、ともに不整形な土坑である。調査区側溝の掘削により土坑上部が失われたため、土坑の形状には不明確な部分があるが、SK221がSK346を切っていることは疑いない。SK221の土坑底は緩やかな碗底状を呈し、SK346の土坑底は平坦に掘りこまれている。SK221は褐色砂質シルトで埋積されており、SK346は橙色～明赤褐色のシルト～極細砂で埋没していた。遺物は出土していない。

SK223

【遺構】(図版35 写真図版47)

調査区西部北壁際に位置する、楕円形の土坑である。土坑底は碗底状を呈し、土坑内は黄褐色～にぶい黄褐色のシルト～極細砂で埋積されていた。遺物は出土していない。

SK224

【遺構】(図版35 写真図版47)

調査区西部北壁際に位置する、楕円形の土坑である。土坑底はやや不規則な碗底状を呈し、土坑内は黄褐色の砂質シルト～極細砂で埋積されていた。遺物は出土していない。

SK225

【遺構】(図版35 写真図版47)

調査区西部北壁際に位置する、不整形な土坑である。土坑底は概ね水平に掘られており、土坑内は褐色～明褐色の砂質シルト～極細砂で埋積されていた。遺物は出土していない。

SK236

【遺構】(図版35 写真図版47)

調査区西部に位置する、楕円形の土坑である。土坑は急斜度の掘方を見せ、土坑底は概ね水平に掘られている。土坑内は黄褐色～にぶい黄褐色の砂質シルト～細砂で埋積されていた。遺物は出土していない。

SK238

【遺構】(図版36 写真図版48)

調査区西部に位置する、楕円形の土坑である。土坑は急斜度の部分と碗底形の部分という、偏った掘方を見せ、土坑底は凹面をなす。土坑内は明褐色～明黄褐色の砂質シルト～細砂で埋積されていた。遺物は出土していない。

SK249

【遺構】(図版36 写真図版48)

調査区西部に位置する、不整形楕円形の土坑である。土坑底は凹凸をなしている。土坑内は褐色～にぶい黄褐色の砂質シルト～極細砂で埋積されていた。遺物は出土していない。

SK250

【遺構】(図版36 写真図版48)

調査区西部に位置する、不整形楕円形の土坑である。土坑は浅い掘り込みを見せ、土坑底は概ね平坦な皿状をなす。土坑内は褐色～黄褐色の砂質シルト～細砂で埋積されていた。遺物は出土していない。

SK254

【遺構】(図版36 写真図版48)

調査区西部に位置する、不整形楕円形の土坑である。土坑底は不規則な凹凸を見せ、土坑内は褐色～明黄褐色の砂質シルト～細砂で埋積されていた。遺物は出土していない。

SK270

【遺構】(図版36 写真図版48)

調査区西部に位置する、不整形な土坑である。本発掘調査での遺構検出面より、深く掘り下げられた試験坑底で検出されたため、隣接する他の土坑よりも検出面の標高が低い結果を招いている。土坑底は不規則な凹凸を見せ、土坑内は黄褐色～灰黄褐色の砂質シルト～細砂で埋積されていた。遺物は出土していない。

SK286

【遺構】(図版36)

調査区西部に位置する、楕円形の土坑である。土坑東端に柱穴が重複しており、このためか、土坑東端の底は段差をもって他所よりも深い。土坑内は褐色～灰黄褐色の砂質シルト～細砂で、柱穴部分は暗褐色～灰黄褐色のシルト質細砂で埋積されていた。遺物は出土していない。

SK300

【遺構】(図版37 写真図版49～52)

調査区西部にあって、SB8西辺中央の位置を占める、整った楕円形の土坑である。検出面からの深さは約10cmと浅いが、掘方の形状はよく整っており、土坑底は平坦に掘られている。土坑内は主に褐色～明黄褐色のシルト質極細砂～細砂で埋積されており、地山のブロックを含むことから、人為的埋積の可能性も考慮される。また最上層には、炭化物を含む黒褐色のシルト質砂が認められた。土坑内からは、須恵器碗、土師器皿等が、まとまって出土している。

【遺物】(図版44 写真図版62・63)

SK300からは、図示できるものだけでも19点の遺物が出土した。その多くが完形もしくは完形に近いものであることから、SB8との関係性を含めて、本遺構の持つ機能がどのようなものであったか、検討を要する。

56は土師器皿である。底部には回転ヘラ切りの痕跡をとどめるが、上面観は全体にやや歪んだ楕円形を呈し、些か稚拙な印象を受ける。口縁部は強く外反して水平に引き出されている。皿の内底面には明瞭な二次被熱の痕跡が認められ、口縁部2か所にも被熱痕が認められる。56～59は土師器碗である。いずれも見込み部が一段下がる形態を見せる。56～58は底部を欠くが、59の底部は回転ヘラ切り後にナデ調整を施す。なお57には二次被熱が認められる。

61～70・72・73は須恵器碗である。いずれも、膨らみの弱い体部と、外反気味の口縁部を見せる。底部をとどめない72・73を除けば、いずれも見込み部が一段下がる形態を見せる。底部は67・68が回転系切りである他は、いずれも回転ヘラ切り後にナデ調整を施す。また底面に板状工具の当たりをとどめるものが見られる。71は須恵器杯であるが、底部はわずかに平高台状に作る。

60は器種不明の、土師器破片である。外面には工具ナデもしくはケズリの痕跡が認められる。

須恵器碗のうち62の外面には、墨書が認められる。墨書の釈読は奈良文化財研究所資料研究室に依頼した。その結果、判別可能な部分で「大口口」と書かれており、二文字目は𠄎(あみがしら)の「翌」の可能性がある。仮に「翌」とみた場合、三文字目は「尺」、あるいは、やや画力が足りないが、「皮」「欠」「火」「史」などの可能性が考えられるとの指摘を得た。

SK302

【遺構】(図版36 写真図版53)

調査区西部に位置する、溝状の土坑である。土坑は南西側がやや広く、北東側に向けて幅を減じる。土坑底は緩やかな凹凸を見せながら、西に向かって深さを増す。土坑内は灰黄褐色～にぶい黄褐色の砂質シルト～極細砂で埋積されており、堆積状況からは自然埋積と思われる。遺物は出土していない。

SK306

【遺構】(図版36 写真図版53)

調査区西部に位置する、楕円形の小規模な土坑である。土坑底はごく浅く、緩やかな凹面をなす。土坑内は黄褐色の極細砂～砂質シルトで埋積されていた。遺物は出土していない。

SK311

【遺構】(図版38 写真図版53)

調査区西部に位置する、長い不整楕円形の土坑である。土坑底はやや歪んだ船底形をなす。土坑内は褐色～黄褐色の砂質シルト～中砂で埋積されていた。遺物は出土していない。

SK315

【遺構】(図版36 写真図版53)

調査区西部に位置する、楕円形の土坑である。土坑底は歪んだ碗底形をなす。土坑内は黄褐色～明黄褐色の砂質シルト～極細砂で埋積されていた。遺物は出土していない。

SK319

【遺構】(図版38 写真図版53・54)

調査区西部に位置する、楕円形の土坑である。土坑底は緩やかな凹面をなし、中央部に柱穴状の凹みを持つ。土坑内は黄褐色の砂質シルト～細砂で埋積されていた。遺物は出土していない。

SK333

【遺構】(図版38 写真図版54)

調査区西部に位置する、不整楕円形の土坑である。土坑底は碗底形をなし、土坑内は黄褐色～明黄褐色の砂質シルト～細砂で埋積されていた。遺物は出土していない。

SK335

【遺構】(図版38 写真図版54)

調査区西部に位置する、不整楕円形の土坑である。土坑底は緩やかな凹面をなし、土坑内にはにぶい黄褐色～黄褐色の砂質シルト～極細砂で埋積されていた。遺物は出土していない。

SK337

【遺構】(図版38 写真図版54)

調査区西部に位置する、ごく浅い円形の土坑である。土坑底は凹面をなし、土坑内は黄褐色砂質シルト～細砂で埋積されていた。遺物は出土していない。

SK338

【遺構】(図版38 写真図版54)

調査区西部に位置する、不整楕円形の土坑である。土坑底は二段に掘りこまれており、土坑内は灰黄褐色～にぶい黄褐色の砂質シルト～細砂で埋積されていた。断面観察で見られた1層は、その堆積状況から、土坑埋積後に掘られた、別の遺構の可能性ある。遺物は出土していない。

SK339

【遺構】(図版38 写真図版55)

調査区西部に位置する、隅丸長方形の土坑である。土坑底はやや南に偏り、碗底状を呈する。土坑内にはにぶい黄褐色～黄褐色の砂質シルト～中砂で埋積されていた。遺物は出土していない。

SK344

【遺構】(図版38 写真図版55)

調査区西部に位置する、ごく浅い不整形な土坑である。土坑底は緩やかな凹凸をなし、土坑内は褐灰色～明黄褐色の砂質シルト～極細砂で埋積されていた。遺物は出土していない。

SK348

【遺構】(図版38 写真図版55)

調査区西部に位置する、ごく浅い不整楕円形の土坑である。土坑底は緩やかな凹面をなし、土坑内は黄褐色のシルト～中砂で埋積されていた。遺物は出土していない。

③溝(図版39)

調査区内には、小規模な溝が散漫に分布していた。SD2とSD4が平行する他には、溝の延長方位、位置関係に関連性は認められない。

SD2

【遺構】(図版41 写真図版56)

調査区東端に位置し、南北方向に延びる溝である。SD4と平行している。溝はやや不規則な掘方を見せ、溝底の断面形は緩やかな凹面をなす。溝内はオリーブ褐色～明褐色の砂質シルトで埋積されていた。遺物は出土していない。

SD4

【遺構】(図版41 写真図版56)

調査区最東端に位置し、SD2と平行して南北方向に延びる溝である。溝はいわゆる「箱掘り」で、底の断面形は四辺形状をなす。溝内は褐色～明褐色砂質シルトで埋積されていた。遺物は出土していない。

SD125・SD199

【遺構】(図版41)

調査区中央北側に位置し、南東―北西方向に延びる溝である。SD199の北西端は調査区外となっているため、総延長は明らかではない。上部は削平が考えられるが、ごく浅い掘方で、溝内にはぶい黄褐色～黄褐色の極細砂～粗砂で埋積されていた。遺物は出土していない。

SD138・SD360・SD361

【遺構】(図版40 写真図版31)

調査区最北側に位置し、いずれも北西―南東方向に延びる溝である。SH120を切っている。SD138とSD361の前後関係は不明だが、SD360が両者を切っている。SD138は深さ21cmを測り、近辺の溝がかなり浅いのと比較してしっかりとしたつくりになっている。溝内は褐色～黄褐色土で埋積されていた。遺物は出土していない。

SD144・SD145・SD362

【遺構】(図版40 写真図版31)

調査区中央部に位置し、SH121を切っている。東西方向に延びる溝である。間は切れているが、SD145とSD144の両者は元々同一であった可能性がある。溝西端はSD138と繋がっているが、その関係性は不明である。なお、SD362はSD144に切られている溝で、SD144に直行する南北方向の溝である。いずれも遺物は出土していない。

SD205

【遺構】(図版41 写真図版56)

調査区中央部に位置する、短い溝である。ごく浅い掘方で、溝内は褐色の極細砂質シルト～シルト質中砂で埋積されていた。遺物は出土していない。

SD208

【遺構】(図版41 写真図版56)

調査区中央部に位置する、短い溝である。ごく浅い掘方で、溝内は黄褐色の砂質シルト～細砂で埋積されていた。遺物は出土していない。

SD230

【遺構】(図版41 写真図版56)

調査区西部に位置する、短い溝である。溝内にはぶい黄褐色の極細砂質シルト～中砂で埋積されていた。遺物は出土していない。

SD240

【遺構】(図版41 写真図版56)

調査区中央部西寄りに位置する、短い溝である。溝内は明黄褐色の砂質シルト～細砂で埋積されていた。遺物は出土していない。

SD356

【遺構】(図版19・20 写真図版56)

調査区中央部に位置する、短い溝である。ごく浅い掘方で溝内にはぶい黄褐色の砂質シルトで埋積されていた。遺物は出土していない。

SD358・367

【遺構】(図版19・20 写真図版57)

調査区中央部に位置する。SH131およびSD356と同様にほとんど上部が残っていないため詳細は不明であるが、SD358は屈曲しており、SH131の周溝およびSD358と似た形態であった可能性がある。溝内にはぶい黄褐色の砂質シルトで埋積されていた。遺物は出土していない。

SD367

【遺構】(図版19・20 写真図版57)

調査区中央部に位置する、短い溝である。溝内にはぶい黄褐色の砂質シルトで埋積されていた。遺物は出土していない。

④その他の遺構

SX103

【遺構】(図版13 写真図版57)

調査区東部の北壁際に位置し、大部分は調査区外に延びる遺構である。土坑状の凹部であるが、その全容は明らかではない。調査区内を完掘したところ、下底面に不規則な長方形の凹部が検出されている。図示可能な遺物はないが、弥生土器の小片が出土している。

第3節 小結

【遺構の性格】

弥生時代～古墳時代の遺構

片山遺跡C地区で検出された確実に弥生時代に位置づけられる遺構は堅穴建物3棟、土坑1基である。時期の判明する遺構は、いずれも弥生時代の終末期～古墳時代初頭と位置づけることができるが、後期後半に遡る遺物(38など)もあるため後期後半以降に集落が形成されたと考えられる。なお、SH121においては遺物量が僅少であるため、詳細な時期の検討やSH120との比較はできなかったが、土師器の細片が出土していることから他の建物と同時期とする。なお、SK43に関しては、出土遺物の様相から終末期～古墳時代初頭の時期に比定しているが、埋土の特徴は平安時代以降の土坑と似るため、平安時代以降の可能性もある。

平安時代の遺構

掘立柱遺構・溝・土坑・その他の遺構が検出された。もっとも、遺物や放射性炭素年代測定法(AMS)から時期を比定できるのはSK300、SB6、SB8のみである。以下、その点を整理したい。

SK300の位置づけ SK300は、被熱痕跡がある土師器皿、墨書土器含む須恵器碗や土師器碗などの完形の土器類、粘土塊(埴土)が一括で出土し、火を用いた行為と埋め戻しの痕跡から祭祀行為が実施された土坑と評価できる。

遺物に関しては良好な一括性が認められるため、遺跡の時期比定に重要な位置を占める。以下、平高台碗(碗B)に器種が限定される須恵器についてみていく。その特徴は、①口縁部の外反、②体部は直線気味～やや湾曲している、③高台の径は比較的大きく明瞭につくりだす、④底部の見込みの凹みの無いもの(62・64・70)と有るもの(61・65・67～69)の混在、④ヘラ切技法(61～66・69・70)と糸切り技法(67・68)の2種が混在する、という4点にまとめられる。片山博道(片山2009)の整理を参考にすると、播磨で碗Bと糸切り技法が導入されるのは平安京Ⅱ古から中段階(840～900)であり、体部が湾曲化し、底部が糸切り技法のみとなるのは平安京Ⅱ新段階(900～930)とされるため、SK300は概ね9世紀後半代の中に収まると考えられる。その中でも①と②は新しい要素であることを踏まえると、9世紀後半代の中でも後葉あたりに位置付けておきたい。

SK300とSB8 上述のSK300は平面的にSB8の建物の真下に位置しており、位置関係において有機的な関係性が想定できる。以下、SB8の時期の検討を踏まえてその関係性を検討する。SB8からはSK300出土の平高台碗と同様な外反する須恵器の碗の口縁部片が出土しており、同時期のSK300と同時期の建物の可能性が高い。更にSB8を構成するP340出土の炭化物の放射性炭素年代測定法(AMS)からは暦年較正年代(1 σ)で776～890cal ADという結果が出ている。SB8がSK300に先行することは遺構の位置関係から想定しにくく、SK300は平高台碗から9世紀後葉に位置付けることが可能なことを踏まえると、SB8の建築も9世紀の後葉内に収まると位置付けることができる。以上の検討により、SK300の掘削および使用後に時をほとんど挟まずにSB8が建築されたと考えられる。そのため、SK300はSB8の建築に際する地鎖的な役割を果たしたと想定しておきたい。

SB6 SB6は出土遺物から古代～中世初頭が想定できる。P89出土の炭化物の放射性炭素年代測定法(AMS)の結果、暦年較正年代(1 σ)で1045～1157cal ADという結果が出ており、概ね矛盾しない。平安時代後期頃を想定しておきたい。

参考文献

片山博道2009「平高台碗の基礎的研究」『真壁霞子先生喜寿記念論文集 考古学の視点』

真壁霞子先生喜寿記念論文集刊行会

第2表 片山遺跡C地区 掘立柱建物跡一覧

番号	規模(長×短)	形式	長軸方位	方位角	長軸(m)	短軸(m)	床面積(m ²)	柱穴番号
SB1	1×2		東西	N111.3度	3.40	3.05	10.37	10, 11, 14, 15, 22, 100
SB2	1×3		東西	N111.9度	4.50	3.35	15.08	33, 38, 39, 42, 49, 55, 73, 80
SB3	1×3		東西	N113.8度	5.00	3.45	17.25	8, 9, 23, 27, 32, 36, 37A, 37B
SB4	2×3	側柱	東西	N112.5度	4.05	3.65	14.78	34, 47, 48, 50, 53, 54, 56, 58, 62, 63, 79, 376
SB5	1×2		東西	N86.9度	2.95	2.35	6.93	70, 72, 75, 76, 99, 179
SB6	2×3	前柱	南北	N1.8度	6.40	4.10	26.24	77, 84, 88, 89, 94, 96, 122, 350, 351, 352, 355, 363, 411
SB7	1×3		南北	N4.5度	4.55	2.85	12.97	173, 174, 175, 177, 183, 186, 405, 406
SB8	2×3	前柱	南北	N3.8度	6.10	3.30	20.13	278, 282, 286, 292, 294, 296, 297, 312, 316, 317, 327, 330, 340

第3表 片山遺跡の地区 土坑等一覧

SK番号	図原	形態	直径 (cm)	長さ (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	備	考
1	29	不整	(300)	250	20	20	石器出土	
3	29	円	63	—	66	—		
5	29	不整	112	71	21	—		
7	29	楕円	100	48	9	—		
35	30	楕円	63	53	19	—		
43	30	不整	(360)	(90)	(32)	—		
45	30	不整楕円	77	30	12	—		
46	30	溝状	433	110	25	—		
104	31	不整	(464)	(80)	(24)	—		
112	31	不整楕円	168	90	13	—		
113	31	不整楕円	84	62	8	—		
114	31	不整楕円	105	100	26	—		
115	31	不整	56	40	10	—		
118	31	不整円	115	112	8	—		
119	31	不整楕円	160	96	27	—		
123	32	楕円	88	32	8	—		
124	32	不整楕円	140	65	25	—		
159	32	不整楕円	150	90	13	—		
161	32	不整	105	82	6	—		
164	32	楕円	67	38	21	—		
165	32	不整楕円	130	71	22	—		
167	32	不整楕円	280	202	30	—		
169	33	不整	250	166	30	—		
170	33	不整円	110	95	20	—		
176	33	円	—	—	16	44		
178	33	不整	96	80	17	—		
180	33	不整	325	280	28	—		
181	34	不整楕円	78	46	9	—		
187	34	不整楕円	106	50	17	—		
188	34	不整楕円	87	58	20	—		
191	34	不整楕円	55	40	10	—		
194	34	不整	220	165	39	—		
195	34	不整	72	47	8	—		
196	34	円	42	—	13	—		
198	34	不整	122	57	10	—		
201	34	不整楕円	154	76	12	—		
202	35	不整	(280)	110	33	—		
203	35	不整	(216)	110	28	—		
211	35	不整楕円	88	50	24	—		
212	35	不整楕円	120	77	22	—		
213	35	不整楕円	55	28	10	—		
214	35	不整楕円	117	84	15	—		
215	36	不整	280	170	16	—		
217	36	不整楕円	93	43	20	—		
218	36	不整楕円	72	39	30	—		
221	36	不整	114	94	33	—		
223	36	楕円	58	50	16	—		
224	36	楕円	52	30	21	—		
225	36	不整	110	80	20	—		
236	36	楕円	78	50	20	—		
238	37	楕円	46	30	14	—		
249	37	不整楕円	67	40	17	—		
250	37	不整楕円	178	118	15	—		
254	37	不整楕円	128	79	28	—		
270	37	不整	120	60	(32)	—		
286	37	楕円	84	53	10	—		
300	38	楕円	68	52	10	遺物が一括出土		
302	37	溝状	223	54	19	—		
306	37	楕円	47	22	10	—		
311	39	不整楕円	182	70	33	—		
315	37	楕円	77	55	15	—		
319	39	楕円	77	44	23	—		
333	39	不整楕円	123	65	30	—		
335	39	不整楕円	84	47	15	—		
337	39	円	(50)	48	12	—		
338	39	不整楕円	115	84	33	—		
339	39	楕円長方形	175	100	44	—		
344	39	不整	144	134	12	—		
346	36	不整	170	(103)	41	—		
348	39	不整楕円	48	39	10	—		

第5章 皿辻遺跡

第1節 本発掘調査区の層序と遺構面

本発掘調査にあたっては、まず調査区内での地層の堆積状況と層相を把握するため、重機による表土層の除去と平行して、調査区の壁面沿いに地層観察用のトレンチを掘削し、地層の堆積状況を把握しつつ遺構面の調査をおこなった。

南壁では、現表土直下には遺跡が立地する丘陵を形成する、硬化した黄褐色のシルト～粘土層（地山）が検出された（図版45 第7層）。この堆積物は、高位段丘を構成する大阪層群の一部と考えられる。地山面は東から西へ緩やかに傾斜して高度を下げるが、この高度差を平坦化して農地とするため、人為的な盛土がおこなわれている（図版45 第2層）。また、古土壌層（いわゆる遺物包含層）は、まったく遺存していなかった。

第2節 遺構と遺物

1. 概要

近世以降の溝・畦畔及び柱穴状の遺構を検出した。遺構のうち、畦畔（SF6・7）は地山面上に直接構築され、これに沿って溝（SD4・5）が設けられていた。また4基の柱穴は、いずれも地山面上からの検出である。出土した遺物はごく少量で、畦畔盛土内、溝埋土、および遺構検出面に至るまでの盛土（第2層）中より出土したものである。

2. 遺構と遺物

(1) 畦畔・溝（図版45・46 写真図版65～69）

【遺構】

畦畔SF6・7および溝SD4・5は、調査区北東部に始まって直線的に西へと延び、途中、ほぼ直角に屈曲して、直線的に南壁に至る。SF6とSF7は元来同一の畦畔であったと考えてよいが、屈曲するコーナー部が確認調査のトレンチによって分断されていたため、個別の遺構番号を付与した。

調査区東壁での断面観察によれば、SF6・7は地山面上に複数回の盛土をおこなうことで構築されており、SD4・5はSF6・7の裾部にわずかな掘り込みをもって構築され、その埋没に伴う堆積物が、SF6の傾斜面に沿ってはい上がるような自然堆積の状況を見せていた（図版47 第4層）。

SD4はSF6の北に接して検出されたが、3mほどで消失する浅い溝である。SD5はSF6の南側からSF7の東側に接して延び、南壁に至る。いずれの溝内も、シルト質細砂～細砂によって埋没していた。

【遺物】（第4図）

出土遺物はごくわずかであったが、SD5の埋土中より、図化する磁器の皿1点が出土している（第4図）。口縁部はごく弱い切り込みで8弁の輪花に作



第4図 皿辻遺跡出土
染付磁器

られ、底部は蛇の目高台である。銅板印刷により、内面には草花（菊花か）と蝶が、外面には簡略化された籠の絵付けがなされている。絵付けは青藍色であるが、全体に発色は悪く、にじみも多いなど粗雑な印象を受ける。近代（19世紀後半以降）の所産と考えられる。

その他、図示していないが、SD4より藍色の絵付けが施されている磁器碗の小片、SD5より土師器の細片、中世の所産かと思われる須恵器の細片、SF7より磁器の細片が出土している。また、遺構外から型紙刷りによる黒みがかかった藍色の絵付けが施された磁器碗の口縁部が出土している。

(2) 柱穴状遺構

【遺構】（図版46 写真図版70）

調査区中央付近から南東部にかけて、直径35cm～57cm、深さ7cm～22cmを測る4基が検出された。断面観察によれば、いずれの遺構も柱穴を特徴づける柱痕は認められなかった。またSP8では、平面精査で遺構の可能性があるとした部分は、地山の風化・土壌化したものと判断された。

こうした観察結果から、4基のうちSP8は人為的な所産ではなく、他の柱穴状遺構も人為的要因よりも自然的要因（植物による擾乱など）によって形成された可能性が高いものと思われる。

なお柱穴状遺構内から遺物は出土していない。

(3) その他の遺物

調査区内の表土層および盛土層より、幕末期以降の磁器ないし陶器の小片が7点、近世以降に属する瓦の小片が1点、土師質炮烙の小片1点、所属時期不明の土師器および須恵器片各1点とごく少量の遺物が出土している。

第3節 小結

今回の調査で検出された遺構は、近世～近代における調査区付近での農地開墾に伴うものと考えられる。遺構および出土遺物が僅少であるため、明確に判断し難い面があるものの、この開墾で、本来丘陵上を覆っていた表土層および古土壌層はほぼ完全に除去された。さらに丘陵上部の地層も、高い側が削平されて平坦化され、露出した地山面上に畦畔・溝が構築されたようである。

その後、段丘上では開墾と耕地の整理がおこなわれて、開墾初期の耕地区画の一部は盛土下に埋没したのであろう。今回の調査では、近世末以降のこのような開発の経緯が明らかとなった。

また皿注遺跡では、遊離遺物として中世に属する可能性がある須恵器片が出土していることから、調査区周辺の開発が、中世ないしはそれ以前に開始された可能性が指摘できよう。隣接する片山遺跡においては、弥生時代中期に遡る遺構群が検出されていることから、調査区周辺の開発がさらに古い可能性も捨象できない。

第6章 自然科学的分析

片山遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定)

(株) 加速器分析研究所

1 測定対象試料

片山遺跡は、兵庫県加古川市八幡町下村に所在し、台地の縁辺に立地する。測定対象試料は、遺構から出土した炭化物3点である(第4表)。試料1は弥生時代、試料2、3は平安時代と推定されている。

2 測定の意義

遺構の時期を明らかにする。特にSX23出土試料1についてはSD41との関係を検討する。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸(AAA: Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/l (1M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と第4表に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO₂)を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置(NEC社製)を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度(¹³C/¹²C)、¹⁴C濃度(¹⁴C/¹²C)の測定を行う。測定では、米国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) $\delta^{14}\text{C}$ は、試料炭素の¹⁴C濃度(¹⁴C/¹²C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表した値である(第4表)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ¹⁴C年代(Libby Age: yrBP, 第4表)は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0 yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用し、 $\delta^{14}\text{C}$ によって同位体効果を補正する(Stuiver and Polach 1977)。¹⁴C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、¹⁴C年代の誤差($\pm 1\sigma$)は、試料の¹⁴C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC (percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の¹⁴C濃度の割合である。pMCが小さい(¹⁴Cが少ない)ほど古い年代を示し、pMCが100以上(¹⁴Cの量が標準現代炭素と同等以上)の場合

合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正されている（第4表）。

- (4) 暦年較正年代（または単に較正年代）とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差（ $1\sigma = 68.3\%$ ）あるいは2標準偏差（ $2\sigma = 95.4\%$ ）で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない ^{14}C 年代値である（第5表の「暦年較正用（yrBP）」）。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal20較正曲線（Reimer et al. 2020）を用い、OxCalv4.4較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正の結果を第5表（ $1\sigma \cdot 2\sigma$ 暦年代範囲）に示す。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。今後、較正曲線やプログラムが更新された場合、「暦年較正用（yrBP）」の年代値を用いて較正し直すことが可能である。

6 測定結果

測定結果を第4・5表に示す。

試料の ^{14}C 年代は、試料1が $2130 \pm 20\text{yrBP}$ 、試料2が $940 \pm 20\text{yrBP}$ 、試料3が $1180 \pm 20\text{yrBP}$ である。暦年較正年代（ 1σ ）は、試料1が $195 \sim 61\text{cal BC}$ 、試料2が $1045 \sim 1157\text{cal AD}$ 、試料3が $776 \sim 890\text{cal AD}$ の間に各々複数の範囲で示される。試料1は弥生時代中期頃に相当し（小林2009）、推定に一致する。また試料2、3も平安時代との推定に整合する結果となっている。

試料の炭素含有率はすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

小林謙一 2009 近畿地方以東の地域への拡散、西本豊弘編、新弥生時代のはじまり 第4巻 弥生農耕のはじまりとその年代、推山閣、55-82

Reimer, P. J. et al. 2020 The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP), *Radiocarbon* 62(4), 725-757

Stuiver, M. and Polach, H. A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

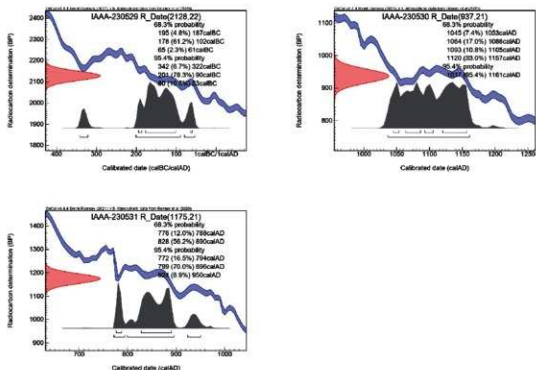
第4表 放射性炭素年代測定結果（ $\delta^{13}\text{C}$ 、 ^{14}C 年代(Libby Age)、pMC）

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-230529	1	調査地区:A・B地区 遺構名:SD41内 調査番号:2017004 層位:焼土	炭化物	AAA	-26.24 ± 0.19	2,130 ± 20	76.72 ± 0.21
IAAA-230530	2	調査地区:C地区 遺構名:SB6(P89) 調査番号:2018038 層位:埋土(完掘)	炭化物	AaA	-27.16 ± 0.20	940 ± 20	88.99 ± 0.24
IAAA-230531	3	調査地区:C地区 遺構名:SB8(P340) 調査番号:2018038 層位:埋土	炭化物	AAA	-28.16 ± 0.19	1,180 ± 20	86.39 ± 0.23

[IAA 登録番号: #C088]

第5表 放射性炭素年代測定結果（暦年較正用¹⁴C年代、較正年代）

測定番号	試料名	暦年較正用yrBP	較正条件	1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
IAAA-230529	1	2,128 ± 22	OxCal v4.4 InCal20	195calBC - 187calBC (4.8%) 178calBC - 102calBC (61.2%) 65calBC - 61calBC (2.3%)	342calBC - 322calBC (6.7%) 201calBC - 90calBC (78.3%) 80calBC - 53calBC (10.5%)
IAAA-230530	2	937 ± 21	OxCal v4.4 InCal20	1045calAD - 1053calAD (7.4%) 1064calAD - 1086calAD (17.0%) 1093calAD - 1105calAD (10.8%) 1120calAD - 1157calAD (33.0%)	1037calAD - 1161calAD (95.4%)
IAAA-230531	3	1,175 ± 21	OxCal v4.4 InCal20	776calAD - 788calAD (12.0%) 828calAD - 890calAD (56.2%)	772calAD - 794calAD (16.5%) 799calAD - 896calAD (70.0%) 924calAD - 950calAD (8.9%)



第5図 暦年較正年代グラフ

縦軸：¹⁴C年代 (yrBP)、横軸：較正年代 (cal BC/AD)、左上から右下にかけて較正曲線が推移

第7章 結語

第1節 片山遺跡

今回の調査において、片山遺跡で検出された遺構は、①方形周溝墓の可能性のある弥生時代中期後半の溝状遺構（A・B地区）、②弥生時代末～古墳時代初頭の竪穴建物跡（C地区）、③平安時代の掘立柱建物跡群および土坑群（C地区）、④江戸時代以降の掘立柱遺構および溝（A・B地区）に大別できる。以下、時期別に加古川市教育委員会発掘調査の成果（加古川市2021）を参照しつつ整理したい。

弥生時代中期後半 弥生時代中期後半はA・B地区において周溝墓の可能性のある溝状遺構および長方形の土坑を調査した。小結でも述べたが、加古川市教育委員会調査区でも同時期の遺構が周溝墓と土坑墓が調査されており、一連の墓域として理解できる可能性が高い。なお、A・B地区南半は削平されており、本来は遺構が存在した可能性もある。一方、C地区においては弥生時代中期の遺構は検出されておらず、遺物もないことから、墓域は台地の開折谷側から先端へ広がっていたと考えられる。

弥生時代終末期～古墳時代初頭 C地区においては、弥生時代終末期～古墳時代初頭に比定される竪穴建物3基と土坑1基を調査した。加古川市教育委員会調査区においても弥生時代後期後半の掘立柱建物が2棟調査されており、C地区一帯に当該期の集落が広がっていたのは間違いない。一方、A・B地区においては弥生時代終末期～古墳時代初頭の遺構は検出されておらず、遺物も出土していない。そのため、集落遺跡としての利用は弥生時代中期後半の開折谷側を意識した立地とは異なり、どちらかという段丘崖側を意識した立地と考えられる。



第6図 片山遺跡発掘調査区

平安時代 平安時代の集落については、掘立柱建物跡8棟と祭祀土坑1基含む土坑多数を調査した。小結で述べたように、SK300とSB8が平安時代前期後半、SB6が平安時代後期頃に位置付けられる。なお、C地区の掘立柱建物跡は主に二つのグループに分かれており、SB6～SB8は正方位を指向するのに対して、SB1～SB4は段丘崖に平行するように東西方向を指向している。また、加古川市教育委員会調査区においても平安時代後期～鎌倉時代と想定される側柱建物3基と総柱建物2基が調査されている。いずれも調査区外へ延びるため主軸の方位は明確でないものの、SB6～SB8の様な明確な正方位はとっておらず、SB1～SB4のグループと対応関係にあると考えられる。以上の点を踏まえて、平安時代前期後半～後期の建物跡群（SB6～SB8）から平安時代後期～鎌倉時代の建物跡群（SB1～SB4、加古川市教育委員会調査区の掘立柱建物跡）への変遷を現状では想定しておきたい。

以上の変遷を踏まえ、以下では片山遺跡の集落開墾について評価したい。平安時代の片山遺跡の遺構で最も古く位置付けられるのはSK300とSB8であるが、特にSK300はその位置関係からSB8に先行ないし直前に掘削されたと考えられ、集落遺跡の開墾時に極めて近い時期の遺構と考えることが可能である。そのSK300は、小結で述べたように祭祀の実施された土坑と考えられること、同一時期のSB8の真下という位置を踏まえると、SB8建築に伴う地盤を目的としたと想定できる。

さて、SK300の時期は9世紀後葉頃を想定したが、その時期は丁度、日本三代実録に貞観十年七月十五日酉午「播磨国言、今月八日地大震動、諸郡官舎、諸定額寺堂塔皆悉傾。」と記された播磨国大地震（868年）に重なるか、あるいはその後に対応する。片山遺跡ではSK300に遡る平安時代の資料はなく、集落は平安時代前期後半の9世紀後葉以降に成立したと考えられるため、その背景に播磨国大地震の影響による集落の移動があった可能性が指摘できる。そして、その集落開墾の起点となるSB8の建築に際してはSK300による念入りの祭祀が実施されたと考えておきたい。

なお、報告では71基の土坑群を平安時代以降と比定した。これらの土坑は本文でも述べたように、SK300以外は埋土の性質を主な根拠にしている。そのため、弥生時代あるいは近世以降の土坑が混じっている可能性も否定できない。土坑群の評価は近隣のさらなる調査の蓄積を待ちたい。

江戸時代末～近代 江戸時代末～近代については、A・B地区において耕作遺構と考える柱穴列および水田下底部の可能性のある窪みを調査した。いずれも集落の建物跡は検出されておらず、江戸時代の片山遺跡周辺は主に生産域として利用されていたと考えられる。

第2節 皿辻遺跡

皿辻遺跡では、江戸時代末～近代における畦畔や柱穴を調査した。時期は片山遺跡における生産活動が行われた時期と合致しており、台地上の農地開発が当該期に実施されたと考えられる。遺構、出土遺物ともに僅少ではあるが、考古学的に調査できた意義は小さくない。今後も、江戸時代という理由で安易に調査を放棄せず、丁寧な資料の蓄積を図る必要があるだろう。

参考文献

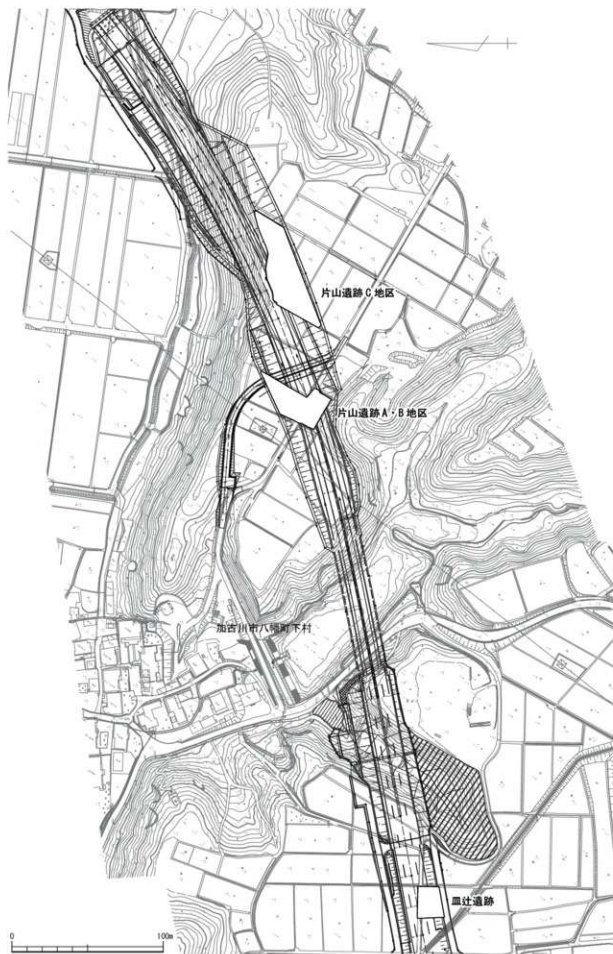
- 加古川市教育委員会2021『片山遺跡発掘調査報告書』加古川市文化財報告書34 加古川市教育委員会
- 寒川旭2012『巨大地震の世紀を迎えて』『ひょうごの道跡83号』公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター

第6表 掲載遺物一覧表

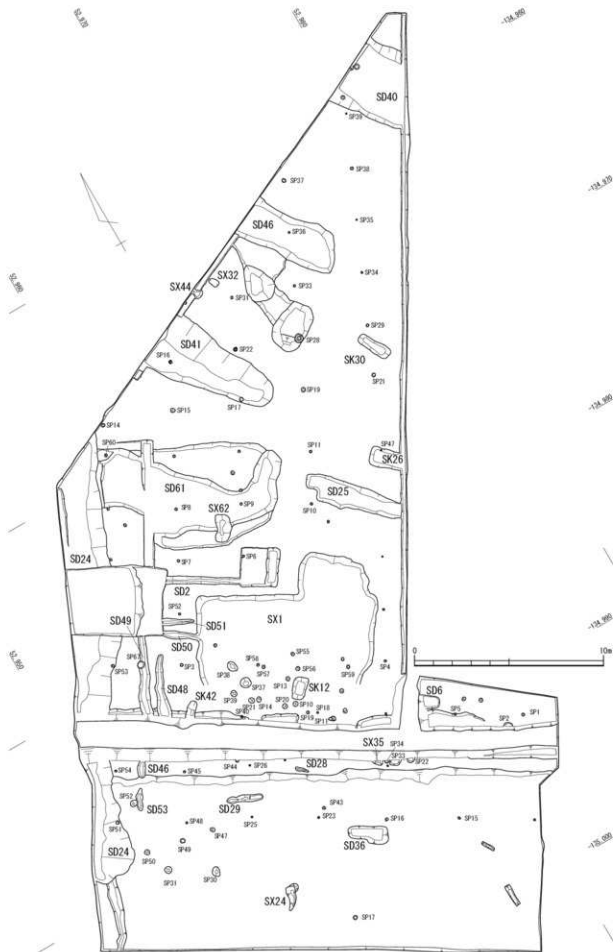
報告 番号	国取 番号	写真国 取番号	種別	器種	法量 (cm)				出土地区	出土遺構
					口径	器高	底径	重量 (g)		
1	42	58	弥生土器	甕	(18.6)	(4.0)	-	-	A・B地区	S205
2	42	58	弥生土器	甕	-	(6.05)	-	-	A・B地区	S205 土器片主
3	42	58	弥生土器	甕 (流部)	-	(5.05)	5.5	-	A・B地区	S205
4	42	58	弥生土器	甕 (流部)	-	(7.25)	4.8	-	A・B地区	S205 土器片主
5	42	58	弥生土器	甕 (流部)	-	(3.55)	-	-	A・B地区	S240
6	42	58	弥生土器	甕 (流部)	-	(4.55)	(4.0)	-	A・B地区	S240
7	42	58	弥生土器	高杯	(17.9)	(1.5)	-	-	A・B地区	S240
8	42	58	弥生土器	甕or甕 (流部)	-	(5.25)	6.25	-	A・B地区	S241
9	42	58	弥生土器	大口壺	(21.2)	(4.95)	-	-	A・B地区	S241 横土
10	42	58	弥生土器	壺	14.5	(4.8)	-	-	A・B地区	S246
11	42	58	弥生土器	甕	(13.4)	(4.85)	-	-	A・B地区	S246
12	42	58	弥生土器	甕	-	(4.55)	(5.0)	-	A・B地区	S246
13	42	58	弥生土器	甕	(18.7)	(1.5)	-	-	A・B地区	S261 小字
14	42	58	弥生土器	壺 (流部)	-	(13.4)	7.25	-	A・B地区	S261 南平
15	42	59	弥生土器	甕 (流部)	-	(5.9)	(5.7)	-	A・B地区	遺構検出面
16	42	59	弥生土器	蓋	(13.8)	(3.55)	-	-	A・B地区	S204内 横瓦部
17	42	59	弥生土器	杯	(9.4)	(3.4)	-	-	A・B地区	S204一拵
18	42	59	弥生土器	鉢	(28.2)	(3.2)	-	-	A・B地区	S204一拵
19	42	59	白磁	壺 (流部)	-	(1.6)	4.7	-	A・B地区	S204 南平
20	42	59	弥生土器	(把手)	長 (9.9)	幅 5.8	厚 2.7	-	A・B地区	遺構検出面
21	42	59	弥生土器	杯 (流部)	-	(1.2)	(7.2)	-	A・B地区	遺構検出面
22	42	59	瓦葺土器	羽釜	-	(3.05)	-	-	A・B地区	遺構検出面
23	43	60	弥生土器	壺	(15.8)	(6.15)	-	-	C地区	S2020
24	43	60	弥生土器	甕	(16.3)	(5.0)	-	-	C地区	S2020
25	43	60	土師器	甕	(16.6)	(2.6)	-	-	C地区	S2020
26	43	60	弥生土器	甕	-	(3.15)	-	-	C地区	S2020
27	43	60	土師器	高杯	-	(6.6)	-	-	C地区	P381 (S2020)
28	43	60	土師器	(流部)	-	(5.2)	5.85	-	C地区	P384 (S2020)
29	43	60	弥生土器	甕or壺 (流部)	-	(3.2)	(5.3)	-	C地区	S2020
30	43	60	弥生土器	甕 (流部)	-	(4.8)	(3.6)	-	C地区	S2020
31	43	60	弥生土器	壺 (流部)	-	(1.55)	(4.2)	-	C地区	S2020
32	43	60	弥生土器	(流部)	-	(3.4)	3.7	-	C地区	S2020
33	43	60	弥生土器	甕 (流部)	-	(3.6)	(4.6)	-	C地区	S2020
34	43	60	弥生土器	甕? (流部)	-	(2.3)	(4.8)	-	C地区	S2020
35	43	60	弥生土器	甕 (流部)	-	(3.05)	(5.1)	-	C地区	S2020
36	43	60	土師器	(流部)	-	(3.35)	(4.6)	-	C地区	S2020
37	42	60	土師器	(流部)	-	(3.05)	(5.7)	-	C地区	S2020
38	43	61	土師器	甕	(13.8)	(5.05)	-	-	C地区	SP350 (S2031)
39	43	61	土師器	鉢?	(17.8)	(3.65)	-	-	C地区	S2031
40	43	61	弥生土器	壺 (流部)	-	(3.45)	4.9	-	C地区	S2031
41	43	61	土師器	甕 (流部)	-	(3.3)	(5.4)	-	C地区	S2031
42	43	61	土師器	甕 (流部)	-	(3.0)	(4.0)	-	C地区	S2031 南北および北側
43	43	60	土師器	甕 (流部)	-	(3.4)	4.2	-	C地区	S2031
44	43	61	弥生土器	甕 (流部)	-	(3.1)	(4.6)	-	C地区	S2031
45	43	61	土師器	甕 (流部)	-	(2.75)	(6.2)	-	C地区	S2031
46	43	61	土師器	甕	(19.1)	(3.7)	-	-	C地区	S243
47	43	61	土師器	甕	(17.6)	(9.7)	-	-	C地区	S243
48	43	61	土師器	甕 (流部)	-	(2.8)	(6.0)	-	C地区	S243
49	43	61	弥生土器	壺 (流部)	-	(2.45)	4.2	-	C地区	S243付近堀南時
50	43	61	弥生土器	甕 (流部)	-	(3.3)	5.85	-	C地区	S243付近堀南時
51	43	61	弥生土器	甕 (流部)	-	(2.15)	(4.85)	-	C地区	包含層
52	43	61	弥生土器	甕 (流部)	-	(2.9)	(3.2)	-	C地区	包含層
53	44	61	土師器	杯or壺	-	(2.0)	(7.45)	-	C地区	P122 (S26)
54	44	62	弥生土器	甕	(12.25)	(3.0)	-	-	C地区	P122 (S26)
55	44	62	土師器	蓋	11.1	1.45	7.5	-	C地区	SK300
56	44	62	土師器	壺	(14.8)	3.5	(6.9)	-	C地区	SK300
57	44	62	土師器	壺	(13.7)	(3.6)	-	-	C地区	SK300
58	44	62	土師器	壺	(14.1)	(4.35)	(7.1)	-	C地区	SK300
59	44	62	土師器	壺	14.55	4.9	8.35	-	C地区	SK300
60	44	62	土師器	不明	-	(8.1)	-	-	C地区	SK300

報告番号	国庫番号	写真国庫番号	種別	器種	法量 (cm)				出土地区	出土遺構
					口径	器高	底径	重量(g)		
61	44	62	須恵器	甗	13.0	4.0	6.2		C地区	SK300
62	44	63	須恵器	甗	(16.3)	(5.5)	7.2		C地区	SK300
63	44	63	須恵器	甗	15.5	5.2	6.5		C地区	SK300
64	44	63	須恵器	甗	16.1	5.6	7.25		C地区	SK300
65	44	63	須恵器	甗	14.7	5.3	6.9		C地区	SK300
66	44	63	須恵器	甗	14.85	5.25	6.8		C地区	SK300
67	44	63	須恵器	甗	15.7	5.25	7.1		C地区	SK300
68	44	63	須恵器	甗	15.95	5.55	7.9		C地区	SK300
69	44	63	須恵器	甗	(15.7)	(5.65)	(7.1)		C地区	SK300
70	44	63	須恵器	甗	14.05	4.9	6.6		C地区	SK300
71	44	62	須恵器	杯	(13.4)	(3.45)	(7.0)		C地区	SK300
72	44	62	須恵器	甗	(14.0)	(3.75)	-		C地区	SK300
73	44	62	須恵器	甗	(13.7)	(3.65)	-		C地区	SK300
74	-	63	焼土		長 (3.8)	幅 (3.75)	厚 (2.9)	19.0	C地区	SK300
75	42	63	須恵器	甗	(11.3)	(1.95)	-		C地区	その他
76	第4区	染付磁器	皿		13.0	3.25	7.4		阻止遺跡	S05北平
報告番号	国庫番号	写真国庫番号	種別	器種	法量 (mm)				出土地区	出土遺構
					長さ	幅	厚み	重量(g)		
S1	第3区	59	打製石器	二次加工のある刮片	27.0	22.0	7.0	3.5	A・B地区	S024 一括
S2	第3区	59	石製品	火打石?	47.2	31.0	22.0	34.6	A・B地区	S024 一括
S3	第3区	59	打製石器	二次加工のある刮片	31.5	18.5	6.0	4.2	A・B地区	S31
S4	第3区	59	打製石器	二次加工のある刮片	31.5	24.0	6.0	5.4	A・B地区	表土
M1	第3区	59	銅製品	鍔金具 (釘隠し)	32.5	32.5	1.5	-	A・B地区	包含層
M2	-	59	銅製品	鐮管?	-	-	-	-	A・B地区	包含層

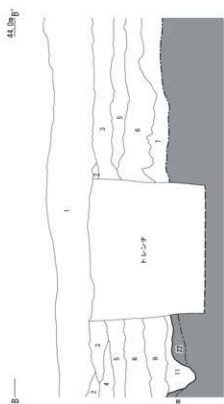
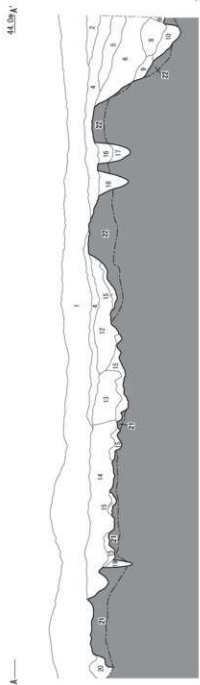
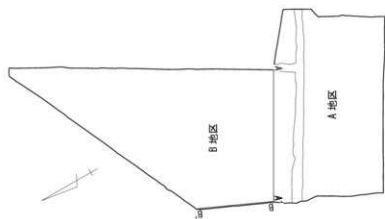
圖 版



片山遺跡・血辻遺跡調査区位置図

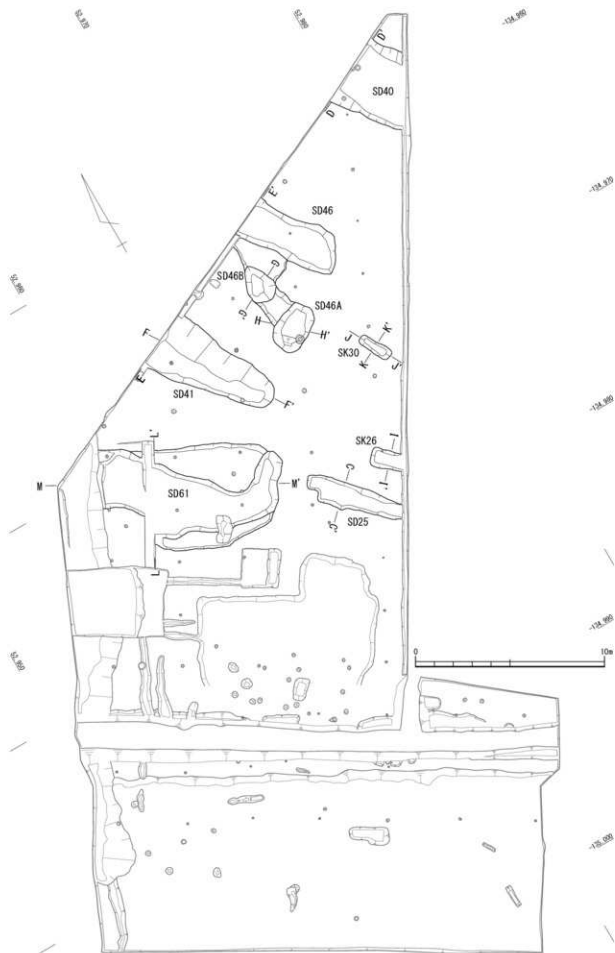


片山遺跡 A・B 地区全体図

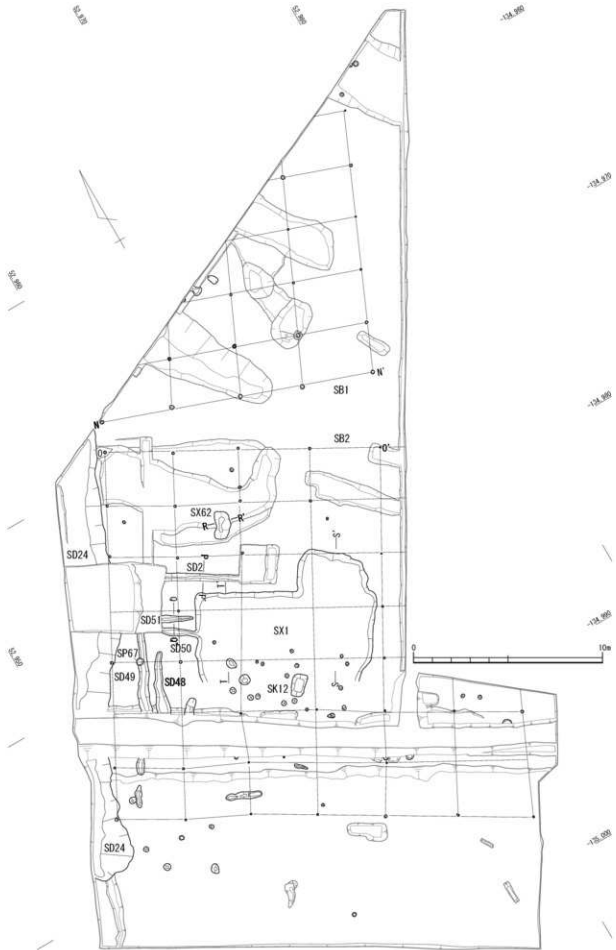


5. 10184.3 について黄褐色砂質シルト～細砂
 ϕ 1cm 以下の礫をわずかに含む 土層にしている
 基本部には土層の上層とまとえられる
6. 10184.4 について黄褐色細砂～細砂
 細砂の質に属し 礫を ϕ 5cm 以下の礫を数個を含む
 土層にしている 南端では礫が ϕ 10cm 以下の礫を多く含む
 フロット状を若干観察
7. 10185.6 明褐色砂質シルト 礫を ϕ 1cm 以下の礫を多く含む
 フロット状を若干観察
8. 10185.6 明褐色砂質シルト 礫を ϕ 1cm 以下の礫を多く含む
 フロット状を若干観察
9. 10185.4 について黄褐色シルト 土層にしている
 ϕ 5cm 層と同様、近代の礫土の一部と思われる
10. 10184.4 明褐色砂質シルト ϕ 5cm 以下の礫を多く含む、礫底の礫層のような層を示す
11. 10185.6 明褐色砂質シルト 7層の一部が強く土層化したものか、粗度が強い
12. 10184.4 明褐色砂質シルト ϕ 1cm 以下の礫を多く含む 粗砂部が連続する 近代の遺物を含む礫層
13. 10184.4 明褐色砂質シルト おそらくは礫層土の1部(もしくはフロット)
14. 10184.4 明褐色砂質シルト ϕ 1cm 以下の礫を多く含む 粗砂部が連続する 近代の遺物を含む礫層
15. 10185.3 について黄褐色細砂～中砂 ϕ 1cm 以下の礫を含む 10層で連続される層の上の段りか、
16. 10184.4 について黄褐色細砂～細砂 粗砂部を多く含む
17. 10185.4 について黄褐色シルト質土層
18. 10185.4 について黄褐色シルト 全体にフロット状を呈す
19. 10185.6 黄褐色砂質シルト 柱穴(9)の埋土か
20. 10185.6 黄褐色砂質シルト ϕ 5cm 以下の礫を含む 礫層土の一部か、
21. 10185.6 明褐色砂質シルト よく層まっている 礫山
22. 10185.6 明褐色砂質シルト 礫山

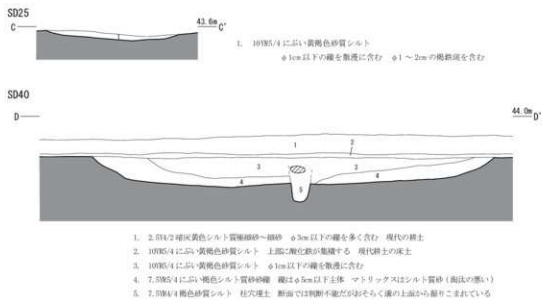
A・B地区南壁・西壁断面図



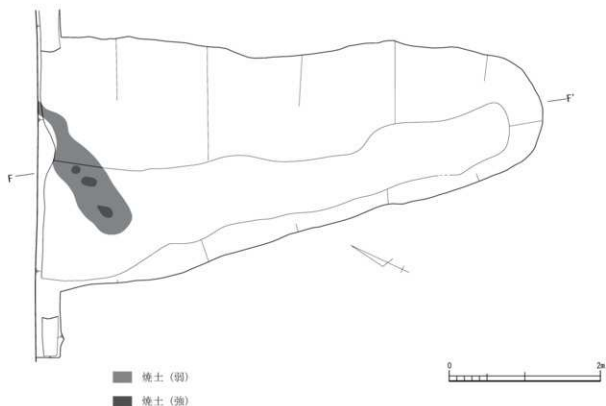
A・B地区弥生時代の遺構全体図



A・B地区江戸時代の遺構全体図

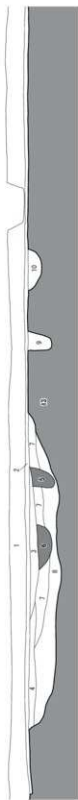


SD41 焼土検出

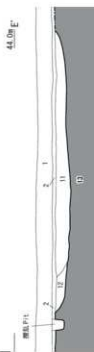


SD41 - SX46

E



1. 10787/4 明透色細砂～細砂 横断砂～φ2.5mの礫を多く含む 現代の粘土
2. 10785/6 黄褐色砂質シルト φ2.5m以下の礫をわずかに含む 黄土
3. 10784/4 褐色砂質シルト φ10cm以下の礫をわずかに含む
4. 10785/4 黄褐色砂質シルト φ1cm以下の礫をわずかに含む
5. 2. 10785/4 褐色砂質シルト 10785/6 明透褐色の粘土ブロックを多く含む
6. 2. 10785/6 明透色砂質シルト 10785/6 明透褐色の粘土ブロックを多く含む
7. 10785/6 明透色砂質シルト φ3.5mm以下の礫をわずかに含む
8. 10785/8 黄褐色砂質シルト 堆山の西縁部
9. 2. 10784/6 褐色砂質シルト 10785/6 明透褐色の粘土ブロックをわずかに含む
10. 2. 10785/4 にごい褐色砂質シルト 10785/6 明透褐色の粘土ブロックを1cm以下と厚約φ1mm以下を多く含む
11. 2. 10785/4 にごい黄褐色砂質シルト φ1cm以下の礫を含む
12. 2. 10784/6 褐色砂質シルト
13. 2. 10785/6 明透色砂質シルト 深く綿まっている 堆山



SD41

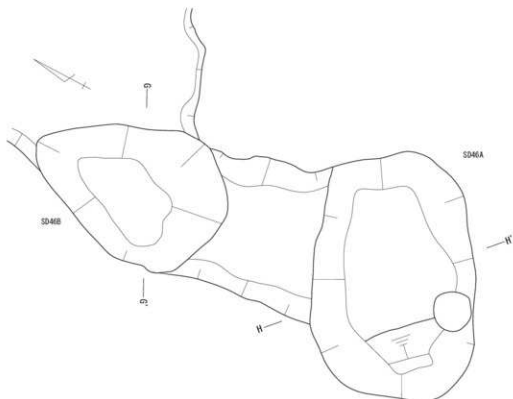


1. 10787/4 にごい黄褐色細砂
2. 10787/6 明透色細砂 礫化度が強く集積する
3. 10785/4 黄褐色細砂
4. 10786/6 明透色シルト質細砂
5. 10786/6 明透色シルト 厚2cm以下の礫を少量含む
6. 2. 10785/6 明透色シルト質細砂
7. 10785/6 黄褐色シルト
8. 10785/6 黄褐色砂質シルト
9. 10784/6 にごい黄褐色砂質シルト φ2cm以下の10785/6 明透褐色砂質シルトの粘土ブロックを含む
10. 10784/6 褐色砂質シルト
11. 10785/6 黄褐色砂質シルト 堆山崩壊土の内部入または人為的土

粘土

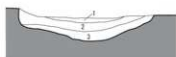


SD46



SD46B

G— 43.8m G'



1. 10YR5/4 に近い黄褐色砂質シルト 上面付近に根跡泥が堆積する
2. 10YR4/6 褐色砂質シルト 1層より緑色を呈する
3. 10YR5/4 に近い黄褐色シルト。φ5mm以下の礫をわずかに含む

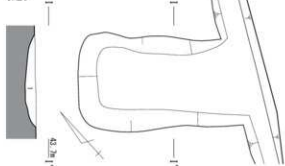
SD46A

H— 43.8m H'



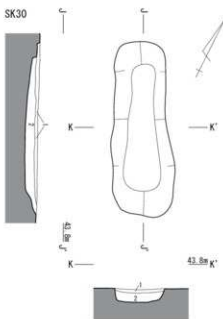
1. 7.0YR6/8 褐色シルト質硬細砂 上面付近に根跡泥が堆積する
φ5mm以下の小礫を少量含む。粘性強。しまりやや強

SK26

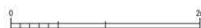


1. 10YR6/6 明褐色硬細砂 φ3cm以下の円礫を少量含む
φ5mm以下の地山の褐色ブロック少量含む。粘性強。しまりやや強

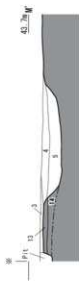
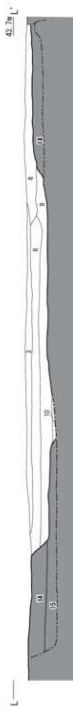
SK30



1. 10YR5/4 に近い黄褐色砂質シルト φ1cm以下の礫をごく微量に含む
2. 10YR4/6 褐色砂質シルト 地山による埋土（人為）と思われる



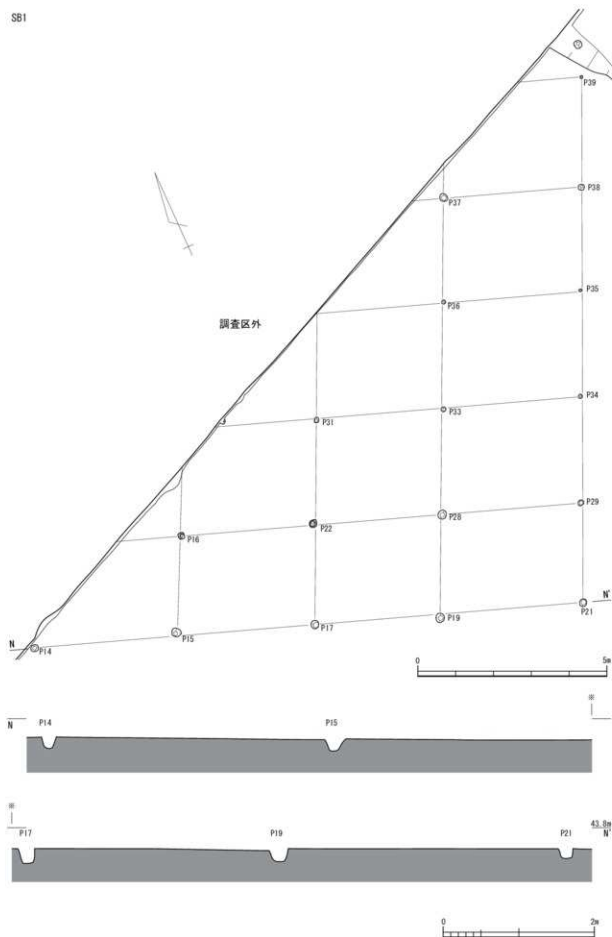
S061



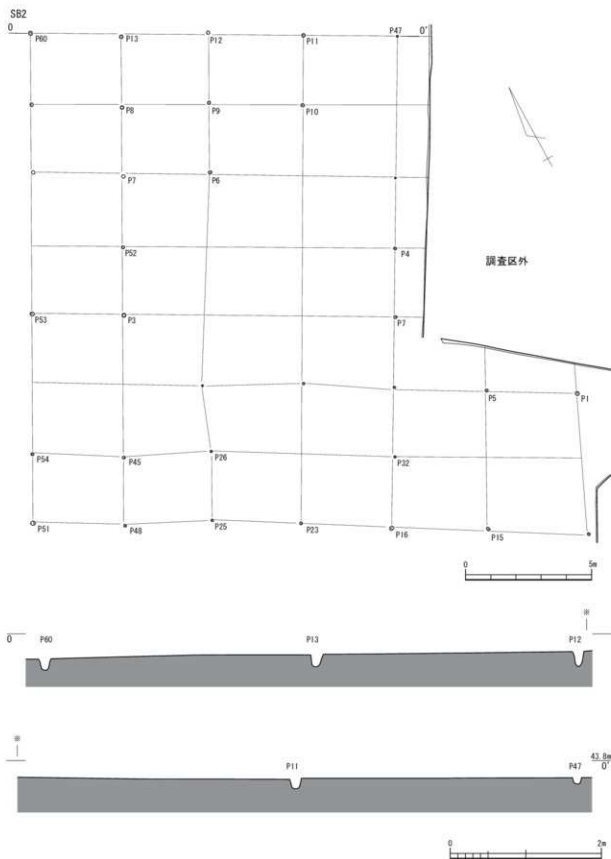
1. 10785.0に古い炭褐色細砂～細砂 0.1m以下の層を多数含む
2. 10784.0に古い炭褐色細砂シルト。上部部に0.3m以下の層を多く含む。一部流水の影響のように見える
3. 10785.0～5.0に古い炭褐色～黄褐色砂質シルト。0.2m以下の層をごく数回に含む。よく積み重なっている。江戸時代の埋設物を包含する集積層。この層及びその層をS061と称する
4. 7.0784.0黄褐色砂質シルト。埋没層を多く含む
5. 10784.0黄褐色砂質シルト。0.1m以下の層を数回に含む
6. 10784.0黄褐色砂質シルト。2層のプロック0.2～3.0m以下を含む。よく積み重なっている。埋没層
7. 7.0784.0黄褐色砂質シルト。黄褐色砂質シルトの砂状プロックを含む
8. 5.0784.0黄褐色シルト質埋没砂。粘土質と認められる。0.1～2.0m以下の層をごく数回に含む。粘土土部を少量包含する
9. 7.0784.0黄褐色シルト質埋没砂～砂質シルト。2層よりも土層化が強い。粘土土部を包含
10. 7.0784.0黄褐色砂質シルト。やや積み重なる
11. 10785.0に古い炭褐色砂質シルト。黄褐色砂質シルトの砂状プロックを含む
12. 10785.0黄褐色砂質シルト。全体にプロック状の層積。入角層と認められる。埋山土を用いた集積層が
13. 7.0785.0黄褐色砂質シルト。6層上層の集積層と思われれる(埋山)
14. 7.0785.0黄褐色砂質シルト。0.1m以下の層を含む。強く様化した段丘構造層(埋山)
15. 10785.0黄褐色砂質シルト。0.3m以下の層を含む。段丘構造層(埋山)
16. 10786.0黄褐色砂質シルト。埋山と認められる(埋山すぎ)



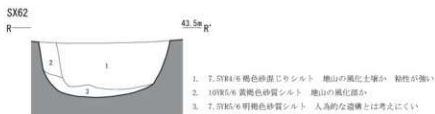
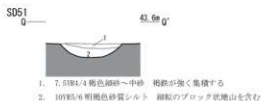
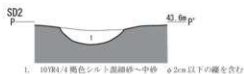
S81

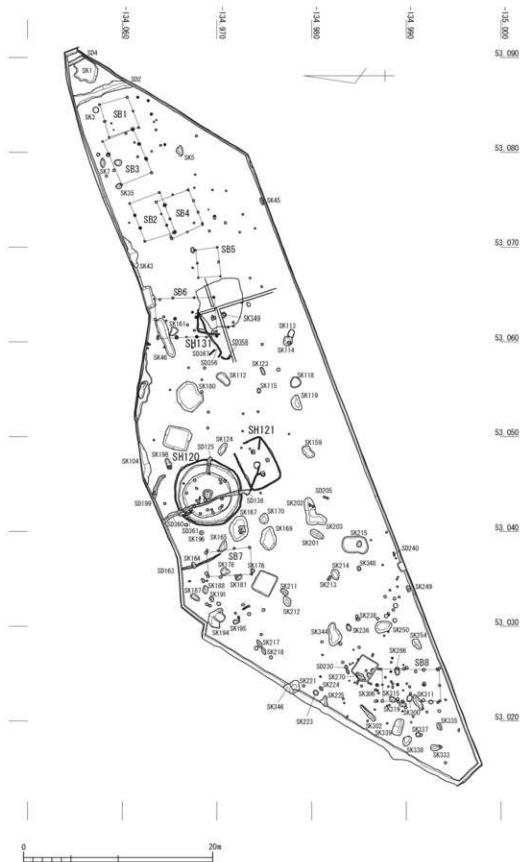


A・B地区江戸時代の遺構(1)

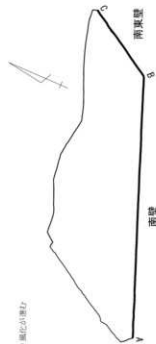


A・B 地区江戸時代の遺構②



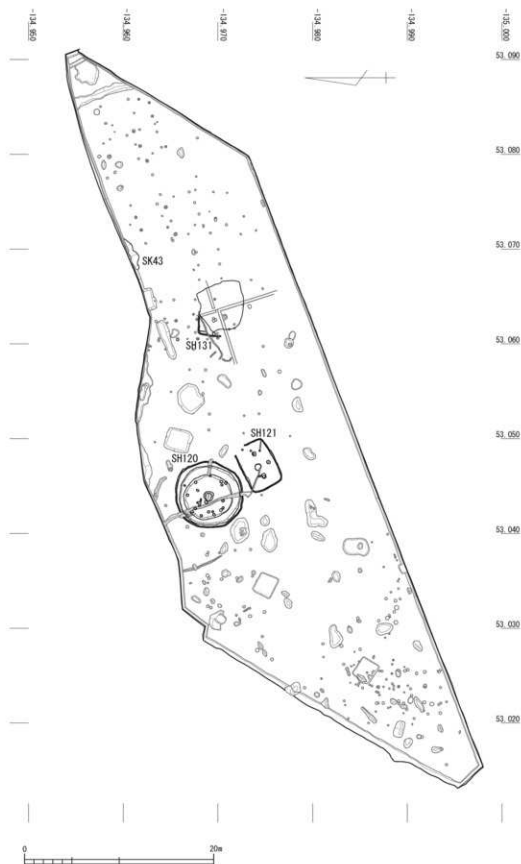


片山遺跡 C 地区全体図

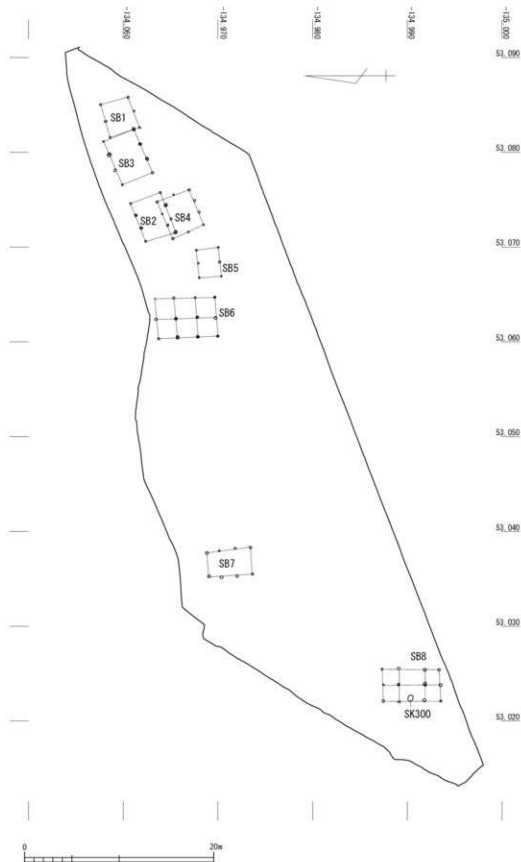


1. 現代堆土
2. 現代堆土・砂土 10YR5/3 褐色シルト質砂 3層のブロック層による
3. 砂土層 (水田土壌) 2.0YR3/1 オリーブ褐色 凝結しり砂
4. 土質層 1 10YR5/6 黄褐色シルト質砂 砂～シルト混状に混じる 9層のブロック層による
5. 土質層 2 10YR5/6 黄褐色シルト質砂 砂～シルト混状に混じる
6. 高気層の風化土層 1 10YR5/8 黄褐色シルト 9層の風化土層 7層より風化が強い
7. 高気層の風化土層 2 10YR5/9 黄褐色シルト 9層の風化土層 7層より風化が強い
8. 高気層の風化土層 3 10YR5/9 黄褐色シルト 9層の風化土層 7層より風化が強い
9. 高気層 (原山) 2.5YR5/8 明褐色シルトの塊状に混じる砂 凝結しり砂
- a. 現代河成堆土
- b. 遺構堆土

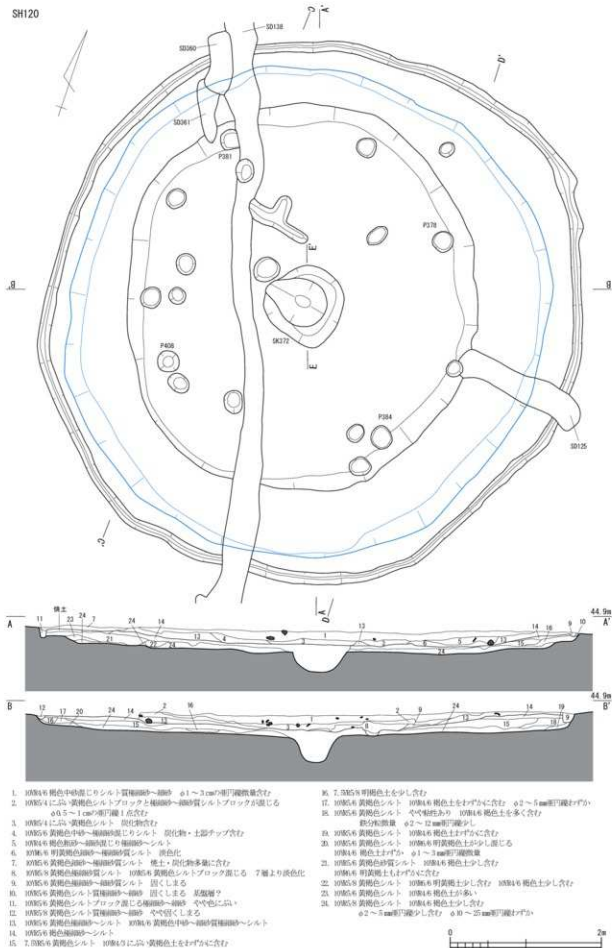
C地区南壁・南東壁断面図



C地区弥生時代～古墳時代遺構位置図



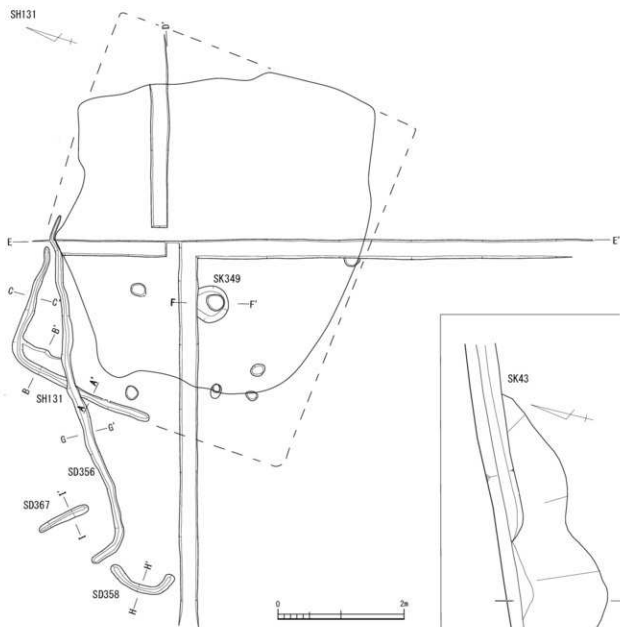
C 地区掘立柱建物跡位置図



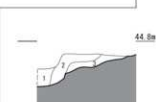
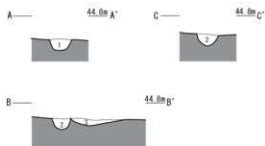
1. 10084 褐色中砂質じりシルト質礫層砂～礫砂 φ1～3cmの屑円礫数を含む
2. 10085 4に多い黄褐色シルトブロックと礫層砂～礫砂質シルトブロックが混じる φ0.5～1cmの屑円礫も含む
3. 10085 4に多い黄褐色シルト 炭化を含む
4. 10084 6 黄褐色中砂～礫層砂じりシルト 炭化物・土器チップを含む
5. 10084 6 褐色中砂～礫層砂じり礫層砂～シルト
6. 10086 6 明黄褐色細砂～礫層砂質シルト 淡色化
7. 10085 6 黄褐色中砂～礫層砂質シルト 塵土・炭化物多量を含む
8. 10085 6 黄褐色礫層砂質シルト 10085 6 黄褐色シルトブロック混じる 7層より淡色化
9. 10085 6 黄褐色礫層砂～礫砂質シルト 固くしめる
10. 10085 6 黄褐色シルト質礫層砂～礫砂 固くしめる 灰層?
11. 10085 6 黄褐色シルトブロック混じる礫層砂～礫砂 やや色に濃い
12. 10085 6 黄褐色シルト質礫層砂～礫砂 やや固くしめる
13. 10085 6 黄褐色礫層砂～シルト 10084 6 黄褐色中砂～礫層砂質シルト
14. 10085 6 褐色礫層砂～シルト
15. 7. 10085 6 黄褐色シルト 10084 6 に多い黄褐色土をわずかに含む

16. 7. 10085 6 明褐色土を少し含む
17. 10085 6 黄褐色シルト 10084 6 褐色土をわずかに含む φ2～5mmの屑円礫がやや
18. 10085 6 黄褐色シルト やや粘性あり 10084 6 褐色土を多く含む 粘分が微量 φ2～12mmの屑円礫少し
19. 10085 6 黄褐色シルト 10084 6 褐色土をわずかに含む
20. 10085 6 黄褐色シルト 10084 6 明黄褐色土を少し混じる
21. 10084 6 褐色土がやや φ1～3mmの屑円礫数
22. 10085 6 黄褐色少質シルト 10084 6 褐色土を少し含む
23. 10084 6 明黄褐色土をわずかに含む
24. 10085 6 黄褐色シルト 10084 6 明黄褐色土を少し含む 10084 6 褐色土が多
25. 10085 6 黄褐色シルト 10084 6 褐色土を少し含む φ2～5mmの屑円礫がやや
26. 10084 6 褐色土を少し含む φ0～25mmの屑円礫がやや

C地区 SH120(1)



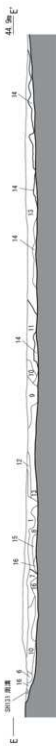
SH131 周溝



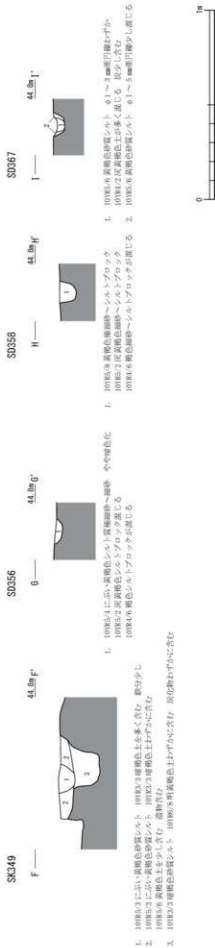
- 10R5/4 黄褐色シルト～堆積砂ブロック 10R6/6 明黄褐色細砂～堆積砂ブロック
10R6/1 褐色細砂～堆積砂ブロック 覆せる
- 10R5/1 褐色シルト質堆積砂～細砂 10R6/6 明黄褐色細砂～堆積砂ブロック 覆せる
- 10R5/3 に近い黄褐色シルト 覆じり細砂～堆積砂 全て覆くしまる

1. 7.0R5/6 明褐色砂質シルト 10R5/4 褐色土をわずかに含む
φ1～3mmの礫をわずかに含む
2. 10R5/6 黄褐色砂質シルト わずかに粘性あり 10R5/4 に近い黄褐色土を多く含む
φ2～4mmの礫を少し含む 炭化物とマンガン少し
3. 7.0R5/6 明褐色砂質シルト わずかに粘性あり 10R5/4 に近い黄褐色土を少し含む
φ2～10mmの礫を少し含む 炭化物とマンガンわずら



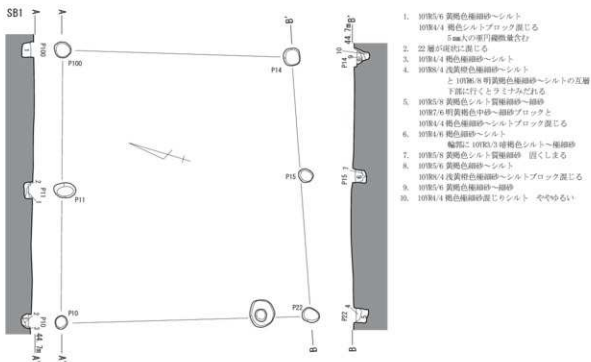


1. 10083.0 暗褐色砂質シスト 0.1～10.0m厚層・垂状層少し含む 10085.2 灰黄褐色土少し混じる 軟分がわずかに含む 堆物を多く含む
2. 10085.0 黄褐色砂質シスト 0.2～5.0m厚層少し含む 10083.0 暗褐色土わずかに混じる 10086.4 には、黄褐色土わずかに混じる 軟分がわずかに含む 10083.0 暗褐色土少し混じる
3. 10085.0 黄褐色砂質シスト 0.1～10.0m厚層・垂状層少し含む 10083.0 暗褐色土少し混じる 10086.4 には、黄褐色土わずかに混じる 軟分がわずかに含む 堆物を多く含む
4. 10083.0 暗褐色砂質シスト 0.1～10.0m厚層・垂状層少し含む 10085.2 灰黄褐色土少し混じる 10086.4 には、黄褐色土わずかに混じる 軟分がわずかに含む 堆物を多く含む
5. 10085.0 黄褐色砂質シスト 0.1～10.0m厚層・垂状層少し含む 10083.0 暗褐色土少し混じる 軟分がわずかに含む (粗・シメ) 10086.2 黄褐色土多く混じる 10083.0 暗褐色土多く混じる
6. 10083.0 暗褐色砂質シスト 0.1～10.0m厚層・垂状層少し含む 10085.2 灰黄褐色土少し混じる 軟分がわずかに含む 10086.4 には、黄褐色土わずかに混じる 軟分がわずかに含む
7. 10083.0 暗褐色砂質シスト 3層が混じる
8. 10085.0 黄褐色砂質シスト 0.2～12.0m厚層少し含む 10083.0 暗褐色土少し混じる 10086.2 灰黄褐色土わずかに含む (粗・シメ) 硬い
9. 10085.0 黄褐色砂質シスト 0.2～5.0m厚層少し含む 10083.0 暗褐色土わずかに混じる 10086.4 には、黄褐色土わずかに混じる 軟分がわずかに含む (粗・シメ)
10. 10083.0 暗褐色砂質シスト 1層が混じる
11. 10085.0 黄褐色砂質シスト 1層が混じる
12. 10085.0 黄褐色砂質シスト 1層が混じる
13. 10085.0 黄褐色砂質シスト 0.1～2.0m厚層・角状層わずかに含む 10083.0 暗褐色土少し混じる 軟分がわずかに含む (粗・シメ)
14. 10083.0 暗褐色シスト 0.1～2.0m厚層・角状層わずかに含む 10086.8 明黄褐色土わずかに混じる 10083.0 暗褐色土わずかに混じる 軟分がわずかに、シメ多く含む
15. 10085.0 黄褐色砂質シスト 0.1～2.0m厚層・角状層少し含む 10084.4 褐色土多く混じる 軟分がわずかに含む
16. 10085.0 黄褐色砂質シスト 0.2～10.0m厚層・垂状層少し含む 10086.4 には、黄褐色土わずかに混じる 10086.2 灰黄褐色土少し混じる 軟分がわずかに含む

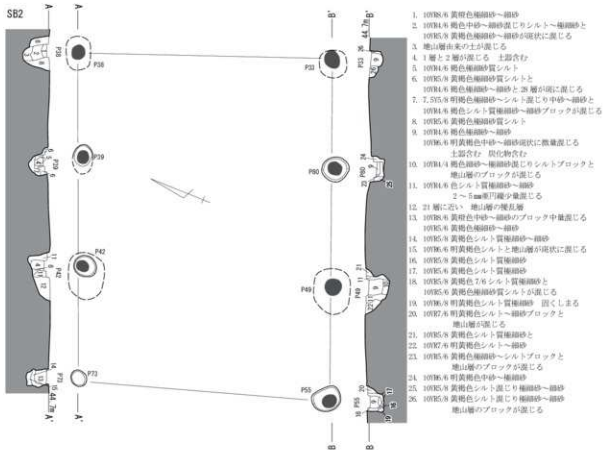


1. 10083.0 暗褐色砂質シスト 10083.0 暗褐色土多く含む 軟分少し
2. 10083.0 暗褐色砂質シスト 10083.0 暗褐色土少し含む 堆物含む
3. 10083.0 暗褐色砂質シスト 10086.8 明黄褐色土わずかに含む 灰化層わずかに含む

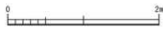
C地区 SH131[2]・SK349[2]・SD356[2]・SD358[2]・SD367[2]



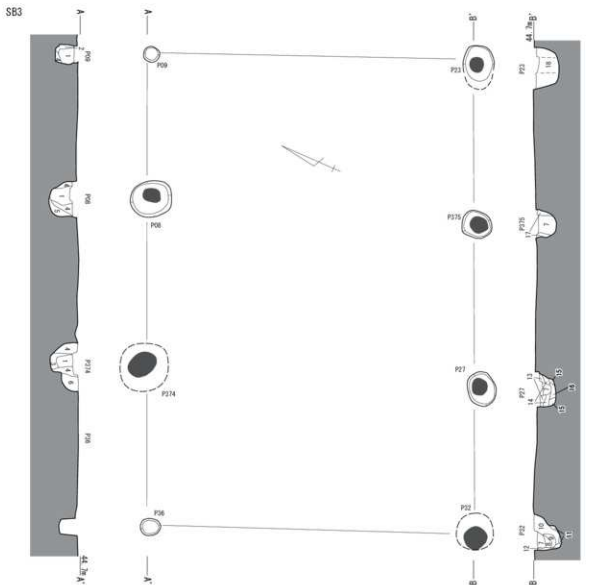
1. 10005.6 黄褐色細砂～シルト
2. 10004.4 褐色シルトブロック状になる
5mm程度の層状少量含む
3. 21 層が成層状に露出する
4. 10004.4 褐色細砂～シルト
5. 10005.6 明黄褐色細砂～シルトの互層
下部に行くときミナミだれる
6. 10005.6 明黄褐色シルト質細砂～細砂
7. 10007.6 明黄褐色中砂～細砂ブロックと
10004.4 褐色細砂～シルトブロック状になる
8. 10004.6 褐色細砂～シルト
9. 10005.6 明黄褐色シルト質細砂～細砂
層間に10004.4 褐色細砂～シルト～細砂
層が露出する
10. 10005.6 明黄褐色シルト質細砂～細砂
11. 10004.4 浅黄褐色細砂～シルトブロック状になる
12. 10005.6 明黄褐色細砂～細砂
13. 10004.4 褐色細砂～シルト



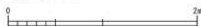
1. 10005.6 黄褐色細砂～細砂
2. 10004.6 褐色中砂～細砂混じりシルト～細砂と
10005.6 黄褐色細砂～細砂が硬状に露出する
3. 地山層由来の土が露出する
4. 1 層と2 層が露出する 土層含む
5. 10004.6 褐色細砂質シルト
6. 10005.6 黄褐色細砂質シルトと
10004.6 褐色細砂～細砂と2層が露出する
7. 2.505.6 明黄褐色細砂～シルト混じり中砂～細砂と
10004.6 褐色シルト質細砂～細砂ブロックが露出する
8. 10005.6 明黄褐色細砂質シルト
9. 10004.6 褐色細砂～細砂
10. 10006.6 明黄褐色中砂～細砂硬状に少量露出する
土層含む 炭化物含む
11. 10004.4 褐色細砂～細砂混じりシルトブロックと
地山層のブロックが露出する
12. 10004.6 色シルト質細砂～細砂
2～5mm層少量露出する
13. 21 層に近い 地山層の層状露出
14. 10005.6 黄褐色中砂～細砂のブロック中露出する
15. 10005.6 明黄褐色シルトと地山層が硬状に露出する
16. 10005.6 明黄褐色シルト質細砂
17. 10005.6 明黄褐色シルト質細砂
18. 10005.6 明黄褐色2層シルト質細砂と
10005.6 明黄褐色細砂質シルトが露出する
19. 10006.6 明黄褐色シルト質細砂 混じり露出する
20. 10007.6 明黄褐色シルト～細砂ブロックと
地山層が露出する
21. 10005.6 明黄褐色シルト質細砂と
22. 10007.6 明黄褐色シルト～細砂
23. 10005.6 明黄褐色細砂～シルトブロックと
地山層のブロックが露出する
24. 10006.6 明黄褐色中砂～細砂
25. 10005.6 明黄褐色シルト混じり細砂～細砂
26. 10005.6 明黄褐色シルト混じり細砂～細砂
地山層のブロックが露出する



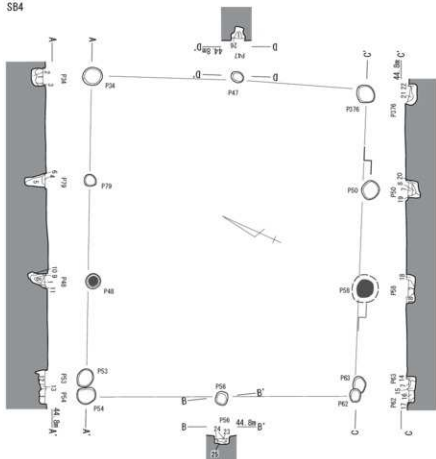
C 地区 SB1・SB2



1. 10YR4/6 棕色中砂～細砂 ややゆるい 炭化物含む
2. 10YR5/8 黄褐色極細砂～細砂 ややゆるい 炭化物含む
3. 10YR6/8 明黄褐色細砂～極細砂 じりシルトブロックと 7.5YR5/6 明褐色シルト 蓋じり極細砂～細砂ブロックが混じる
4. 10YR5/8 黄褐色シルト質極細砂～細砂 やや固くしまる
5. 17 層のブロックと 10YR4/6 褐色シルト質極細砂～細砂ブロック混じる
6. 10YR5/8 黄褐色シルト質極細砂～細砂 やや砂粒が目立つ
7. 10YR4/4 棕色中砂～細砂ブロックと 10YR4/4 浅黄褐色中砂～細砂ブロックが混じる
8. 10YR3/3 暗褐色極細砂～細砂質シルト 炭化物含む
9. 10YR7/6 明黄褐色極細砂～細砂質シルト
10. 10YR4/6 棕色極細砂～細砂と 17 層が混に混じる
11. 10YR4/4 棕色極細砂 じりシルト
12. 10YR4/6 棕色極細砂～細砂
13. 10YR5/8 黄褐色極細砂～細砂 じりシルト
14. 7.5YR5/6 明褐色シルト 蓋じり中砂～極細砂
15. 10YR6/8 明黄褐色極細砂～細砂質シルト 炭化物含む
16. 17 層がブロック状に混じる
17. 10YR5/8 黄褐色シルト 蓋じり極細砂～細砂
18. 2.5Y4/8 赤褐色極細砂～シルトと 2.5Y7/4 浅黄褐色極細砂質シルトが混在に混じる 軟弱層上部は色が黄色化 固くしまる



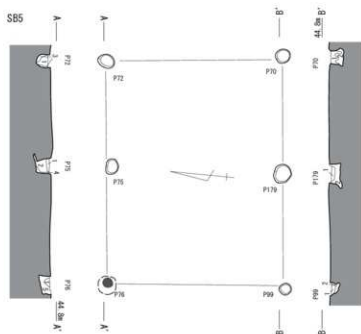
SB4



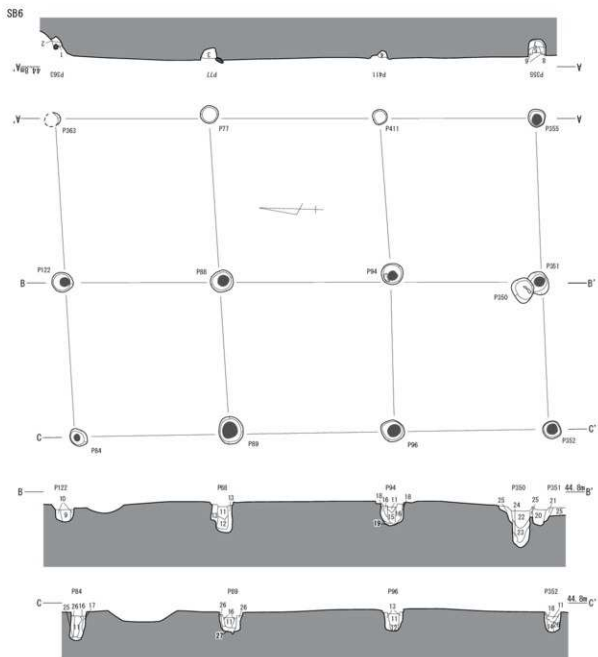
19. 10195.6 明黄色色シルト質極細砂～細砂
20. 地山層が侵乱される
21. 10195.6 明黄色色シルト混じり極細砂～細砂 1～2cm大扉～東内縁少量露出
22. 10195.6 明黄色色中砂～細砂極砂 やや固くしまる
23. 10195.6 黄褐色シルト質極細砂～細砂
24. 10194.6 褐色色シルト質極細砂
25. 10195.6 黄褐色シルト質極細砂と地山層が混じる
26. 10195.6 黄褐色極細砂質シルトと地山層が混じる

1. 10195.6 黄褐色極細砂～細砂
縦向きに混じる
2. 10195.6 明黄色色シルト質極細砂～細砂
3. 10195.6 明黄色色シルト質極細砂～細砂
と地山層のブロック混じる
4. 10195.6 黄褐色極細砂～細砂
5. 10195.6 黄褐色中砂～細砂
10195.4に広い黄褐色 シルト
ブロック混じる
6. 10195.4に広い黄褐色
シルト質極細砂～細砂
ブロック混じる
7. 10195.6 黄褐色シルト質極細砂～細砂
8. 10195.6 明黄色色極細砂～細砂
9. 10195.6 黄褐色極細砂～細砂質シルト
10. 10195.6 黄褐色シルト質極細砂～細砂
11. 10195.6 黄褐色シルト質極細砂～細砂
12. 10195.6 黄褐色シルト質極細砂～細砂
13. 1層と13層同一 炭化物を含む
下部 地山層とシルトブロック混じる
14. 1層・13層とはほぼ同一だが、
10195.6 黄褐色極細砂～細砂が塊状を呈す
1cm大扉内縁も含む
15. 10195.6 黄褐色シルト質極細砂～細砂
シルト多し
16. 10195.6 黄褐色シルト質極細砂～細砂
地山層がやや侵乱される
17. 16層がさらに細かくなっている
18. 10195.6 黄褐色シルト質極細砂ブロックと
地山層のブロックが混じる

SB5



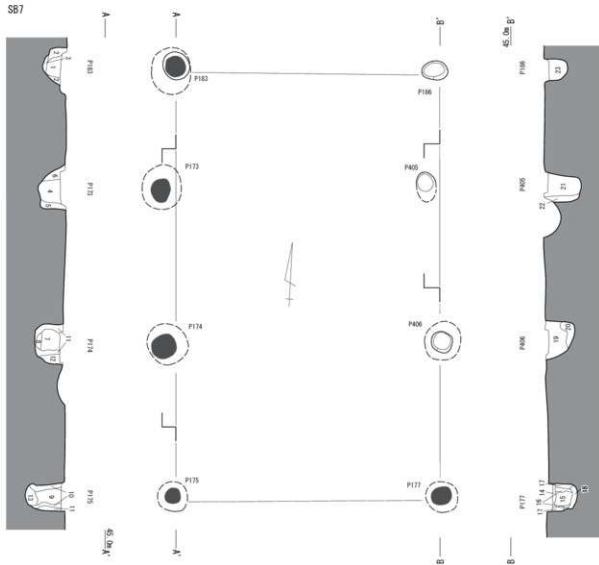
1. 10195.6 黄褐色シルト質極細砂～細砂
2. 地山層と 10195.6 黄褐色極細砂質シルトブロック混じる
3. 地山層に 10195.6 黄褐色シルト質極細砂～細砂が混じる
4. 地山層がやや侵乱される
5. 地山層がやや侵乱される 10195.6 黄褐色シルトが混じる



1. 10YR4.6 褐色シルト質礫砂～細砂
2. 10YR5.9 黄褐色シルト質礫砂～細砂と地山層が混じる
3. 10YR4.6 褐色シルト質礫砂～細砂 下部に地山層のブロック混じる
4. 10YR4.6 褐色シルト質礫砂～細砂
5. 10YR4.6 褐色シルト質礫砂～細砂 下部に 10YR5.8 明黄褐色細砂～細砂が混入する
6. 10YR7.8 明黄褐色シルト質礫砂～細砂
7. 10YR4.4 褐色シルト質礫砂～細砂 地山層の配置数量異なる 炭化物を含む
8. 10YR4.4 褐色シルト質礫砂と 10YR5.6 黄褐色シルト質礫砂が混在している
9. 10YR4.6 褐色シルト質礫砂～細砂 土器を含む
10. 10YR4.6 褐色シルト質礫砂と地山層のブロックが混じる
11. 10YR4.4 褐色シルト質礫砂～細砂に 10YR5.8 黄褐色シルト質礫砂が混在している
炭化物を含む
12. 10YR5.4 に近い黄褐色シルトブロックに 10YR5.8 黄褐色シルト質礫砂ブロックが混じる
13. 10YR5.8 黄褐色シルト質礫砂～細砂 角礫層中に 10YR5.4 に近い黄褐色シルトが堆積
14. 10YR4.6 褐色シルト混じり極細砂～細砂 空隙率あり 4cm大車円礫 1点含む
15. 10YR4.6 褐色シルト質礫砂～細砂 やや砂質あり
16. 10YR5.8 黄褐色シルト質礫砂～細砂
17. 10YR4.6 褐色シルト質礫砂～細砂 地山層のブロック混じる
18. 10YR5.4 に近い黄褐色細砂質シルト
19. 層のシルトが多い
20. 10YR4.4 褐色シルト φ2～7mm車円礫少し 炭少し 数分粒わずかに含む
7.0YR5.8 明黄褐色土わずかに混じる
21. 10YR5.9 黄褐色砂質シルト 7.0YR5.8 明褐色土を少し含む
数分マンガンを含む
22. 7.0YR5.8 明褐色シルト 数分少し φ3～10mm車円礫少し含む
10YR4.4 褐色土わずかに含む 土器少量に多い
23. 7.0YR5.8 明褐色シルト φ3～15mm車円礫わずかに含む
炭わずかに含む
24. 7.0YR5.8 明褐色砂質シルト 10YR4.4 褐色土を少し含む
炭、マンガンを含むに含む φ1～4mm車円礫少し含む
25. 10YR5.6 黄褐色砂質シルト 数分マンガンを含む
7.0YR5.8 明褐色土わずかに含む φ1～5mm車円礫少し含む
26. 16層と17層が混じる
27. 10YR4.6 褐色細砂～細砂質シルト やや砂質あり

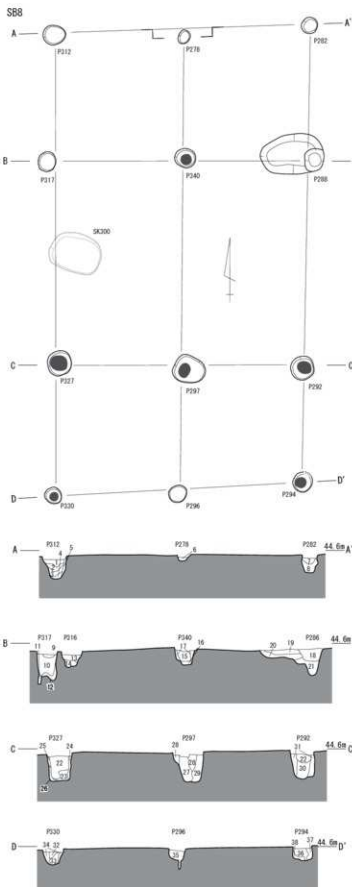
C地区 SB6

SB7



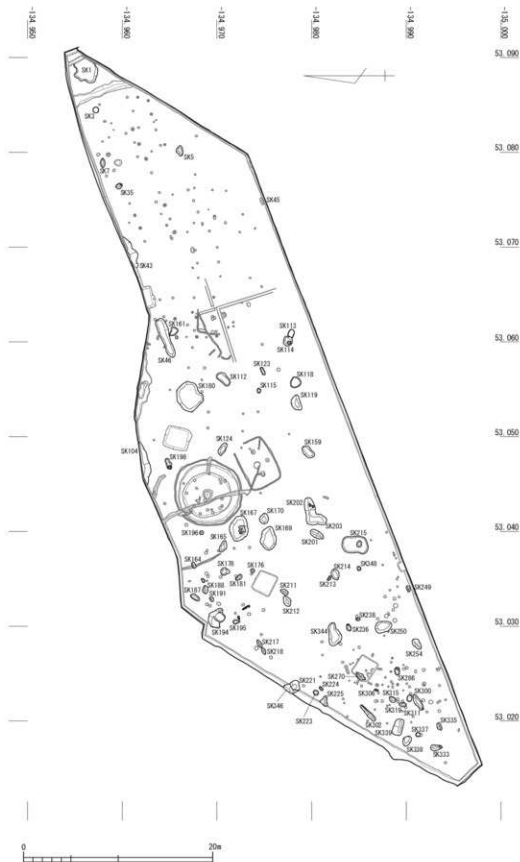
1. 10R4.6 褐色シルト 10R5/4 に多い黄褐色土わずかに含む $\phi 3 \sim 5$ mm 卵礫わずかに含む
2. 10R5.6 黄褐色シルト 鉄分数量 10R5/4 に多い黄褐色土数量 $\phi 1 \sim 3$ mm 卵礫少し
3. 10R5.6 褐色シルト 鉄分少し 10R4.6 褐色土わずかに含む $\phi 2 \sim 6$ mm 卵礫少し含む
4. 10R4.6 褐色シルト 10R5/3 に多い黄褐色土を多く含む 鉄分少し $\phi 2 \sim 5$ mm 卵礫わずかに含む 土器含む
5. 10R4.6 褐色シルト 10R5/4 に多い黄褐色土わずかに含む $\phi 3 \sim 5$ mm 卵礫わずかに含む
6. 10R5.6 黄褐色シルト 鉄分数量 10R5/4 に多い黄褐色土数量 $\phi 1 \sim 3$ mm 卵礫少し
7. 10R4.6 褐色中砂～細砂混じりシルト～極細砂 炭化物粒状に含む
8. 10R5.6 黄褐色シルト混じり極細砂～細砂
9. 10R4.6 褐色中砂～細砂質シルト～極細砂
10. 10R4/4 褐色シルト混じり極細砂～中砂
11. 10R5.8 黄褐色シルト質極細砂～細砂 10R5/4 に多い黄褐色極細砂質シルトブロック数量混じる
12. 10R5.8 黄褐色シルト混じり極細砂～細砂 10R5/4 に多い黄褐色極細砂質シルトブロック数量含む
13. 10R4.6 褐色シルト質極細砂～細砂
14. 10R4.6 褐色極細砂～細砂混じり中砂 炭化物、マンガンを含む
15. 10R5/4 黄褐色シルト～極細砂質中砂～細砂 炭化物、マンガンを含む
16. 10R5.6 黄褐色シルト質極細砂～細砂
17. 10R5.8 黄褐色シルト混じり極細砂～細砂 やや固くしめる
18. 10R5.8 黄褐色シルト混じり極細砂～細砂 10R5/4 に多い黄褐色極細砂質シルト転写ブロック多量混じる
19. 10R4.6 褐色シルト 10R5/4 に多い黄褐色土わずかに含む $\phi 2 \sim 7$ mm 卵礫わずかに含む
20. 10R4.6 褐色シルト 10R5/4 に多い黄褐色土多く含む 鉄分少し $\phi 3 \sim 7$ mm 卵礫わずかに含む
21. 10R4.6 褐色シルト 10R5/4 に多い黄褐色土多く含む
22. 10R5.6 黄褐色シルト 鉄分数量 10R5/4 に多い黄褐色土少し $\phi 1 \sim 3$ mm 卵礫少し
23. 10R5.6 黄褐色シルト 10R4.6 褐色土少し含む $\phi 2 \sim 3$ mm 卵礫わずかに含む





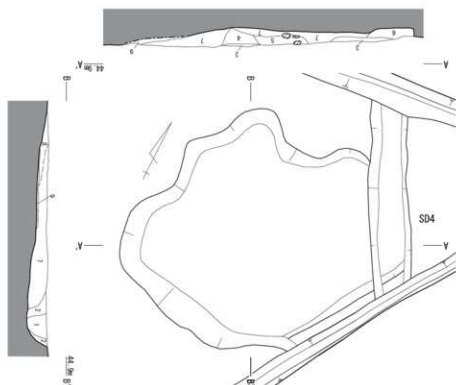
1. 10YK5.6 黄褐色砂質シルト 10YR6.1 褐色土多く含む
φ1～3mm卵礫少し含む
2. 10YK5.4 にごい黄褐色砂質シルト 10YK5.1 褐色土含む
φ2～5mm卵礫少し含む
3. 10YR6.1 褐色砂質シルト 10YK5.4 にごい黄褐色土含む
φ2～5mm卵礫少し含む
4. 10YK5.9 黄褐色砂質シルト 10YR7.8 黄褐色土少し含む
φ1～3mm卵礫少し含む
5. 10YK5.8 黄褐色砂質シルト 10YR6.1 褐色土少し含む
6. 10YR6.4 にごい黄褐色 シルト混じり極細砂～細砂 空隙あり
7. 10YR6.4 にごい黄褐色 シルト混じり極細砂～細砂
炭化物極微量含む
8. 10YK5.6 黄褐色極細砂～細砂質シルト ややゆるい
10YK4.4 褐色極細砂～細砂質シルトブロック極微量含む
9. 10YK4.4 褐色シルト～極細砂混じり中砂～細砂 炭化物含む
10. 10YK4.4 褐色中砂～細砂 10YK5.9 黄褐色
シルト質極細砂～細砂ブロックが混じる 炭化物含む
11. シメカキ
12. 10YR4.6 褐色シルト質極細砂～細砂
29層のブロック・凝団が混じる 色ややにごい ゆるい
13. 10YR4.4 褐色中砂～細砂 ゆるい 炭化物含む
14. 地山層のブロックと10YK3.4 暗褐色 極細砂～細砂ブロック混じる
15. 10YR6.4 にごい黄褐色シルト混じり極細砂～細砂
炭化物含む 地山層極微量含む 土部片含む
16. 10YK5.6 黄褐色シルト質極細砂～細砂 やや固くしめる
地山層がややブロック状
17. 10YK5.4 にごい黄褐色中砂～極細砂質シルト 炭化物片含む
18. 10YR6.2 灰黄褐色シルト質極細砂～細砂 やや固くしめる
10YK5.3 にごい黄褐色極細砂～シルトブロック
10YK3.3 暗褐色極細砂～細砂ブロック混じる
19. 10YR6.2 灰黄褐色シルト質極細砂～細砂
20. 10YR4.6 褐色極細砂～細砂質シルト ややしめる
10YK5.1 褐色極細砂～細砂ブロック極微量混じる
21. 10YK3.3 暗褐色シルト質極細砂～細砂のブロックと
地山層のブロックが混じる 空隙多い
22. 10YK6.6 明黄褐色極細砂質シルト
10YK5.1 褐色中砂～細砂ブロック混状に少量混じる
23. 10YK5.6 黄褐色極細砂～細砂質シルト
24. 10YR4.3 にごい黄褐色極細砂混じりシルト 暗色化
25. 10YR4.4 褐色シルト混じり極細砂～細砂
26. 10YK5.9 黄褐色シルト質極細砂～細砂 空隙あり ややゆるい
27. 10YK3.4 暗褐色シルト質極細砂
炭化物極微量混じる
28. 10YK4.4 褐色シルト混じり極細砂～細砂 10YK5.8 黄褐色
29層・地山層のブロック混状に極微量混じる
空隙あり ややゆるい
29. 10YK5.6 黄褐色極細砂～細砂質シルト
30. 10YR6.6 明黄褐色極細砂質シルトブロックと
10YK5.1 褐色中砂～細砂ブロック混状に混じる
空隙あり ゆるい
31. 10YK5.8 黄褐色極細砂質シルト
10YK5.1 褐色極細砂～細砂ブロック混状に少量混じる
32. 10YR6.6 明黄褐色砂質シルト
10YR6.1 褐色土多く含む φ2～5mm卵礫少し含む
33. 10YR6.6 明黄褐色砂質シルト
34. 10YR6.1 褐色土わずかに含む
35. 10YK5.8 黄褐色シルト
10YR6.1 褐色土わずかに含む
φ1～3mm卵礫わずかに含む
36. 10YK5.4 にごい黄褐色シルト
10YK5.1 褐色土多い φ2～3mm卵礫少し含む
鉄分わずかに含む
37. 10YR4.4 褐色シルト混じり中砂～極細砂 ゆるい 空隙あり
地山層のブロックが混じる
38. 10YR6.6 明黄褐色極細砂質シルト ややゆるい
地山層に比べて色がにごい

C地区 SB8



C 地区土坑位置图

SK1



1. 10B4/4 褐色シルト～砂礫 粘性強い φ2 cm程度の垂直線含む 土器片含む
2. 7.5B4/4 褐色シルト～砂礫 粘性わずかにあり
3. 10B4/4 褐色シルト～砂礫 粘性強い
4. 10B5/8 黄褐色シルト～砂礫 粘性強い
5. 5B4/8 赤褐色シルト～砂礫 粘性強い マンガン少し含む φ5～8 cm垂直線含む
6. 7.5B5/6 明褐色シルト～砂礫 粘性わずかにあり マンガン少し含む
7. 5B4/6 明褐色シルト～砂礫 粘性ややあり マンガン含む
8. 7.5B4/6 明褐色シルト～砂礫 粘性強い
9. 7.5B4/6 明褐色シルト～砂礫 マンガン多い 鉄分あり

SK3



44.9m



1. 5B4/8 赤褐色土 7.5B5/6 明褐色土混じる 少し粘性あり
2. 7.5B5/6 明褐色土 粘性強い 5B4/8 赤褐色土混じる 粘性強い
3. 5B4/8 赤褐色土 7.5B5/6 明褐色土混じる 粘性極めて強い
4. 5B4/8 赤褐色土 φ10 cm程度の垂直線多く含む

SK5

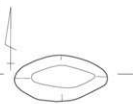


44.9m



1. 7.5B5/8 明褐色シルト 10B4/6 褐色土を少し含む
2. 10B5/8 黄褐色砂質シルト 10B4/6 褐色土を少し含む 粘性ややあり
3. 10B5/8 黄褐色砂質シルト マンガン・鉄分多く含む 5B4/8 赤褐色土が少し混じる 粘性わずかにあり 10B4/6 褐色土も含む

SK7



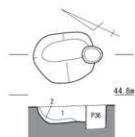
44.9m



1. 10B4/6 褐色土 粘性わずかにあり 10B5/8 黄褐色土少し含む 炭化物少し含む マンガンわずかに含む
2. 10B5/6 黄褐色土 粘性ややあり 10B6/6 明黄褐色土少し含む マンガン多く含む 炭化物少し含む

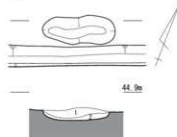


SK35



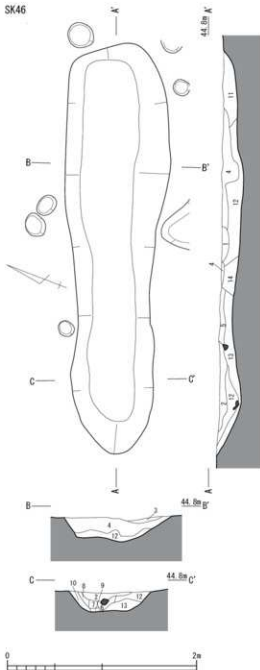
1. 7.5YR5.6 明褐色砂質シルト やや粘性あり
10YR5.4 に近い黄褐色土少し混じる
鉄分少し含む
2. 7.5YR5.8 明褐色シルト やや粘性あり
φ2~6mm 礫少し含む
鉄分わずかに、シミ状に少し混じる

SK45



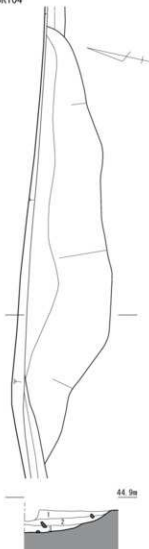
1. 7.5YR5.3 に近い褐色細砂 7.5YR5.1 褐色土ブロック状に含む
2. 7.5YR5.4 に近い褐色シルト質細砂~細砂

SK46



1. 10YR5.4 に近い黄褐色砂質シルト 10YR4.4 褐色土を多く含む
φ1~3mm 礫をわずかに含む
2. 10YR5.4 に近い黄褐色砂質シルト 10YR4.4 褐色土を多く含む
炭化物を含む
3. 10YR4.4 褐色砂質シルト φ2~4mm 礫を少し含む 土部含む
4. 10YR5.4 に近い黄褐色砂質シルト 10YR4.4 褐色土を少し含む
φ2~8mm 礫を少し含む
5. 7.5YR5.8 明褐色砂質シルト 10YR5.4 に近い黄褐色土多く含む
鉄分少し含む φ1~3mm 礫を少し含む
6. 10YR5.6 黄褐色砂質シルト 10YR4.6 褐色土を少し含む
φ1~3mm 礫を少し含む
7. 10YR5.6 黄褐色砂質シルト 10YR4.6 褐色土を少し含む
φ3~6mm 礫を少し含む
8. 10YR5.6 黄褐色砂質シルト 10YR4.6 褐色土を少し含む
9. 7.5YR5.8 明褐色砂質シルト 10YR5.8 明黄褐色土わずかに含む
マンガン多い φ3~6mm 礫と混含む
10. 7.5YR5.8 明褐色砂質シルト 10YR5.8 明黄褐色土わずかに含む
炭化物をわずかに含む
11. 10YR5.4 に近い黄褐色砂質シルト 10YR4.4 褐色土わずかに含む
φ2~8mm 礫を少し含む φ10~30mm 礫を少し含む
12. 7.5YR5.6 明褐色砂質シルト 鉄分少し、マンガンわずかに含む
10YR5.6 黄褐色土を少し含む φ1~4mm 礫を少し含む
13. 7.5YR5.8 明褐色砂質シルト 鉄分少し、マンガンわずかに含む
10YR5.6 黄褐色土をわずかに含む φ1~20mm 礫を少し含む
14. 10YR5.6 黄褐色シルト

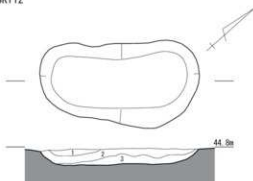
SK104



1. 10YR5/8 黄褐色細砂質シルト やや固くしまる
10YR5/3 褐色卑細砂～シルトブロンク層状に含む
φ3～10 mm 礫 1～2 点含む マンガン定量的微量沈着
2. 10YR5/8 黄褐色細砂質シルト やや固くしまる
φ30～50 mm 礫 1～2 点含む
3. 10YR5/8 黄褐色シルト質細砂～細砂 やや固くしまる
φ30～50 mm 礫微量含む

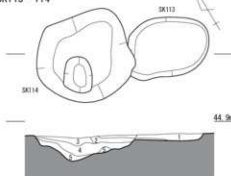


SK112



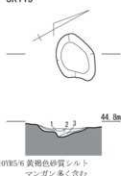
1. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト 10YR5/4 に近い黄褐色土多く含む 鉄分・炭化物少し含む φ2～7 mm 礫少し含む
2. 10YR5/8 黄褐色砂質シルト 10YR5/4 に近い黄褐色土少し含む 鉄分少し含む φ2～10 mm 礫少し含む
3. 10YR5/8 黄褐色砂質シルト 10YR5/4 に近い黄褐色土わずかに含む 鉄分多く含む マンガン多く含む
φ2～4 mm 礫少し含む

SK113・114



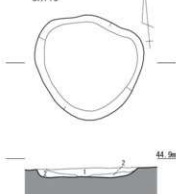
1. 7.5YR5/6 明褐色砂質シルト 10YR5/3 に近い黄褐色土少し混じる
炭・鉄分わずかに含む
2. 7.5YR5/6 明褐色砂質シルト 10YR6/8 明黄褐色土を多く含む
鉄分少し含む 10YR5/3 に近い黄褐色土わずかに含む
3. 10YR4/6 褐色砂質シルト 10YR5/3 に近い黄褐色土少し含む
マンガン少し含む φ2～3 mm 礫含む
4. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト やや粘性あり 10YR4/6 褐色土多く含む
マンガンわずかに含む 炭化物あり φ3～5 mm 礫わずかに含む
5. 10YR5/6 黄褐色シルト やや粘性あり 10YR2/6 明黄褐色土多く含む
マンガンわずかに多く含む 炭化物少しあり

SK115



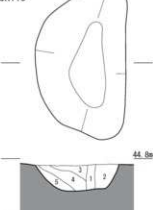
1. 10YR5/8 黄褐色砂質シルト
マンガン多く含む
φ2～4 mm 礫含む
2. 10YR5/6 黄褐色シルト 炭化物あり
7.5YR5/6 明褐色土少し含む
φ1～3 mm 礫わずかに含む
3. 10YR4/6 褐色砂質シルト
10YR6/8 明黄褐色土少し含む
マンガン多く含む

SK116



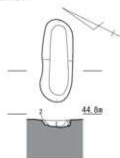
1. 10YR5/8 黄褐色砂質シルト
10YR5/4 に近い黄褐色土少し含む
鉄分少し含む φ2～10 mm 礫少し含む
φ1.5～2 cm 礫多く含む
2. 10YR5/8 黄褐色砂質シルト
10YR5/4 に近い黄褐色土わずかに含む φ2～4 mm 礫少し含む
鉄分多く含む マンガン少し含む

SK119



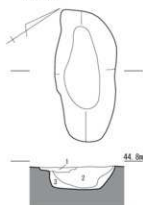
1. 7.5YR4/6 褐色シルト 10YR4/4 褐色土少し含む
鉄分・炭化物少し含む(堀による擾乱)
2. 10YR5/6 黄褐色砂質シルト
10YR4/3 に近い黄褐色土少し含む
3. 10YR5/8 黄褐色砂質シルト
10YR4/3 に近い黄褐色土少し含む
4. 10YR6/6 明黄褐色シルト 炭わずかに
10YR5/8 黄褐色シルト 10YR5/8 明黄褐色土が多く混じる
10YR4/3 に近い黄褐色土少し含む 4 種の土少し混じる

SK123



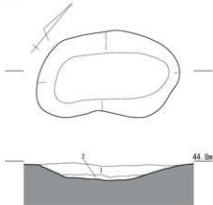
- 10YR5/6 黄褐色砂質シルト
マンガン少し含む
10YR4/4 褐色土多く含む
- 10YR5/6 黄褐色砂質シルト
マンガン多く含む
10YR6/8 明黄褐色土少し含む

SK124



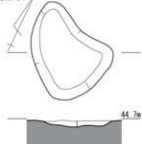
- 10YR4/6 褐色砂質シルト 10YR5/4 に近い黄褐色シルトを少し含む 鉄分わずかに含む
φ2 ~ 3mm 粒わずかに含む
- 10YR5/6 黄褐色シルト 磁化ややあり
炭化物わずかに含む 10YR5/4 に近い黄褐色シルトを少し含む φ2 ~ 4mm 粒少し含む
- 10YR5/8 黄褐色砂質シルト 10YR5/4 に近い黄褐色シルトを少し含む 鉄分わずかに含む
炭化物・マンガンもわずかに含む

SK159



- 10YR6/8 明黄褐色細砂～細砂質シルト 空隙あり
ややゆるい 10YR5/1 褐色土 細砂～
シルトブロック少量混じる
- 10YR6/8 明黄褐色細砂～シルト ややゆるい

SK161



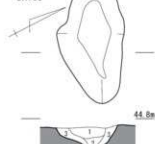
- 10YR4/3 に近い黄褐色細砂～細砂質シルト
炭化物混じる 空隙あり

SK164



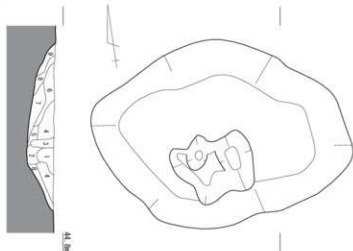
- 10YR5/3 に近い黄褐色細砂～細砂質シルト
φ2 ~ 5mm 程度の磁石混じる
- 10YR5/4 に近い黄褐色細砂混じりシルト
ややしめる 炭色化
- 10YR5/6 黄褐色細砂～細砂質シルト
やや空隙あり やや炭色化

SK165



- 10YR4/3 に近い黄褐色細砂～シルト
φ2 ~ 5mm 程度混含む
マンガン粒目立つ やや硬
- 10YR5/4 に近い黄褐色シルト質細砂
～細砂 空隙あり ややゆるい
マンガン粒目混じる
- 10YR5/6 黄褐色細砂～細砂質シルト
やや空隙あり

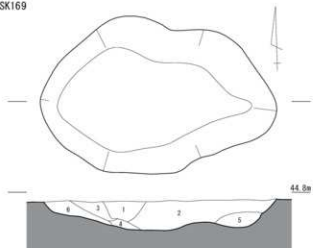
SK167



- 10YR5/8 黄褐色細砂～細砂質シルト ややゆるい
10YR5/4 に近い黄褐色細砂～シルトブロック混じる
- 10YR4/6 褐色細砂～シルト 空隙多い ゆるい
- 1層のブロック混じる
- 10YR4/2 灰黄褐色細砂～シルト ゆるい やや暗色化
- 10YR4/3 に近い黄褐色細砂～シルト ややしめる
炭化物粒わずかに含む やや暗色化
- 10YR6/6 明黄褐色細砂～シルト ややしめる
- 10YR5/6 黄褐色 細砂質シルト やや固くしめる
下部にマンガン粒目混
- 5YR4/6 赤黄褐色細砂～シルト ややしめる
- 10YR5/8 黄褐色砂質シルト 1層のブロック混じる
- 10YR4/4 褐色中砂～シルト 1層のブロック混じる
ややしめる

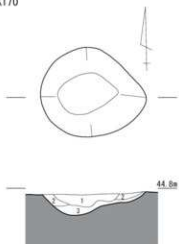


SK169



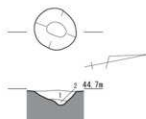
1. 101K5/3 黄褐色細砂～細砂質シルト 空層やや多い ややゆるい
101K4/2 黄褐色細砂～シルトブロック少量混じる φ1～5mm程度散見含む
2. 101K6/8 明黄褐色細砂～シルト 3層のブロックと 101K5/1 褐色色細砂～シルトブロック、5・6層・地山のブロックが混在する
3. 101K5/6 黄褐色シルト質細砂～細砂 101K5/1 褐色色細砂～細砂状に含む
4. 101K5/8 黄褐色細砂～シルト 101K5/1 褐色色細砂～シルトブロック混じる やや固くしまる
5. 101K5/8 黄褐色細砂～シルト 7層のブロックと 101K5/1 褐色色細砂～細砂ブロックが混じる 空層あり ややゆるい
6. 101K5/8 黄褐色細砂～シルト 101K5/1 褐色色細砂～シルトブロック混じる やや固くしまる

SK170



1. 7.101K5/6 明褐色細砂質シルト 粘性あり φ1～5mm程度散見含む
2. 101K5/8 黄褐色細砂～細砂質シルト
3. 101K6/6 明黄褐色細砂～細砂質シルト

SK176



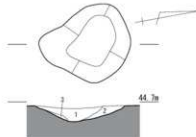
1. 101K5/4 に近い黄褐色細砂～細砂質シルト 空層あり ややゆるい 顕色化 炭化物を含む
2. 101K5/6 黄褐色シルト質細砂～細砂

SK180

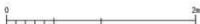


1. 7.101K5/8 明褐色砂質シルト 101K5/4 に近い黄褐色土少し含む 鉄分少し含む φ2～15mm程度多く含む
2. 7.101K5/6 明褐色砂質シルト 粘性ややあり 鉄分・マンガン少し含む φ2～4mm程度含む
3. 7.101K5/6 明褐色砂質シルト 101K6/6 明黄褐色シルトを多く含む 鉄分・マンガン多く含む φ2～30mm程度少し含む

SK178



1. 101K5/4 に近い黄褐色細砂～細砂質シルト 空層あり ややゆるい φ5～10mm程度散見含む
2. 101K6/8 明黄褐色細砂～シルト
3. 101K5/6 黄褐色細砂～シルト

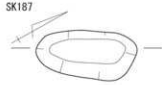


SK181



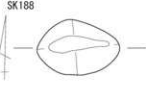
1. 10%5.6 黄褐色細砂～細砂質シルト
空腔あり ややゆるい
φ1～30mm程度散在含む

SK187



1. 10%5.4 に近い黄褐色細砂～シルト
空腔あり ゆい 褐色化
2. 10%5.8 黄褐色細砂～細砂質シルト
ややしまる 褐色化
3. 10%5.6 黄褐色細砂～細砂質シルト
ややしまる 褐色化

SK188



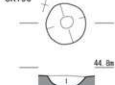
1. 10%4.2 灰黄褐色細砂質シルト
空腔多い 褐色化 2・3層のブロック散在
2. 10%5.6 黄褐色シルト質細砂～細砂 やや固くしまる
5mm以下程度散在含む やや褐色化
3. 10%5.8 黄褐色シルトブロックが 10%5.1 褐色細砂～
シルトブロックと混じる 4層に比べて空腔多い
4. 10%5.8 黄褐色シルトブロックが散在 空腔少なく
やや固くしまる

SK191



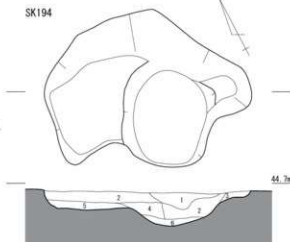
1. 10%6.8 明黄褐色 シルト質細砂～細砂
褐色化

SK196



1. 10%5.8 黄褐色細砂～細砂質シルト
空腔あり 褐色化

SK194



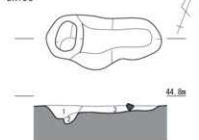
1. 10%5.4 に近い黄褐色細砂～細砂混じりシルト ややしまる やや褐色化?
2. 10%5.4 に近い黄褐色細砂～細砂混じりシルト 空腔少しあり
10%4.1 褐色細砂～細砂ブロック散在含む やや褐色化?
3. 10%5.8 黄褐色細砂～シルト やや固くしまる φ1～5mm程度散在含む
10%4.1 褐色細砂～シルト和泥目立つ
4. 10%5.6 黄褐色シルト質細砂～細砂 1cm大程度塊1点含む
5. 10%5.8 黄褐色シルト質細砂～細砂
10%4.1 褐色色砂質シルト ブロック～和泥散在含む
6. 10%5.6 黄褐色細砂～シルト ややゆるい

SK195



1. 10%5.4 に近い黄褐色中砂～細砂混じり極細砂～シルト
空腔あり φ1～10mm程度1点含む

SK198



1. 2.0%6.8 明黄褐色シルト質細砂～細砂 空腔多、褐色化
φ30mm程度1点含む
2. 2.0%6.8 明黄褐色細砂～細砂質シルト 粘性あり
褐色化 ややゆるい
3. 10%5.6 黄褐色細砂～シルト やや固くしまる
φ30～50mm程度1～2点含む

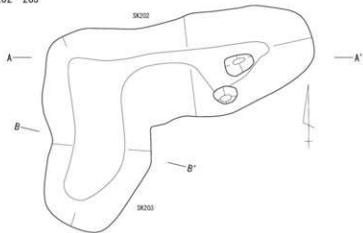
SK201



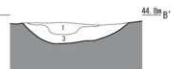
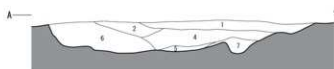
1. 7.0%4.6 褐色細砂～シルト ややゆるい
10%5.1 褐色シルトブロック底状に散在
2. 10%5.4 に近い黄褐色細砂～シルト ややゆるい わずかに褐色化



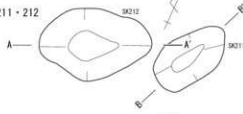
SK202・203



1. 10YR5/3 に近い黄褐色細砂～細砂質シルト
マンガン粘着層 やや暗色化強い
2. 10YR5/6 黄褐色細砂～シルト ややしまる
3. 10YR5/6 黄褐色細砂～細砂質シルト
5層のブロック状になる（下面に多い）
部分的に粒状になる ややゆるい
4. 10YR5/8 黄褐色細砂～細砂質シルト
ややゆるい
5. 10YR5/4 に近い黄褐色細砂～細砂質シルト
ややしまる 粘性あり
6. 10YR5/6 黄褐色細砂～細砂質シルトブロック
10YR5/1 褐色細砂～シルトブロック
10YR6/6 明黄褐色細砂～シルトブロック
が混じる
7. 10YR5/4 に近い黄褐色細砂～シルトブロック
10YR5/1 褐色細砂～シルトブロック混じる
ややしまる



SK211・212

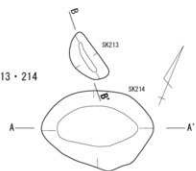


1. 10YR4/8 褐色細砂～シルト 空隙あり ややゆるい
2. 10YR5/4 に近い黄褐色細砂～シルト 淡色化
3. 10YR5/1 褐色細砂～シルトブロック状になる マンガン粘着層わずかに沈着
4. 10YR5/6 黄褐色細砂質シルト おおむかに空隙あり淡色化
5. 10YR5/1 褐色細砂～シルトブロック状になる マンガン少量沈着



1. 10YR5/8 黄褐色シルト質細砂～細砂 φ1～2cm大円礫極微量含む
2. 10YR6/8 明黄褐色細砂～シルトブロックと 10YR5/1 褐色細砂～シルトブロックが混じる やや空隙あり ややゆるい
3. 10YR5/6 黄褐色シルト質細砂～細砂 空隙あり ややゆるい

SK213・214



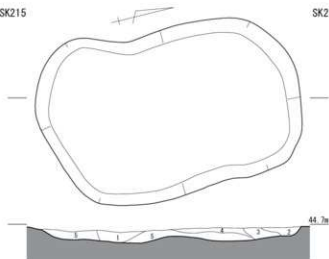
1. 10YR5/4 に近い黄褐色細砂～シルト ややしまる
2. 10YR5/6 明黄褐色細砂～シルトブロックと 10YR6/1 褐色細砂～シルトブロックが混じる
3. 10YR6/6 明黄褐色細砂～シルト ややしまる 淡色化
地山層のブロック少量混じる



1. 10YR5/4 に近い黄褐色細砂～シルト
空隙あり ややゆるい 暗色化

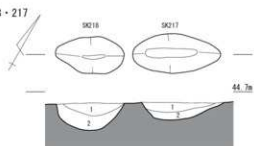


SK215



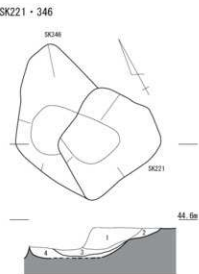
1. 10YR5/4 に近い黄褐色シルト質極細砂～細砂 空隙多い ややゆるい
10YR5/1 黄褐色極細砂～細砂ブロック状になる
2. 10YR5/6 黄褐色極細砂～細砂質シルト 一部暗色化 空隙あり 厚1～3mm程度層を含む
3. 10YR5/4 に近い黄褐色極細砂～シルト 空隙あり 10YR5/1 黄褐色極細砂～シルトブロック状になる
4. 10YR5/8 黄褐色極細砂～シルト ややゆるい 炭化物を含む
5. 10YR5/6 黄褐色シルト質極細砂～細砂 ややしまる 10YR5/1 黄褐色極細砂～シルトブロック状になる

SK218・217



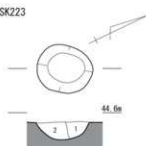
1. 10YR5/4 に近い黄褐色極細砂質シルト やや空隙あり ややゆるい 炭色化
2. 10YR5/6 黄褐色極細砂～シルト 1層より空隙少ない 炭色化

SK221・346



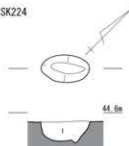
1. 7.5YR4/4 褐色極細砂～細砂質シルト
2. 5YR5/2 灰褐色シルトブロック状を含む
10YR5/1 黄褐色極細砂～シルトブロック状を含む
2. 7.5YR4/6 褐色極細砂質シルト やや固くしまる
2. 7.5YR5/2 灰褐色シルトブロック状状を含む
2. 7.5YR6/6 褐色極細砂～シルト やや淡色化 ややゆるい
4. 5YR5/6 明赤褐色極細砂～細砂質シルト ややゆるい

SK223



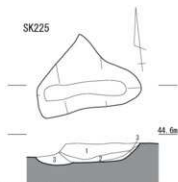
1. 10YR5/3 に近い黄褐色極細砂～細砂質シルト
10YR4/4 褐色シルトブロックを含む
空隙あり やや暗色化
2. 10YR5/6 黄褐色極細砂～シルト 空隙あり
10YR5/1 黄褐色極細砂質シルトブロック状になる
粘性あり

SK224



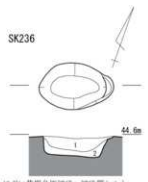
1. 10YR5/6 黄褐色シルト質極細砂～極細砂 空隙あり ややゆるい

SK225



1. 10YR5/3 に近い黄褐色極細砂～細砂質シルト
10YR4/4 褐色シルトブロックを含む
空隙あり やや暗色化強い
1. 10YR5/6 黄褐色極細砂質シルト 粘性あり
10YR5/1 黄褐色極細砂～シルトブロックわずかに含む
2. 7.5YR5/6 明赤褐色極細砂質シルト
10YR5/1 黄褐色極細砂～シルトブロック状状を含む

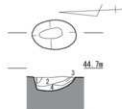
SK236



1. 10YR5/4 に近い黄褐色極細砂～細砂質シルト 粘性あり
2. 10YR5/6 黄褐色極細砂～極細砂固りシルト ゆるい 粘性あり 3層のブロック状状を含む

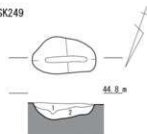


SK238



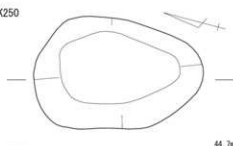
1. 10YR5.6 明褐色シルト質細砂～細砂
空腔あり 粘性あり
2. 10YR5.3 に近い黄褐色シルト質中砂～細砂
空腔あり ゆるい 粘り？
3. 10YR6.8 明黄褐色極細砂質シルト
粘性あり ゆるい
4. 10YR5.8 黄褐色シルト質細砂～細砂
粘性あり ゆるい

SK249



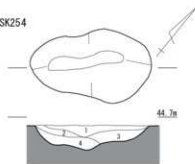
1. 10YR5.4 に近い黄褐色極細砂～シルト
10YR4.1 褐色極細砂質シルト
ブロック含む 粘性あり ゆるい
2. 10YR4.4 褐色極細砂～シルト 粘性あり

SK250



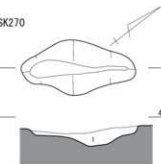
1. 10YR5.6 黄褐色細砂～極細砂質シルト 空腔多い 粘性あり
ゆるい やや褐色化
10YR5.1 褐色極細砂～シルトブロック段状に混ざる
2. 10YR5.8 黄褐色極細砂～細砂質シルト ややしまる
10YR4.1 褐色シルトブロック段状に含む

SK254



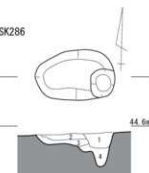
1. 10YR6.8 明黄褐色極細砂質シルト
粘性あり 自然堆積？
2. 10YR4.4 褐色極細砂質シルト 粘性あり
3. 10YR4.6 褐色極細砂質シルト 粘性あり
4. 10YR4.4 褐色極細砂質シリシルト 粘性あり
ゆらぎ 部分混濁

SK270



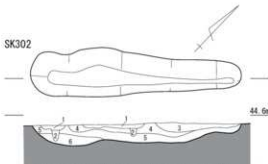
1. 10YR5.6 黄褐色極細砂～細砂質シルト
ゆるい 粘性あり 10YR5.2 灰黄褐色
極細砂～細砂ブロック断層を含む

SK286



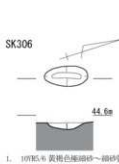
1. 10YR6.2 灰黄褐色シルト質極細砂～細砂 やや固くしまる
10YR5.3 に近い黄褐色極細砂～シルトブロック
10YR3.3 暗褐色極細砂～細砂ブロック含む
2. 10YR6.2 灰黄褐色シルト質極細砂～細砂
3層と地山層ブロックあり
3. 10YR4.6 褐色極細砂～細砂質シルト ややしまる
10YR5.1 褐色極細砂～細砂ブロック断層混ざる
4. 10YR3.3 暗褐色シルト質極細砂～細砂ブロックと
地山層のブロックが混ざる 空腔多い

SK302



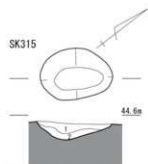
1. 10YR5.3 に近い黄褐色極細砂～細砂質シルト やや褐色化
2. 10YR4.2 灰黄褐色極細砂～シルト 空腔多い 粘り？
3. 10YR5.4 に近い黄褐色極細砂～細砂質シルト やや褐色化強い
4. 10YR6.4 に近い黄褐色極細砂～シルト やや粘性あり
5. 10YR5.8 黄褐色極細砂～細砂質シルト ややしまる
6. 10YR5.6 黄褐色 3層のブロック混じる極細砂質シルト

SK306



1. 10YR5.6 黄褐色極細砂～細砂質シルト

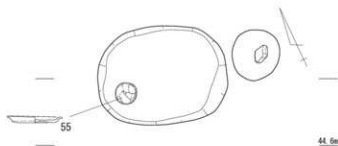
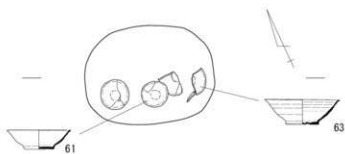
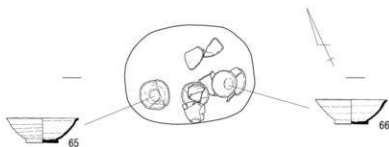
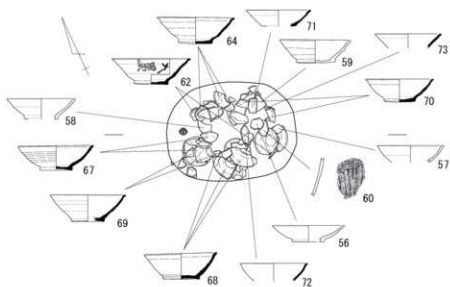
SK315



1. 10YR6.6 明黄褐色極細砂質シリシルト
粘性あり 0.5～10mm断層数を含む
2. 10YR5.6 黄褐色極細砂～シルト 粘性あり



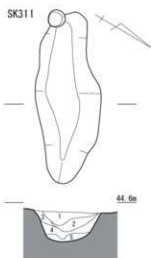
SK300



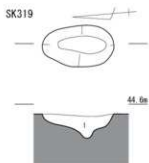
1. 10YR6.6 明黄褐色シルト質礫砂～細砂 2層のブロック状になる炭化物含む
2. 10YR2/3 黄褐色粘土質シルト 4層のブロック状になる土器片・炭化物含む
3. 10YR4/4 桃色シルト質礫砂～細砂 10YR6/4 に近い黄褐色粘土質砂～細砂ブロック状になる 土器片・炭化物含む
4. 10YR5/4 に近い黄褐色中砂質こり極細砂～細砂



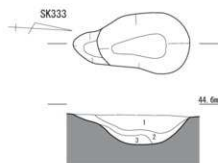
C地区土坑(10)



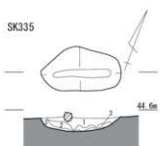
- SK311 44.6m
- 109K5-3 におい、黄褐色シルトブロック裏じり中砂～極細砂 ややゆるい、マンガン粒多量含む
 - 109K5-3 におい、黄褐色細砂～極細砂質シルト ややゆるい
 - 109K5-4 におい、黄褐色シルト質中砂～極細砂 ややゆるい、空眼あり
 - 109K4-8 褐色極細砂～細砂シルトブロックが置る、ゆるい、褐色化
 - 109K5-8 黄褐色シルト質極細砂～細砂 ややゆるい、6層のブロック置じる



- SK319 44.6m
- 109K5-8 黄褐色極細砂～細砂質シルト ややゆるい、上方しまる 下方空眼見える



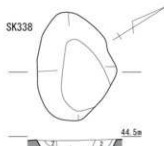
- SK333 44.6m
- 109K4-3 におい、黄褐色細砂～極細砂質シルト
 - 109K4-2 灰黄褐色シルトブロック置じる
 - 109K6-8 明黄褐色極細砂質シルト 粘性あり 自然堆積?
 - 109K5-6 黄褐色極細砂質シルト 粘性あり 4層のブロックを現状に含む 加工時形成層



- SK335 44.6m
- 109K5-3 におい、黄褐色細砂～細砂質シルトのブロックと 109K5-1 褐色シルト質極細砂～細砂ブロックが現状に置る 炭化物含む
 - 109K5-8 黄褐色極細砂～シルト ややゆるい、褐色化
 - 109K5-1 褐色極細砂～中砂ブロック幾量置じる
 - 109K5-6 黄褐色極細砂質シルト ややゆるい



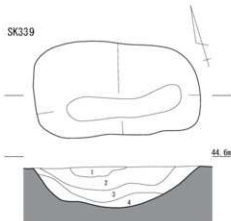
- SK337 44.6m
- 109K5-8 黄褐色細砂～極細砂質シルト 粘性あり



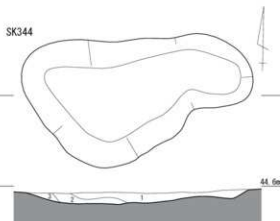
- SK338 44.5m
- 109K4-2 灰黄褐色細砂～細砂質シルトブロックと 109K5-1 褐色極細砂～細砂ブロックが現状に置じる 炭化物含む
 - 109K5-3 におい、黄褐色極細砂質シルト 粘性あり
 - 109K5-4 におい、黄褐色極細砂質シルト
 - 109K5-1 褐色シルトブロック少量含む
 - 109K5-4 におい、黄褐色極細砂質シルト 粘性あり ゆるい



- SK348 44.7m
- 109K5-8 黄褐色シルト質中砂～極細砂 ややゆるい

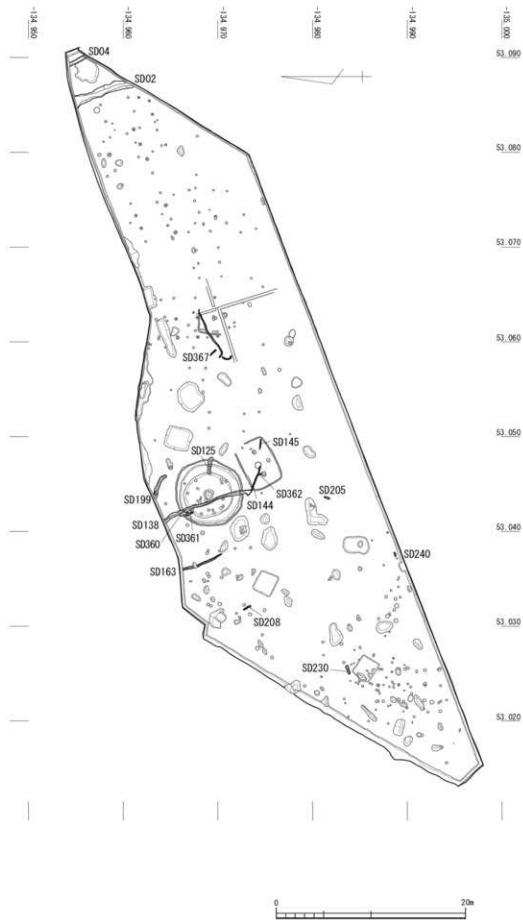


- SK339 44.6m
- 109K5-3 におい、黄褐色細砂～極細砂質シルト
 - 109K4-1 褐色シルト質中砂～細砂ブロック置じる
 - 109K4-2 におい、黄褐色細砂～極細砂質シルト
 - 109K4-2 灰黄褐色シルトブロック置じる 炭化物含む 土塊化
 - 109K6-8 明黄褐色極細砂質シルト 粘性あり 自然堆積? マンガン痕わずかに残る
 - 109K5-6 黄褐色極細砂質シルト 4層のブロックを現状に含む 数分底あり 粘性あり 加工時形成層

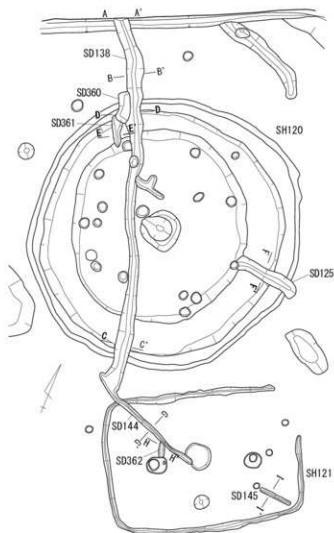


- SK344 44.6m
- 109K5-6 黄褐色極細砂～シルト ややゆるい、粘性あり わずかに褐色化
 - 109K5-1 褐色極細砂～シルトブロック少量置じる
 - 109K6-8 明黄褐色シルト 空眼あり ゆるい
 - 109K5-1 褐色シルトブロックわずかに置る
 - 109K5-6 黄褐色極細砂質シルト ややしまる

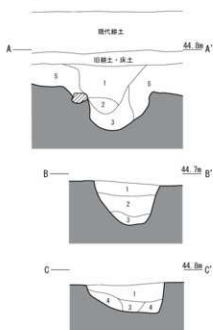




C地区沟位置图



SD138



1. 10185/6 黄褐色中砂～細砂ブロックと 10184/3 に近い黄褐色細砂ブロック混ざる マンガン粒沈着
2. 10184/6 褐色細砂～細砂 マンガン粒多数沈着 ややゆるい
3. 10185/6 褐色シルト質細砂～細砂 ややゆるい 淡色化
4. 10184/6 褐色細砂ブロックと 10185/6 黄褐色シルト質細砂～細砂ブロック混ざる ややゆるい 加工時形成土
5. 10184/6 褐色シルト～細砂 固くしまる

SD360

D ————— 44.8m D'



1. 10185/3 に近い黄褐色中砂混じりシルト質細砂～細砂 ややゆるい マンガン粒沈着
2. 10185/4 に近い黄褐色細砂～シルト質細砂～細砂 10185/1 褐色細砂～シルトブロック混じる

SD361

E ————— 44.8m E'



1. 10185/4 に近い黄褐色シルト質細砂～細砂 10185/1 褐色細砂～シルトブロック混じる ややゆるい

SD125

F ————— 44.8m F'



1. 10185/4 に近い黄褐色 10186/3 に近い黄褐色 10184/1 褐色シルト質細砂～細砂のブロック混状で混ざる

SD144

G ————— 44.8m G'



1. 10185/3 に近い黄褐色シルト質細砂～細砂 φ5mm 人等戸襷敷量含む マンガン粒沈着
2. 10185/8 黄褐色細砂～細砂質シルト ややゆるい 淡色化

SD362

H ————— 44.8m H'



1. 10185/3 に近い黄褐色シルト質細砂～細砂 φ5mm 大扉戸襷敷量含む マンガン粒沈着

SD145

I ————— 44.8m I'

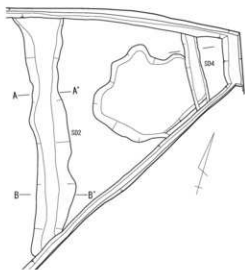


1. 10185/3 に近い黄褐色シルト質細砂～細砂 淡色化2部、炭化物含む
2. 10185/8 黄褐色細砂～シルト 淡色化2部、炭化物含む

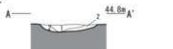


C地区溝(1)

SD2・4



SD2

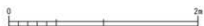


1. 2. 3YR4/4 オリーブ褐色砂質シルト マンガン、鉄分含む
わずかに粘性あり
2. 7. 5YR5/8 明褐色砂質シルト 少し粘性あり
3. 7. 5YR5/8 明褐色砂質シルト マンガン、鉄分多く含む

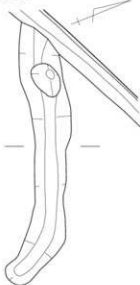
SD4



1. 7. 5YR5/6 明褐色砂質シルト マンガン少し含む わずかに粘性あり
2. 10YR4/6 褐色砂質シルト マンガン少し含む 炭化物わずかに含む
3. 10YR4/6 褐色砂質シルト 炭化物多く含む
10YR4/3 にごり黄褐色土わずかに含む 粘性強い

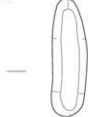


SD199



1. 10YR5/3 にごり黄褐色
粗砂～中砂混じり細砂
～シルト
5mm大礫混雑含む

SD205



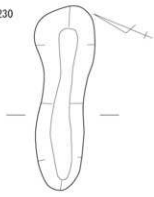
1. 10YR4/4 褐色シルト質中砂～極細砂
やや粘るい やや暗色化

SD208



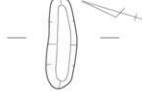
1. 10YR5/8 黄褐色極細砂～細砂質シルト
暗色化

SD230



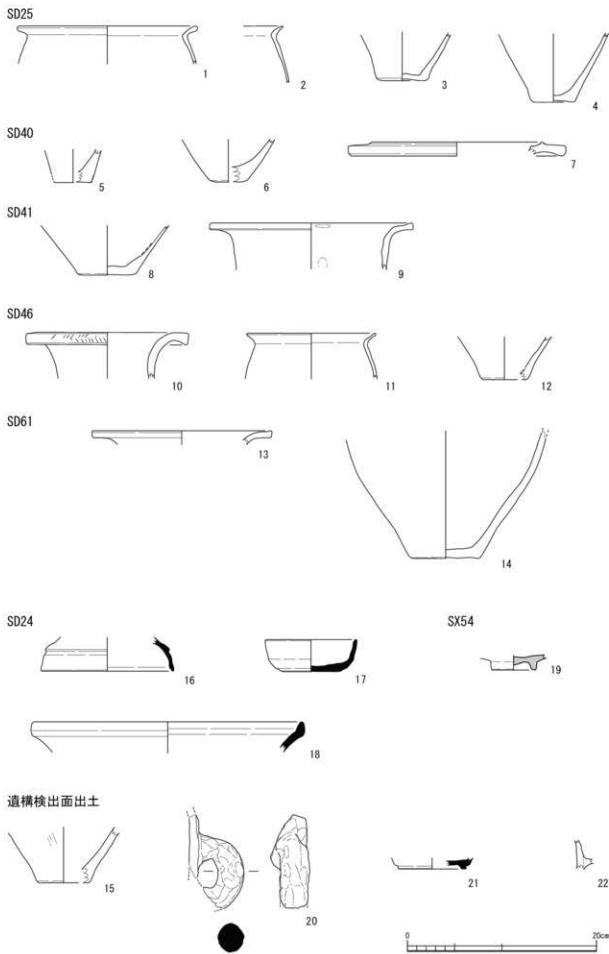
1. 10YR5/4 にごり黄褐色中砂～極細砂質シルト
粘性あり

SD240



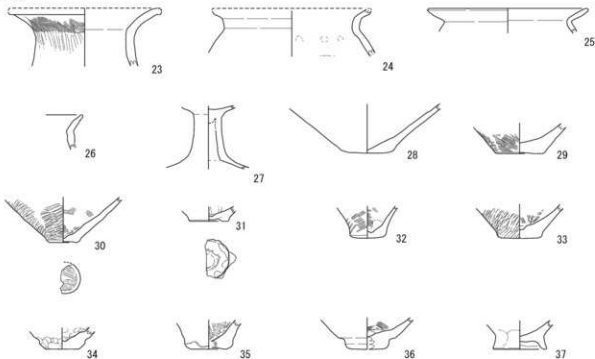
1. 10YR5/6 明黄褐色細砂～極細砂質シルト
ややしまる



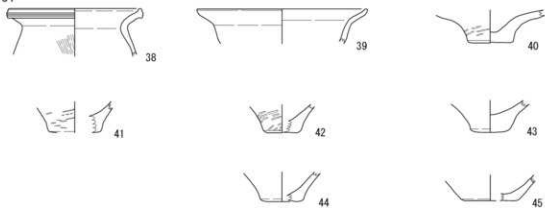


片山遺跡 A・B 地区出土遺物

SH120



SH131



SK43



SH 付近掘削時



包含層



SB6



53



54

SK300



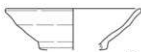
55



56



57



58



59



60



61



62



63



64



65



66



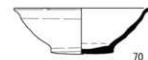
67



68



69



70



71



72



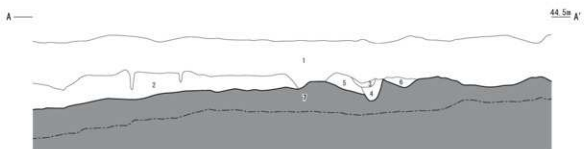
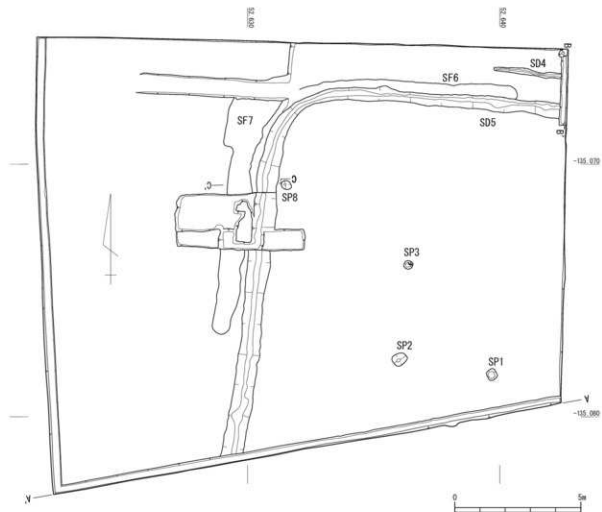
73

その他



75





1. 10TR4/1 褐色粘土質細砂 粘性強 しまりやや強 堆山の褐色っぽいブロックをまばらに含む 粘土
2. 10TR5/8 黄褐色凝岩整積の粗入土 粘性極強 しまりやや強
3. 10TR4/6 褐色シルト質極細砂 粘性極強 しまり強 $\phi 5\text{cm}$ の小礫含む SD5
4. 2.SI5/2 暗灰黄色シルト 粘性強 しまりやや強 $\phi 3\text{cm}$ 以下の小円礫含む SD5
5. 2.SI4/2 暗灰黄色細砂 粘性やや強 しまり弱
6. 10TR4/2 灰黄褐色細砂 $\phi 1\text{mm}$ 以下の粗砂含む 焼化物の集積をまばらに含む
7. 10TR5/6 黄褐色シルト質粘土 $\phi 2\text{mm}$ 以下の赤色ブロックを多く含む

皿辻遺跡 全体図・南壁断面図

SD4・SD5・SF6 調査区東壁断面

B

44.5m B'



1. 2.037/2 灰黄色粘土
2. 10306/6 明黄褐色シルト質細砂 φ1cm以下の棕色ブロック多量、φ2cm以下の白色砂少量含む 表面滑らかな土
3. 2.035/1 灰褐色粗砂質細砂 粘性弱 しまり弱 酸化鉄集積が一部に確認できる SD5
4. 2.036/2 灰黄色細細砂 粘性やや強 しまり極強
5. 10305/3 に近い黄褐色シルト質極細砂 粘性極強 しまりやや強
6. 10306/2 灰黄色細細砂 φ3cmの小礫まばらに含む マンガン混、酸化鉄の集積を多く含む 粘性弱 しまり極強 SD4
7. 10305/1 褐色細砂混じりシルト φ2cm以下の棕色ブロックやや多く含む 粘性極強 しまりやや強 SP6
8. 10306/6 明黄褐色シルト φ1cm以下の棕色ブロック、φ2cm以下の灰色ブロック多量含む 粘性やや強 しまりやや強
9. 10306/6 明黄褐色シルト φ1cm以下の棕色ブロック多量含む 粘性やや強 しまりやや強
10. 2.035/2 明黄褐色シルト 酸化鉄少量含む 粘性やや強 しまりやや強 粘みとか
11. 10306/9 明黄褐色粘土混シルト φ5mm以下の棕色ブロック多く含む 粘性極強 しまり極強

SD5・SF7 断面

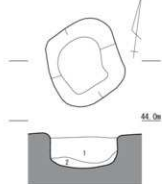
C

44.2m C'



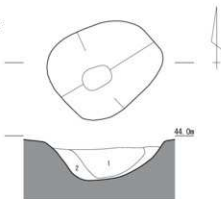
1. 10305/6 黄褐色細砂 φ5cm以下の棕色ブロックを多く含む φ7cm以下のやや大サイズの白色円礫をまばらに含む 粘性弱 しまり極強
2. 2.036/6 明黄褐色極細砂 粗砂まばらに含む 粘性やや弱 しまり極強
3. 10305/4 に近い黄褐色シルト質細砂 小礫まばらに含む 粘性極強 しまりやや弱
4. 10305/2 に近い黄褐色粗砂混じり細砂 酸化鉄の集積を多く含む 粘性やや弱 しまりやや強
5. 10305/4 に近い黄褐色シルト質極細砂 粘性極強 しまりやや強

SP1



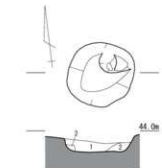
1. 10304/6 褐色砂混じりシルト～粘土 粗砂以下の砂粒を少量含む 上部に塊砂混や強く含む φ1cm以下の円～帯円礫をわずかに含む
2. 10305/6 黄褐色砂混じりシルト～粘土 以下の砂粒を少量含む φ3cm以下の円～帯円礫をわずかに含む

SP2



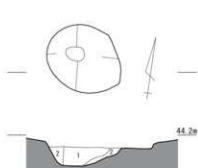
1. 10304/6 褐色砂混じりシルト～粘土 粗砂以下の砂粒を少量含む 上部に塊砂混や強く含む φ1cm以下の円～帯円礫をわずかに含む
2. 10305/6 黄褐色砂混じりシルト～粘土 以下の砂粒を少量含む φ3cm以下の円～帯円礫をわずかに含む

SP3



1. 10304/6 褐色砂混じりシルト～粘土 φ3cm以下の円～帯円礫を含む 粗砂以下の砂粒を少量含む 上部に塊砂混、2層との境界は比較的明確
2. 10305/6 黄褐色砂混じりシルト～粘土 粗砂以下の砂粒を少量含む

SP8



1. 10305/6 黄褐色砂混じりシルト～粘土 細砂～粗砂粒を少量含む 上部付近に塊砂の集積 2層との境界は断片的でやや不明瞭
2. 10305/6 黄褐色砂混じりシルト～粘土 粗砂以下の砂粒を少量含む φ3cm以下の風化が進行した円～帯円礫をわずかに含む
7. 50305/6 明褐色の風化部をパツ状に含む



写真図版

片山遺跡 A・B 地区



調査区全景（空中写真：南から）



調査区全景（空中写真：北東から）

片山遺跡 A・B 地区



B 地区全景（空中写真：東から）



B 地区全景（空中写真：北から）

片山遺跡 A・B 地区



A 地区全景（空中写真：北から）



A 地区全景（空中写真：西から）

片山遺跡 A・B 地区



A 地区全景（西から）



A 地区東壁断面（西から）

片山遺跡 A・B 地区



B 地区全景 (南から)



B 地区全景 (北から)

片山遺跡 A・B 地区



B 地区掘立柱遺構群（南から）



B 地区掘立柱遺構群（北から）

片山遺跡 A・B 地区

B 地区南壁断面
(北東から)



B 地区南壁断面西端
(北から)



B 地区西壁断面南端
(東から)



片山遺跡 A・B 地区



SD40 西壁断面
(東から)



SD41 西壁断面
(東から)



SD41 東西断面
(南西から)

片山遺跡 A・B 地区

SD41 下底焼土核出土状況
(東から)



SD41 遺物出土状況
(西から)



SD46 西壁断面
(南東から)



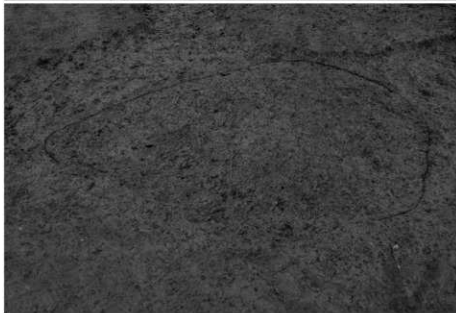
片山遺跡 A・B 地区



SD46 遺物出土状況
(西から)



SD46A 断面 (南西から)



SD46B 検出状況
(南西から)

片山遺跡 A・B 地区



SD46B 断面
(南東から)



SD61 東西畦西半
(南から)



SD61 東西畦東半
(南から)

片山遺跡 A・B 地区



SD25 遺物出土状況
(北西から)



SD25 断面 (北西から)



SK26 断面 (北西から)

片山遺跡 A・B 地区



SK30 断面 (南西から)



SK30 断面 (南東から)



SK30 完掘状況 (北東から)

片山遺跡 A・B 地区



SX1 西側断面（南東から）



SX1 東側断面（南東から）



SD48（左）・SD49（右）
断面（北東から）

片山遺跡 A・B 地区



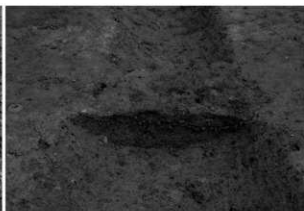
SK12 断面 (北東から)



SD2 断面 (西から)



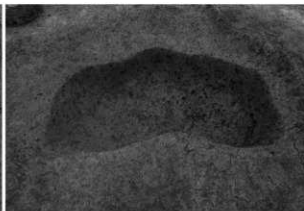
SD29 断面 (東から)



SD51 断面 (西から)



SX62 検出状況 (東から)



SX62 完掘状況 (西から)

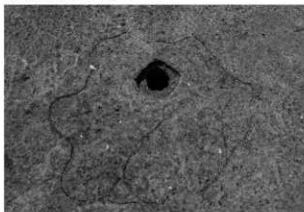


SX62 断面 (南から)



SP67 断面 (北から)

片山遺跡 A・B 地区



SD41 焼土検出状況（西から）



SD41 焼土断面（西から）



作業状況



作業状況



作業状況



作業状況



作業状況

片山遺跡 C 地区



C地区遠景（空中写真：東から）



C地区全景（空中写真：東から）

片山遺跡 C 地区



C地区全景（空中写真：北から）



C地区全景（空中写真：北西から）

片山遺跡 C 地区



C地区垂直写真（左が北）

片山遺跡 C 地区



調査区全景（西から）

片山遺跡 C 地区



C 地区全景 (東から)



C 地区東半竪穴建物群付近 (西から)

片山遺跡 C 地区



SH120・SH121 検出状況 (北西から)



SH120・SH121 検出状況 (南から)

片山遺跡 C 地区



SH120・SH121 完掘状況 (南から)



SH120 完掘状況 (南から)

片山遺跡 C 地区

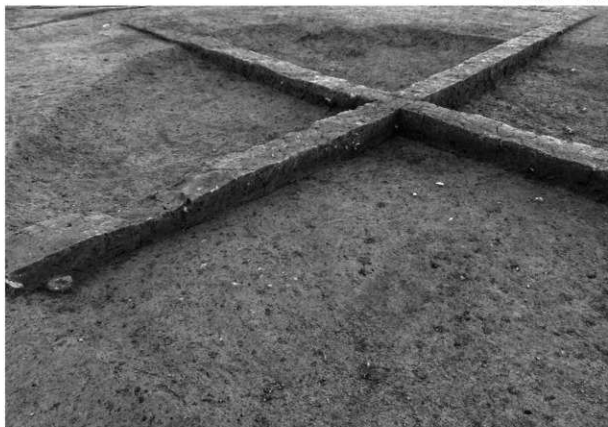


SH120 高床部除去後（南から）

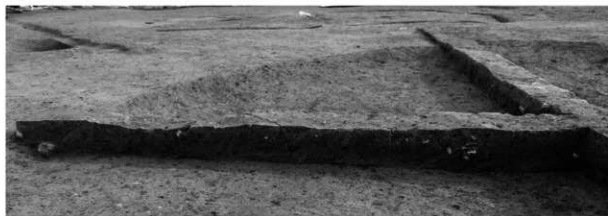


SH120 下層完掘状況（南西から）

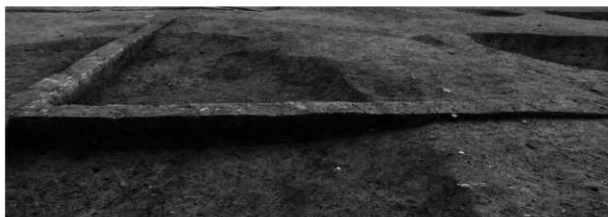
片山遺跡 C 地区



SH120 東西断面（北から）



SH120 東西断面東半（北から）



SH120 東西断面西半（北から）

片山遺跡 C 地区



SH120 下層東西断面 (床面・高床部断ち割り：北から)



SH120 下層東西断面東半 (床面・高床部断ち割り：北から)



SH120 下層東西断面西半 (床面・高床部断ち割り：北から)

片山遺跡 C 地区

SH120 床面遺物出土状況
(東から)



SH120 中央土坑検出状況
(東から)



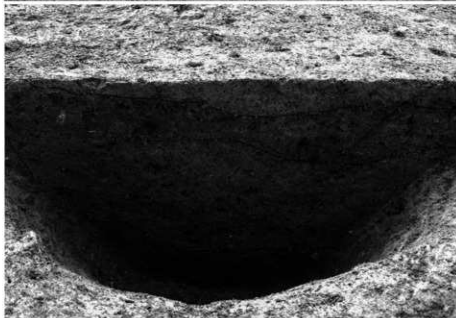
SH120 中央土坑焼土
検出状況 (東から)



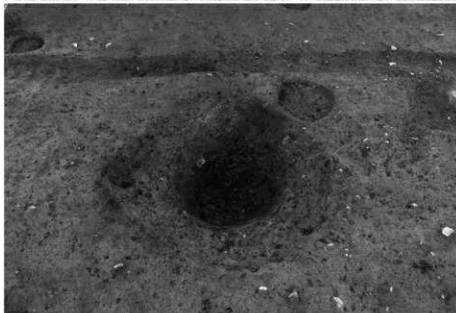
片山遺跡 C 地区



SH120 中央土坑断面
(東から)



SH120 中央土坑断面
(東から)



SH120 中央土坑完掘状況
(東から)

片山遺跡 C 地区



SH120 焼土断面 (西から)



SH120 東西断面東側周壁溝断面 (北から)



SH120 東西断面西側周壁溝断面 (北から)



SH120 P378 断面 (東から)



SH120 P381 断面 (西から)



SH120 P384 断面 (東から)

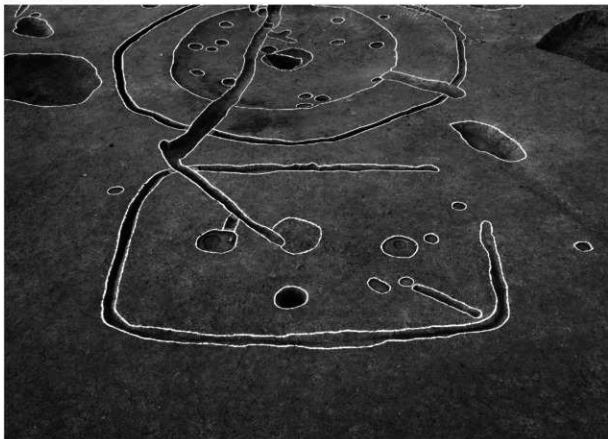


SH120 P384 遺物出土状況 (北東から)



SH120 P408 断面 (西から)

片山遺跡 C 地区



SH121 完掘状況 (南から)



SH121 周壁溝北側断面 (東から)



SH121 中央土坑 SK146 焼土断面 (西から)



SH121 P149 断面 (南から)



SH121 P152 断面 (南から)

片山遺跡 C 地区



SD138 と SH120 の重複関係 (南から)



SD138 断面 (南から)



SD138 断面 A-A' (南から)



SD138 断面 B-B' (南から)



SD138・SH120 断面 (北から)



SD145 断面 (西から)



SD362 (北から)

片山遺跡 C 地区



SH131 全景 (東から)



SH131 西側周壁溝断面① (南から)



SH131 西側周壁溝断面② (南から)



SH131 北側周壁溝断面 (西から)

片山遺跡 C 地区

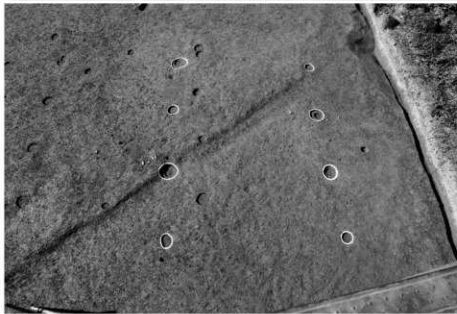
SB1・SB3 (東から)



SB1 (西から)



SB2 (東から)



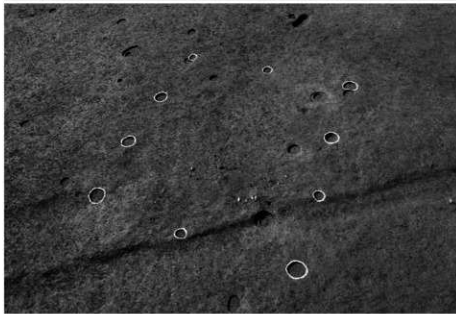
片山遺跡 C 地区



SB3・SB4 (東から)



SB3 (西から)



SB4 (東から)

片山遺跡 C 地区

SB5・SB6 (東から)



SB5 (東から)



SB6 (東から)



片山遺跡 C 地区



SB7 (西から)



SB8 (北から)



SB1 P15 断面 (南から)



SB1 P22 断面 (南から)

片山遺跡 C 地区



SB2 P33 断面 (南から)



SB2 P33 遺物出土状況 (南から)



SB2 P73 断面 (南から)



SB2 P80 断面 (南から)



SB3 P8 断面 (南から)



SB3 P375 断面 (南から)



SB4 P47 断面 (東から)



SB4 P79 断面 (南から)

片山遺跡 C 地区



SB5 P72 断面 (南から)



SB5 P99 断面 (南から)



SB6 P77 断面 (東から)



SB6 P96 断面 (西から)



SB7 P174 断面 (西から)



SB7 P175 断面 (西から)



SB8 P297 断面 (南から)



SB8 P317・316 断面 (南から)

片山遺跡 C 地区



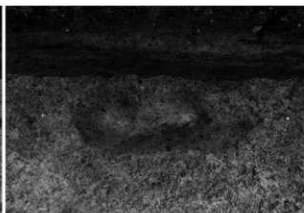
SK1 断面 (北西から)



SK1 完掘状況 (南から)



SK45 断面 (北から)



SK45 完掘状況 (北から)



SK46 断面設定状況 (西から)



SK46 完掘状況 (西から)

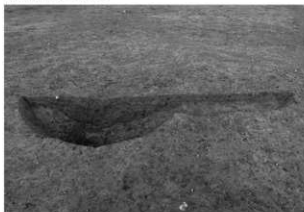


SK104 断面 (西から)



SK112 完掘状況 (南から)

片山遺跡 C 地区



SK113・114 断面 (南から)



SK113・114 完掘状況 (南から)



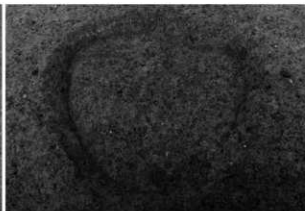
SK115 断面 (東から)



SK115 完掘状況 (東から)



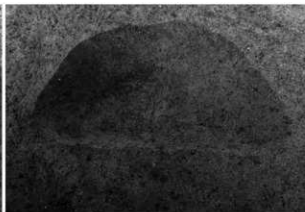
SK118 断面 (南から)



SK118 完掘状況 (南から)



SK119 断面 (西から)



SK119 完掘状況 (南から)

片山遺跡 C 地区



SK123 断面 (西から)



SK124 断面 (東から)



SK159 断面 (南東から)



SK159 完掘状況 (南から)



SK161 断面 (南から)



SK164 断面 (南から)



SK165 断面 (東から)



SK167 完掘状況 (西から)

片山遺跡 C 地区



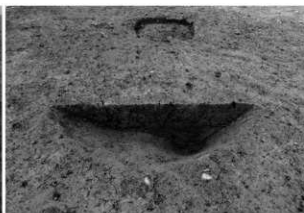
SK167 断面 (西から)



SK169 断面 (南から)



SK170 断面 (南から)



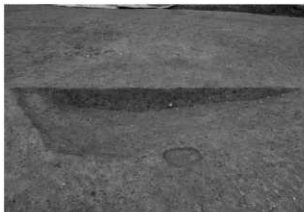
SK176 断面 (東から)



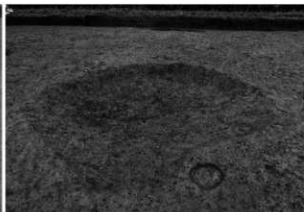
SK178 断面 (東から)



SK178 完掘状況 (東から)



SK180 断面 (南から)



SK180 完掘状況 (南から)

片山遺跡 C 地区



SK181 断面 (南西から)



SK181 完掘状況 (南西から)



SK187 断面 (東から)



SK187 完掘状況 (東から)



SK188 断面 (南から)



SK188 完掘状況 (南から)



SK191 断面 (南から)



SK191 完掘状況 (南から)

片山遺跡 C 地区



SK194 断面 (南から)



SK194 完掘状況 (南から)



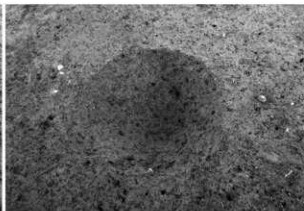
SK195 断面 (西から)



SK195 完掘状況 (西から)



SK196 断面 (南から)



SK196 完掘状況 (南から)



SK198 断面 (南から)



SK198 完掘状況 (北から)

片山遺跡 C 地区



SK202・SK203 断面 (南から)



SK202・SK203 断面 (南から)



SK202・SK203 完掘状況 (南から)



SK211 断面 (南東から)



SK212 断面 (南から)



SK212 完掘状況 (南から)

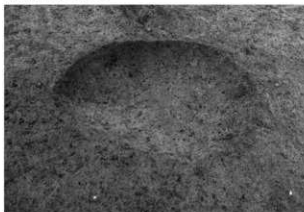


SK213 断面 (南西から)



SK214 断面 (南から)

片山遺跡 C 地区



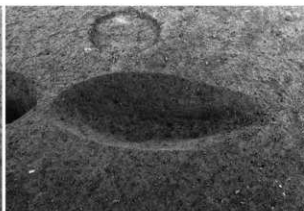
SK214 完掘状況 (南から)



SK215 断面 (東から)



SK217 断面 (南から)



SK217 完掘状況 (南から)



SK218 断面 (南から)



SK218 完掘状況 (南から)



SK221 断面 (南西から)

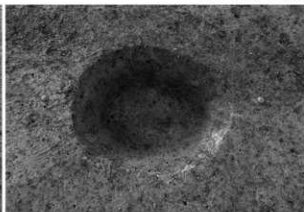


SK221 完掘状況 (南西から)

片山遺跡 C 地区



SK223 断面 (東から)



SK223 完掘状況 (東から)



SK224 断面 (南から)



SK224 完掘状況 (南から)



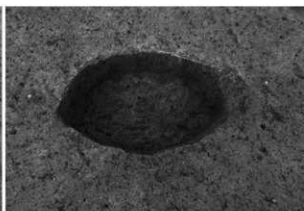
SK225 断面 (南から)



SK225 完掘状況 (南から)



SK236 断面 (南から)

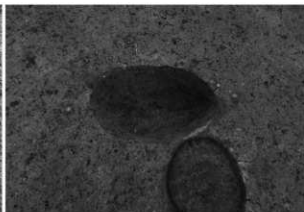


SK236 完掘状況 (南から)

片山遺跡 C 地区



SK238 断面 (西から)



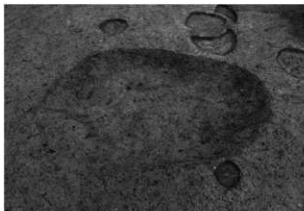
SK238 完掘状況 (東から)



SK249 断面 (北から)



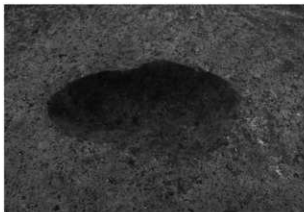
SK250 断面 (西から)



SK250 完掘状況 (西から)



SK254 断面 (南から)



SK254 完掘状況 (南から)



SK270 断面 (南東から)

片山遺跡 C 地区

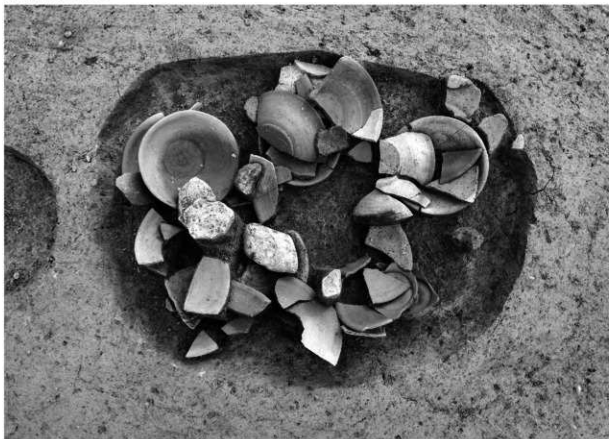


SK300 検出状況（北から）



SK300 遺物出土状況および上層部分断面（南から）

片山遺跡 C 地区



SK300 上層遺物出土状況（北から）



SK300 上層遺物出土状況（西から）

片山遺跡 C 地区



SK300 遺物出土状況（北から）



SK300 下層断面（北から）

片山遺跡 C 地区



SK300 下底部遺物出土状況（北から）



SK300 完掘状況（北から）

片山遺跡 C 地区



SK302 断面 (南から)



SK302 完掘状況 (南東から)



SK306 断面 (東から)



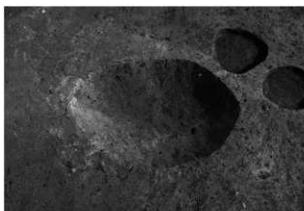
SK311 断面 (東から)



SK311 完掘状況 (西から)



SK315 断面 (南東から)



SK315 完掘状況 (南東から)



SK319 断面 (西から)

片山遺跡 C 地区



SK319 完掘状況（西から）



SK333 断面（東から）



SK333 完掘状況（東から）



SK335 断面（南から）



SK335 完掘状況（南東から）



SK337 断面（北から）



SK338 断面（東から）



SK338 完掘状況（東から）

片山遺跡 C 地区



SK339 断面 (南から)



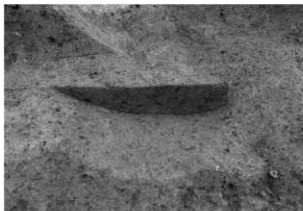
SK339 完掘状況 (北から)



SK344 断面 (南から)



SK344 完掘状況 (東から)



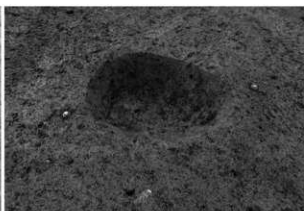
SK346 断面 (南西から)



SK346 完掘状況 (南西から)



SK348 断面 (南東から)

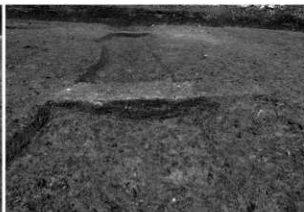


SK348 完掘状況 (南東から)

片山遺跡 C 地区



SD2 北側断面 (南から)



SD2 南側断面 (南から)



SD4 断面 (南から)



SD205 断面 (南から)



SD208 断面 (南から)



SD230 断面 (西から)



SD240 断面 (西から)

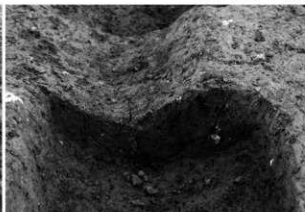


SD356 断面 (西から)

片山遺跡 C 地区



SD358 断面 (南から)



SD367 断面 (南から)



SX103 断面 (西から)



SX103 完掘状況 (西から)

片山遺跡 A・B 地区



片山遺跡 A・B 地区出土遺物 (1)

片山遺跡 A・B 地区



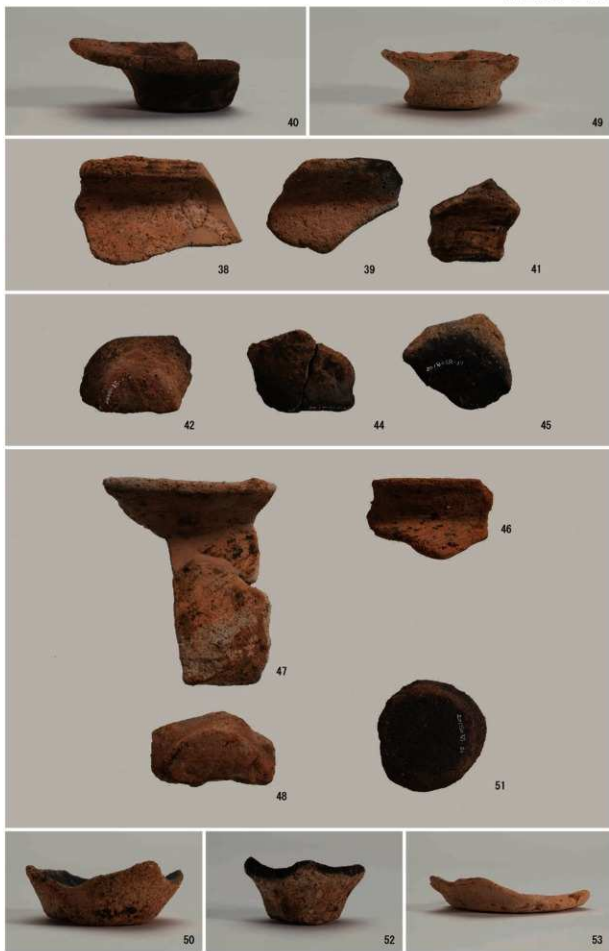
片山遺跡 A・B 地区出土遺物 (2)

片山遺跡 C 地区



片山遺跡 C 地区出土遺物 (1)

片山遺跡 C 地区



片山遺跡 C 地区出土遺物 (2)

片山遺跡 C 地区



片山遺跡 C 地区出土遺物 (3)

片山遺跡 C 地区



片山遺跡 C 地区出土遺物 (4)

皿辻遺跡



調査区全景（空中写真：南から）



調査区全景（空中写真：東から）

血辻遺跡



調査区全景（空中写真：北から）



調査区全景（空中写真：西から）

皿辻遺跡



完掘状況（西から）



完掘状況（北から）

血辻遺跡



調査区南壁断面
(北東から)



調査区南壁断面
(北から)



調査区南壁断面
(北から)

血辻遺跡



調査区南壁断面
(SD5 部分：北から)



SD4・SD5 検出状況
(西から)



SD5 検出状況 (西から)

血辻遺跡



SD4・SD5 東壁断面
(西から)

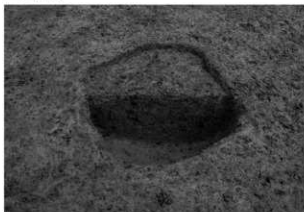


SD5・SF7
(北から)



SD5・SF7 断面 (北から)

皿辻遺跡



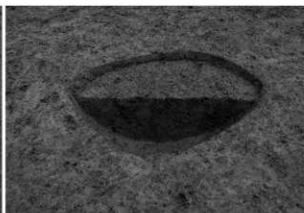
SP1 断面（南から）



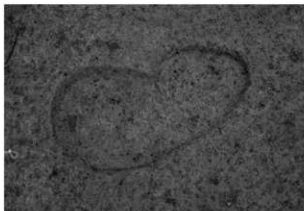
SP3 断面（南から）



SP2 検出状況（東から）



SP2 断面（南から）



SP8 検出状況（南から）



作業状況



作業状況



作業状況

報告書抄録 (Outline of the Report)

ふりがな	かたやまいせき・さらつじいせき			About the Report	
書名	片山遺跡・血辻遺跡			Excavation report of the Katayama and Saratsuji archaeological site	
副書名	東播磨南北道路北工区（主要地方道加古川小野線）道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書			Report of the Archaeological Sites of Hyogo prefecture vol. 533	
シリーズ名	兵庫県文化財調査報告				
シリーズ番号	第 533 冊			The Author/Editor : Hiroyuki Kubo	
編著者名	久保弘幸・大嶋昭海			Hyogo Construction Technology Center for Regional Development Archeological Research Department	
編集機関	公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部			Address : 1-1-1 Ōnaka, Harima-cho, Hyogo pref. Japan	
所在地	兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号（兵庫県立考古博物館内）				
発行年月日	2024（令和6）年 3月 25日			Publication : March 25, 2024	
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経
片山遺跡	兵庫県加古川市八幡町下村	市町村	遺跡番号	northern latitude	east longitude
血辻遺跡		28210	110644 110645	34° 46' 53" 34° 46' 51"	134° 54' 47" 134° 54' 29"
遺跡調査番号	調査の種別	調査期間		調査原因	
2017004 2017005 2018038	本発掘調査	2017/4/10～2017/8/10 2017/4/10～2017/8/10 2018/9/13～2019/1/25		東播磨南北道路北工区（主要地方道加古川小野線）道路改築事業	
遺跡の種別（片山遺跡）	集落・墓・生産	遺跡の時代		弥生時代（末）～古墳時代（初）・平安時代	
主な遺構・遺物	竪穴建物跡・方形周溝墓・掘立柱建物跡群・土坑・溝・耕作遺構 / 弥生土器・土師器・須恵器・石器				
遺跡の種別（血辻遺跡）	生産	遺跡の時代		江戸時代	
主な遺構・遺物	耕作遺構 / 陶磁器・須恵器・土師器				
要約	片山遺跡では、弥生時代の竪穴建物跡、方形周溝墓、平安時代の掘立柱建物跡群、土坑、溝が検出されたほか、江戸時代の耕作遺構が検出された。 血辻遺跡では、江戸時代末以降の耕作遺構が検出された。				
Abstract	At the Katayama site, the remains of 2 pit-dwellings from the end of Yayoi period, square grooved graves, a group of buildings with earthen post from the Heian period were discovered, as well as the remains of a farming structure from the end of Edo period. At the Saratsuji site, the remains of a farming structure from the end of the Edo period were discovered.				
Address of the site	Yahata-chō, Kakogawa-city, Hyōgo pref. Japan	Date of the Excavation	2017/4/10～2017/8/10 2017/4/10～2017/8/10 2018/9/13～2019/1/25		
Category	Settlement ruins, Grave ruins, Agricultural ruins	Archaeological Features	Yayoi period: Pit-dwellings, square grooved graves Heian period: A group of buildings with earthen post Edo period: Farming structures		
Period	The end of Yayoi period-early Kofun period, Late Heian period, Late Edo period	Main Relics	Yayoi pots, Sue ware, Haji ware, Ceramic ware		

兵庫県文化財調査報告 第533冊

加古川市

片山遺跡・皿辻遺跡

－ 東播磨南北道路北工区(主要地方道加古川小野線)道路改築事業に伴う発掘調査 －

2024(令和6)年3月25日 発行

編集：公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号(兵庫県立考古博物館内)

発行：兵庫県教育委員会
〒650-8567 兵庫県神戸市中央区下山手通5丁目10番1号

印刷：株式会社 ソーエイ
〒673-0898 明石市樽屋町6番6号
